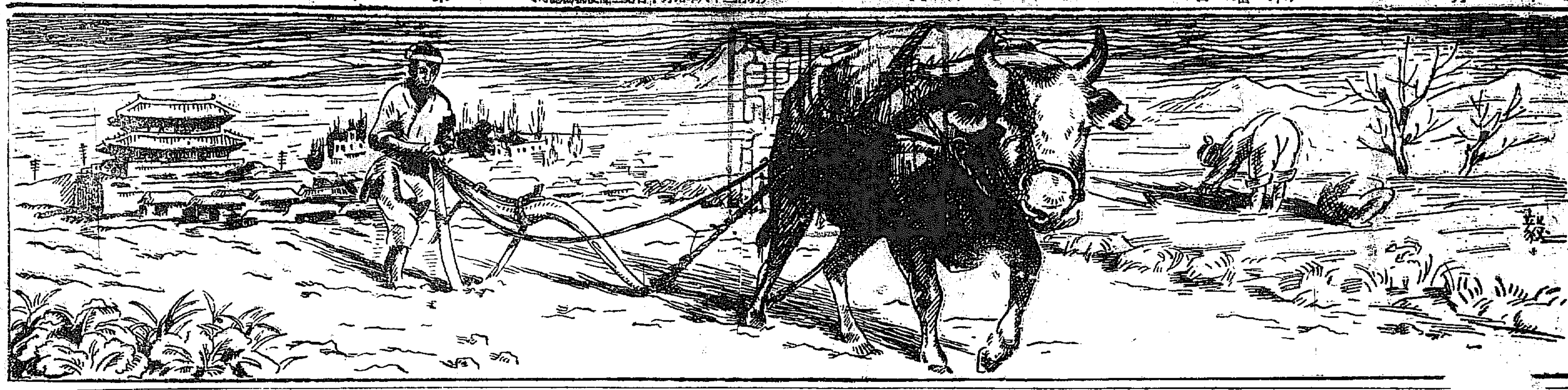


京城日報
本日二十頁
發行所 京城太平通一丁目 京城日報社

大正十四年を迎ふ

[illegible]の希望と祝福とを、[illegible]は凡ての翔過程の中から、我等は發見すべきである。それは困難な仕事でなく、寧ろ、新年の希望と祝福とに眼を蔽はうとする方が餘計な努力を要する。

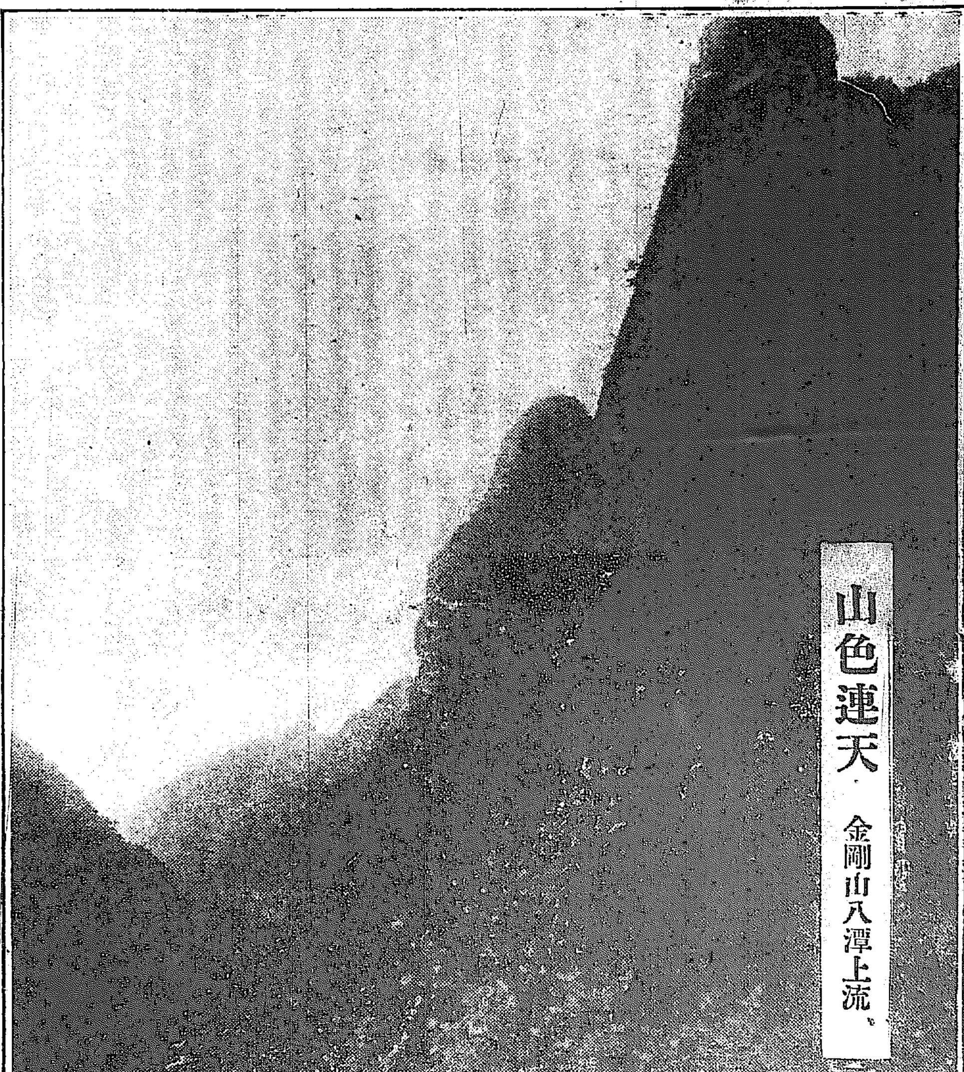
日本には力がある。未だ一杯に伸されてゐない力がある。その力を、如何に伸す。日本には望みがある。まだ多くを遂げられぬ望みがある。その望みを如何に遂げる。日本には惱みがある。まだ手術の下してない惱みがある。その惱みを如何に除かう。先づ是等のことを、自己の生活と緊密なる利害の綱に結びつけて、眞劍に考へる特權を與へられてゐるのは、廣義に於ける海外國民である。

向ふ三軒兩隣りで睨み合つてゐても、郷土觀念は潜在してゐるが、それが育てられるのは、他郷に出てゝ、郷土を戀ふる時である。我等は必しも、世界的に脉うち、世界的に呼吸する現代日本の思想的傾向を、一概に隠るものではない。それは時代病といへるかも知れぬが、決して凡庸な社會的醫者の手に掛つて何うなるものでもない。然し海外にある國民が、却つてその時代病に免疫性を有つてゐるのは何ういふ譯であらうか。論より證據、國家を負擔する意氣は、之を今日の內地人に發見するに稀れであるが、之を海外國民に見るのは、極めて普通である。

それは、海外にあつて、小さな內輪の階級爭鬪よりも大きな外輪の階級爭鬪を、見せつけられるからでないか。國民的の利害衝突よりも、國際的の利害衝突に直面してゐるからでないか。

社會思想家は曾て萬國の勞働者團結せよと宣言した。然し萬國の勞働者は、例令國家的支配を脱して團結しようとしても、人種的支配を脱して團結するとは出來ない。否歐洲大戰は、如上思想家の夢を見事に裏切つて、勞働者は國民的衝動のために戰つた。日本の知識階級が、焼と見ぬ振りをするに拘らず、國民的反撥傾向と人種的爭鬪觀念にも優して、戰後の世界を、不安と激動の渦中に陥らせてゐるものはないのである。さうして此の不安と激動の餘波を、どうしても蒙らない譯に行かない海外國民が、小さな小鬩合を苦々しく感ぜざるを得ないのは、極めて自然的であらう。

最近我國の民衆が、政治を經濟と引き離して考へぬ傾向の發生しつゝあるのは、彼等の思想が現實化しつゝあるものとして、寧ろ之を喜ぶべき理由がある。それは普選の實現が有望になつたために、今迄の空疎な社會運動の非を悟つたものであり、その方向轉換は軈て、國際經濟的の日本の地位に、彼等を眼覺しめる第一歩とならぬこともあるまいと思ふ。いふ迄もなく社會國家の進歩發展は、有機的成長でなければならぬ。木に竹をつぐ急激な變化は、社會國家の死滅を招くに外ならない。我等の遺憾とするのは、我國の智識階級が、新らしき國家觀念と舊式の帝國主義的傾向との間に劃する一線に氣付かず、それを一切時代錯誤として片つけて了ふことである。從つて彼等の言論には、現代日本の國際的地位に就て何等の殺鬣な考察がなく、何等の具體的論策がなく、その社會的缺陷を說き、國家的病弊を指摘するのは、歐米人が歐米の社會國家を舞臺として批判したものを、そのまゝ口眞似してゐるに過ぎない。我等は固より我國の一部に根强いところの極端な保守反動主義に左袒するものでないけれど、餘りに現實を無視した急進的な言論は、却つてさういふ保守反動傾向を反撥する作用しかないのである。國際政治の流れは、一片の諾を以て方向を下せられぬ。そこには多くの矛盾があるけれど、現代日本が國民的にも社會的にも堅實な步趨を以て進まねばならぬ立場に置かれてゐることは、多言を要しない。我等が新年に於て追求するのは、奇蹟ではなく、國家社會の有機的成長である。即ち新らしい日本の建設、新らしい朝鮮統治は、必しも人目を聳動するやうな有形的の施設や改革を要しない。我等は焦躁な植木師であつてはならぬ。過程を續けつゝ前途に希望の光を投げ、舊傳統を重んじつゝ行く手に新らしい方向を見つけるのが、新年の文化的意義ではあるまいか。



山色連天 金剛山八潭上流。

始政こゝに十有五年 一新紀元を劃する時機
あらゆる施設に對し積極的に進まう
朝鮮總督 男爵 齋藤實

大正十四年の新頭に立ちて七千萬同胞と共に聖代の新春を樂しみ寶祚の隆昌を祈り奉るは洵に欣喜の極である。惟ふに歐洲戰後の世界は混亂の狀態より年を逐うて漸く靜謐を見るに至り

平和の基礎將に確立せん

とする趨勢に在るは人類共同の慶福である、又西隣支那の政情も今や稍安定したるを以て是より益々日支親善の誼を保ち[illegible]

實に就き

堅實なる生活の基礎を築き以て國運の伸展に寄與せんとする國民の決心を持せなければならないのである。朝鮮は正に本年を以て始政十五年に達するのであるが顧みれば統治の貴ぶ所官民の協力に依り統治は漸次相當の成績を收め今や從來の施設に對し更に積極的に邁進し以て新紀元を劃するの時機に際會して居るのであるから[illegible]其効果を見なければ已まざるの意氣を以て之に當ることを[illegible]

山色天に連ると いふ氣分

を以て夫々事に從ひたいと思ふ。[illegible]

自分は現職に就いて以來

[illegible]

○ 儀式のやかましい、英國の教會ではこの頃の失業者の增加に鑑み、[illegible]がついて花婿の經濟上の負擔を輕くするため結婚式に指輪を必要としないことに決定した。

努めて華を去り

洋の和平を保障し其文化の進展を促進し得るの經路を辿りつゝあるは最も欣快とする所である、唯茲に遺憾とするは經濟不振の[illegible]

刻下の急務は 經濟振興の促進
輕佻浮華の弊習を去れ
政務總監 下岡忠治

大正十四年の新春を迎へ[illegible]

大に笑へ
農商務大臣 高橋是清

曾て伊太利の前首相ニッチ氏が講和會議に臨み巴里に滯在せる折り多數の新聞記者諸君に何諸せられ『今日の歐洲に於て何が一番必要と考へらるゝや』との質問を受け『余は今日の歐洲に取りて一番必要なる事は各國民が笑ふ事を覺ゆるに在りと思ふ』と答へたのであつた、蓋し數年に亘りし有史以來の大戰爭は各國民の氣力と財力とを消盡して余す所は只相手國に對する憎惡と利害の衝突のみであつた、戰後の歐洲各國民に取りては其政治上經濟上の建て直しを初めんとするに際し成る程一番必要なる事は一度び喪はれたる其笑ひを回復するにあつた事に相異ない、秩序の回復も經濟の復興も蓋し之より始まるのであつた、私は大正十四年の新春を迎ふるに當りニッチの此言に想到せざるを得ない

今日國家の前途は實に多事多難である政治上にも經濟上にも國民は非常なる眞劍味と大なる覺悟とを以て事に當らなければならぬのである、去りながら難局に逢著して失望落膽し呆然自失する様では駄目である、國民は一面に笑ひ得るの餘裕が必要であり、此餘裕ありて初めて前途に新生面が打開せらるゝに至るのである。

一例を申せば、今日は三派聯合內閣が成立して時局を收拾し改革施設を行はんとして居るのであるが、其三派が難問題に接して徒らに議論を鬪はすだけでは直ぐ行き詰つて了ふのである、議論は勿論必要である併しながら其議論の後には互に笑つて圓滿に納つてこそ聯合は愈々發展を加へ各自は一致の勇氣を鼓して君國の爲めに盡瘁し得るのである。

就中今日我國民が經濟上の難關を突破して一陽來復の彼岸に達せんが爲めには、上下一致非常なる國民的努力を要するのであつて、大震災の損失を回復する爲めにも輸入超過を防遏して輸出入の權衡を回復せしむる爲めにも、爲替相場を昂進せしむる爲めにも國民が眞劍に働くより外に手段は何もないのである、多く働き少しく消費する事だに忘れざれば個人としても國家としても富み且つ榮ゆるは疑ふの餘地なき所である、況して社會は時間的にも空間的にも相互扶持の關係を有する有機體である以上は、各人が分に應じ地位に從ひ出來得る限り働くと云ふ事は社會國家に對する責任であり、義務であらねばならぬ、而して此義務責任を果したる其際に人は眞に滿足を感ずるのであつて朝に夕に此滿足の笑みを洩し得た人は眞に幸であると思ふ、私は日本國民の大多數が此種の人たらんことを切望して、止まぬものである

京城日報を通じて 在鮮民衆に望む
協力一致國本を培へ
內閣總理大臣子爵 加藤高明

喜びに醉ひ

[illegible]

新に發展

[illegible]

此の難局

[illegible]

質實剛健の美風は 漸く廢れ

[illegible]

根本的施設に其力を盡し

[illegible]

山色連天
東京帝大教授 林學博士 薗部一郎

新年の歌御會始の御題は「山色連天」と仰出された。[illegible]山色に種々あり、それで私の解として何でも先づ分類して見る。曰く

第一は山骨 の山色である、[illegible]

第二の山色 は[illegible]

第三の山色 は山林の色[illegible]

文明の年齢 を表はすこ[illegible]

年頭吟詠

星加 鶴東

下田 歌子

中村 星湖

相馬 御風

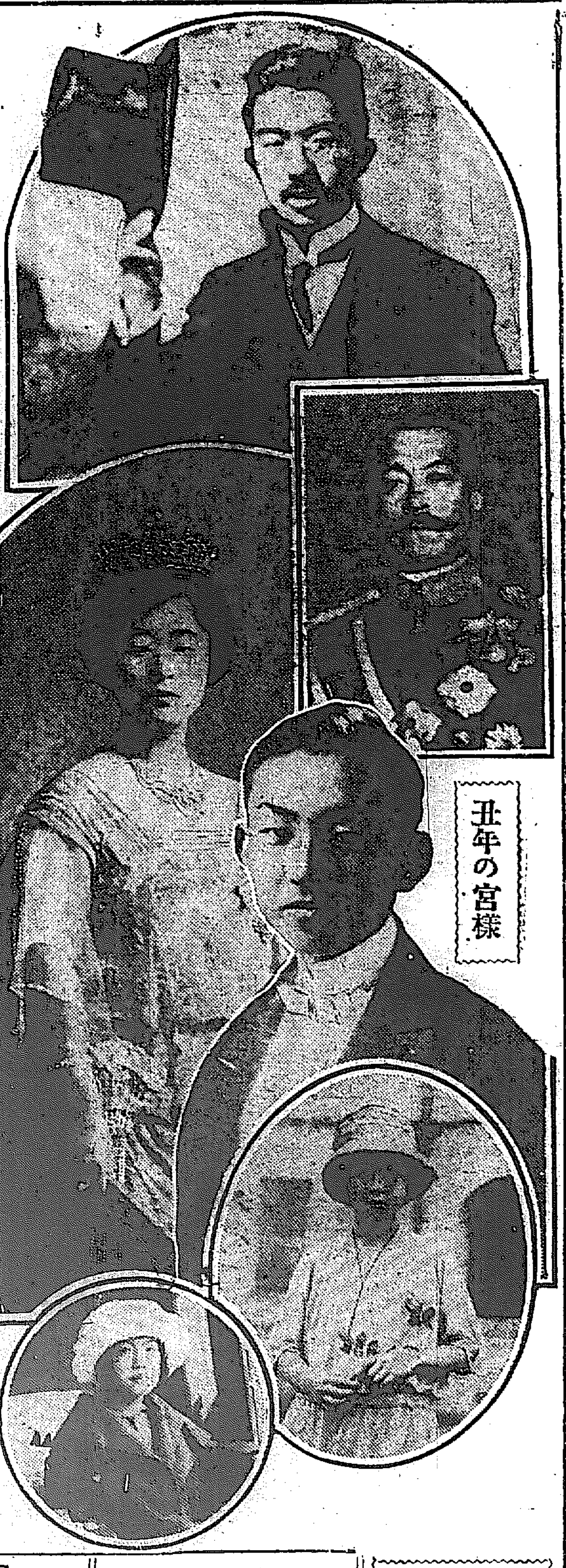
嵐谷 小波

臼田 亞郎

石丸 梧平

德富健次郎

[illegible]



丑年の宮様

上より
皇太子殿下
閑院宮載仁親王殿下
李王世子妃方子女王殿下
久邇宮朝融王殿下
竹田宮禮子女王殿下
北白川宮佐和子女王殿下

統一される皇室諸制令

時勢の進運に伴ふて

◇……制度審議會の大事業

【東京電話】現行の皇室諸制令は極めて多く皇室令に依るものは皇室登極令△攝政令△立儲令△皇室成年式令△皇室親族令△皇室祭祀令△皇室服喪令△皇室財産令△皇室會計令△天皇御服に關する件△皇族會議令△皇族身位令△皇族服喪令其他であるが宮内省では數年前から時勢の進運に伴ひ皇室諸制令を統一完成すべく大正五年帝室制度審議會を設置し幾多の難問題もあつたが種々の關係上數年間休會同樣であつた然るに最近に至り總裁伊東巳代治伯は以前からの委員倉富、富井、兩顧問官、二上帝室審議官、關屋宮内次官入江内大臣秘書官長の外新に西園寺公の國分元文部、平沼騏一郎顧問官、鈴木前法相諸氏を委員に任命し議事を進めてゐるが目下審議されてゐるのは陵墓令、皇統譜令、儀制令、皇族就學令、位階令其他三三の多數に上り何れも小委員會で精査の上總會に附議しつゝあり尚追々五公家規範と皇室會計令改正案等續々審議さるべく内皇室儀制令は旣に總會で可決されたから近く牧野宮相より上奏御裁可を仰ぎ御裁斷の上公布實施の筈であるが内容は現在の内規に依つて行はれてゐる親任式、賜謁、親授式及び軍旗親授式、公式國葬規定等の諸儀式を統一制定し一方時勢の進運に鑑み諸儀式を統一するもので同令の一大事業として茲一兩年間に皇室諸制令の完成を期する方針であると

銀婚式は 御質素に

天皇皇后兩陛下の御結婚は明治三十三年五月十日であるから本年は恰も滿二十五年の銀婚式に相當せらるゝも御政をおかせられてゐる事ではあり一方御質素の思召しから多分御祭典などの御催しは行はせられず御内宴の程度にとゞめさせらるゝ由拜承する

ケルン撤兵拒絶に 獨逸は不平を抱く

國際聯盟に抗議を提出して撤兵の期日明示を要求せん

【伯林二十八日發電】聯合國がケルン撤兵を拒絶せることに關し當地に於ては非常にこれを憂慮し右決定は倫敦會議の協定に基きて明年九月行はるべきルール撤兵をも拒絶せんとする前兆ならずやと云つてゐる殊に國粹派諸新聞紙はこれは獨逸の平和的規定不履行を口實としてルール地方に何時迄も軍隊を駐屯せしむる爲であると强硬に反抗の意を述べてゐる獨逸政府は目下大使會議からの通牒を待つてゐるが右通牒到着の上は政府は國際聯盟に抗議を提出してケルン及びルールから一齊に撤兵する確定的期日を明示せん事を要求するであらうと云ふ

倫敦各紙の態度 是非の論評を愼む

【倫敦二十八日發電】當地諸新聞紙は何れもケルン撤兵問題に關して論評を加へて居るが此に右の問題に對しては假に是非の論を爲すことを愼みこの際先づ武裝解除會の報告を待ち慎重なる態度を加へ讓としてゐる尤も中には精細と伴はざる武裝解除は危險であると危險を未然に回避するには撤兵の猶豫を要すと云ふ

もあるべきも、佛國新聞紙は旣に英國はみだりに撤兵に反對するものではない獨逸が誠意を以て武裝解除に努力して居ることを見屆ける上は速かにケルン撤兵を行はんとするものであると主張して居る、又一說には此問題の最後の解決は國際聯盟がライン問題を解決せざる限り不可能であらうと

マインツ占領は 軍事管理と 絶對的に必要

【ボルドー無電二十九日發】プチ・パリジアン紙は倫敦クオータリ・レヴユーに掲載された聯合國獨逸軍事管理委員英國代表モルガン將軍の寄稿を轉載したが之れに依れば聯合國委員のみの力にては獨逸の軍備增加に對抗することは不可能にてライン占領殊にマインツ占領は絶對的に必要である若し聯合國管理を廢し又はマインツ駐兵を減ぜば歐州の平和は只一年間保證されるのみであると

佛内閣を絶對信任 債務討論延期

【巴里二十九日發電】佛國下院は三百二十二票の絶對多數を以て聯合國戰時債務に對する討論を延期する件に付、エリオー内閣の信任案を通過した

新舊兩年に於ける 朝鮮鐵道事業(一)

總督府鐵道部長 弓削幸太郎

茲に大正十四年の新春を迎ふるに當り前年中に於ける朝鮮國私設鐵道事業の成績を回顧し併せて本年に於ける同事業一般の豫想を試みたい

一、鐵道建設

先づ建設事業としては大正十三年度の國有鐵道建設改良費豫算總額は一般財政の緊縮に伴ひ前年度より五百萬圓を減じて一千萬圓となり前年度に比し事業の減少を見るの已むを得ざるものありしも國有鐵道の建設として當面の急務たる咸鏡線の伸長には極力意を用ゐたる結果從來の成果を合せて、十三年十月には同線中南部線に於て退潮陽化間の三十六哩一分と、中部線に於て端川吉州間の五十二哩七分と、北部線に於て朱乙水南間の二十二哩五分との合計百十一哩三分の新線を開業することを得た一年内に百哩以上の新線開通を行ひたるは、大正二年に於て湖南線を全通し京元線を略完成したる年度以來始めての成績にして、之を以て咸鏡線は全延長の七割强を竣成し殘す所は百一哩餘となり又國有鐵道營業線の全延長は千三百哩三分に達することゝなつた

次に私設鐵道に在りては財界不況の際に拘らず努めて事業の進展を圖り、その十三年中に新に投資したる金額は約八百萬圓に及び國有線建設費と略同額に上り、同年中に開業したる新線は朝鮮鐵道會社の黄海線花山未力間の五哩慶北線金泉尚州間の二十二哩四分及尚州店村間の十四哩八分此の合計四十二哩二分あり其外金剛山電氣鐵道會社の鐵原金化間十七哩九分及圖們鐵道會社の鐘城潼關鎭間の四哩九分ありて、之等を合せて六十五哩の開通を見ることを得た之が爲に十三年中に新に開業したる國私兩鐵道の哩數は百七十六哩三分に上るの盛況を呈し、朝鮮に於ける國私鐵道總哩數は千六百九十八哩五分に達することゝなつた。而して本十四年中に開通を豫ぶべき國私鐵道の區間は豫算及資金の關係上未だ明確に豫想する事を得ないが國有鐵道としては工事施行の狀況上咸鏡南部線の陽化俗厚間八哩八分に止まり、私設鐵道としては、朝鮮鐵道會社の慶南線北晋州晋州間二十五哩二分黄海線未力新院間六哩新院下聖間三哩二分及金剛山電氣鐵道會社の金化金城間十三哩八分は少くも本年中に開業を見得るの豫想である

撤兵問題の意見は

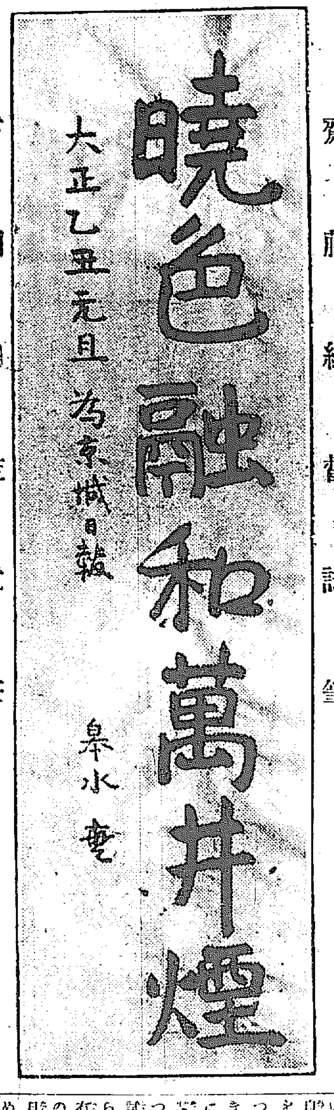
數日中に一致點を見出されやう 日露交渉愈よ有望

【北京二十九日發電】日露會議は二十九日午後五時より四時間に亘り露國大使館にて開かれカラハン氏は前日日本の提出した案に就き口頭にて露國側の主張を述べたる會議の經過は一般的に良好であるが撤兵問題は意見の一致を見ないが併し數日中には一致點を見出すべき可能性ある事を露代表より兩國政府に報告する筈である三十日は日本公使館にて撤兵問題に付き會議を開く筈である

貿易通報員 特設國略決定

【東京電話】今回の行政整理の結果農商務省嘱託として海外市場に貿易通報員約十餘名を置く事になつた而して先般來人選中の處現地方に都合よき人物を得られず未だ設置場所は具體的決定を見ないが大體左の國に一名乃至二名を特置する方針であると

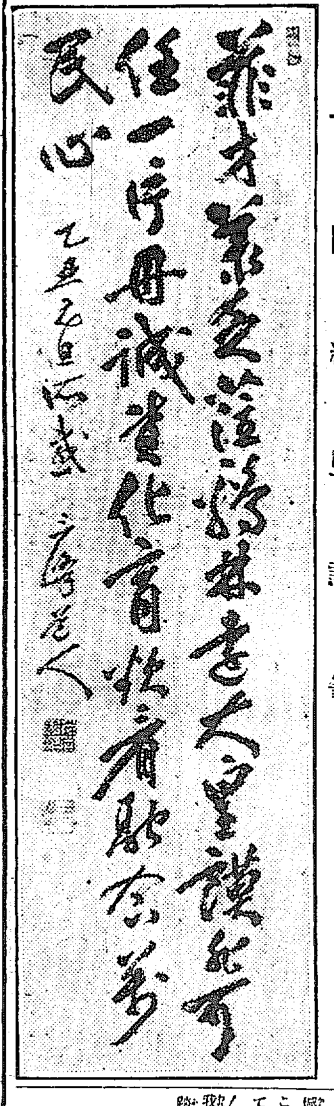
南洋印度、波斯、阿弗利加、南米、加奈陀、濠洲北歐



曉色融和萬井煙

大正乙丑元旦 為京城日報 皐水 書

齋藤總督試筆



下岡總監試筆

時事漫畫(一) 大野靜方

直通航路開始 清津東京間

【清津特電】會寧林業坑木輸秋田太郞氏は今回北洋商船より汽船北成丸（千五百噸）を傭船し清津東京間直通の航路を開始することゝなり第一航海は三十日清津を解纜し東京に向つた第二回よりは清津より芝浦に直航の豫定であるが積荷は咸北石炭及木炭を東京に送る計畫であると

◇茶話◇

◇鷄鳴曉を告げて此處に我等は讀者と共に目出度き大正十四年一月一日を迎ふるに至つた▲紅日の開き、霄天の高き、敢て昨日に異る所なく、乾坤忽ちに變つたと云ふではない▲然しながら我等の衣は旣に春を迎へて鮮かに樹々の梢は旣に春を迎へて芳し▲誰か一月一日を迎へて毅然として大いに新ひ朗然として心新しきを欲しないものがあらうか▲此處に我々は自ら心頭めば光彩陸離として蒼穹を射り瑞雲天に漲り、瑞氣地に滿つを覺ゆるものである▲此の新しき年と共に吾が朝鮮も愈々新陳容によつて、朝鮮統治が進められ、其處に幾多の新しい試みは爲されつて居るので▲此の幾多の新しい試みが如何に案配されて行くであらうか、それは最も我々の興味を有する點であらねばならぬ▲一時の現象は朝にあり一年の計畫は元旦にあるのだ▲若水を酌み心を濯めた茶話子も茲に新に態度を濯めて、來るべき幾多の問題に對し些の遺憾なく操觚の天分を盡すであらうことを、大正十四年の第一日に於て讀者諸君に誓ふであらう▲いで／＼歲は新なり、人の心新なり、我等は飽まで力强く大正十四年を踏み織て行かねばならぬ。

天氣豫報（一日） 曇少雪

卅一日正午 攝氏零下一度二
同最高 攝氏二九度八
三十日最低 攝氏零下一〇度〇

孫氏入京 段氏の懇請で

【北京二十九日發電】孫文氏は段祺瑞氏の懇請に依り病を押して上京する旨通知して來たので政府は出迎ひに許世英氏を天津に派遣するに決した

謹賀新年

京城日報社
毎日申報社
社長 伯爵 副島道正
外社員一同

朝鮮運輸計算株式會社

京城黄州通二ノ二四 東洋畜産興業會社 電本五一七番

菓餅 京城本町一丁目 三好野本店 電話本局一二六五三番

株式會社 京城南大門通三丁目 明時堂 電本一二九一番

京城本町一丁目 江戸川 電話本局一四六九二八番

京城南山町 森辰男

和洋料理 京城南大門通四丁目 金蝶軒

平安南道 江西邑内有志

京城本町二丁目 井上履物店 電話本局一三七五番

舊年中之御厚情を謝し倍舊の御指導を祈る 京城府本町五丁目五二番地 愛知強業株式會社京城支店 同支店長 其員一同 電話本二三七六番

吳服綿布商 京城本町二ノ二 岩見寅次郎 電話二三三、二二三番

京城本町二丁目七三 支那ヒスイ店

株式會社 京城南山町一丁目 美術倶樂部 電話本局一三六〇番

京城龍山岡崎町 朝日石鹸株式會社

新年御芽出度申納めます本年も不相變丑年に因みて細長く御引立の程願上ます 黄金町二丁目角 日本生命ビルデング内 花月食堂 電本二一五七番

均質牛乳謝平素之御愛顧尚本年も相變らず御引立願上候 京城府東小門外（電話光） 總督府醫院特定市内各病院御用 平山牧場

朝鮮皮革株式會社 本社及工場 永登浦 販賣店 京城西大門通一ノ二〇 電話光化門一〇八二番

往十里 洋畫家 高木背水

京城 朝鮮名物料理元祖 食道園 朝鮮食料品品評會壹等賞受領 電話光四四局一五一七番

京城府本町二丁目一一〇番地 測量製圖器械 事務用文房具 紙類並印刷 町田吉太郎 電話本局三三〇八番

京城長谷川町八十四番地 古河電氣工業株式會社 京城出張所

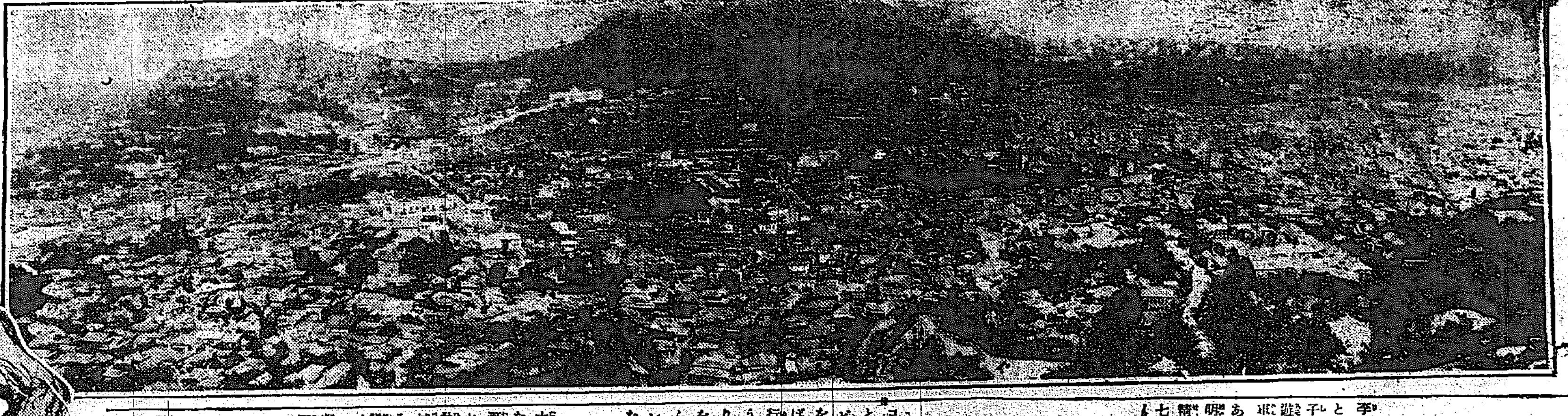
京城質商組合

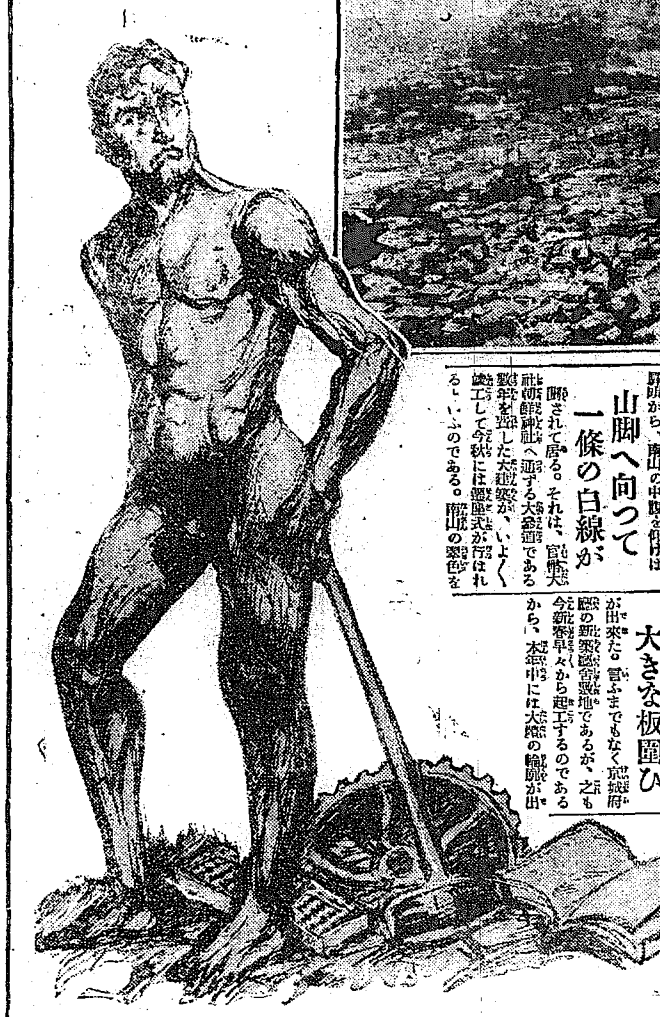
本町二丁目五三 開正舍工作所 電話三二二九番

京城府二村洞二九五番地 朝鮮天然氷株式會社 電話長龍山七四〇番

京城府鍾路一丁目五十五番地 帝國染料製造株式會社 京城出張所 電話長光化門九九五番

病氣引籠中ニ付缺禮可仕候 咸鏡北道穩城郡守 萬谷善之亟





御睦じき 王世子兩殿下

鮮語に上達遊ばされた 當り年の方子女王殿下

李王世子垠殿下には同妃方子殿下と共に麻布鳥居坂の高燥なる王世子御殿に御睦じき御日常をお過し遊ばされてゐる。殿下には目下陸軍大尉として參謀本部附の御職にあらせらるゝのであるが天資御英明御精勵の殿下には只管軍務に御勵あり毎朝午前六時頃御起床同七時頃妃方子女王殿下とお揃ひで

パンとミルク位の極く 簡單な朝食を 御召しになり

東京で發行の各新聞を御通覽遊ばされ八時頃金武官を隨へて聯隊に御出勤兵卒と共に教練に野外演習に些の御疲勞の色もなく御元氣に御勤め相成るのである。夕刻御邸に御歸還後は御打寛がせられて日本服に御召し替へ御入浴の上妃殿下と共に純日本料理の夕食を召されるのであるがそれより外國雜誌等を御覽になり九時頃御寢に就かせられるのである。殿下には明治四十一年故伊藤博文公御隨從御上京以來は全くの日本式御生活で近頃では御起居を始め御召しもの御言葉なども

全く内地風に 慣れさせられ

朝鮮より參殿せる者の外は何人に對しても日本語を以て御會話あり食物も純日本式のものとお定めになつて居る。妃殿下との御睦じさは拜察するだに恐れ多いが過ぐる年第一王子晋殿下を薨ぜられてより御世繼の御子なきことを御寂しく感ぜられつゝあると承はる。妃殿下には公式の外は殆ど御外出は無く侍女達を相手にお裁縫などを遊ばされ時には兩殿下お揃ひで新宿御苑でゴルフの御運動に打興ぜさせらるゝこともある。尚妃殿下には今年は丑歳の干支に當らせられてゐる兩殿下にはお正月の三ケ日も御參內其他で御多忙であらせられ

朝の御祝膳 は純日本式に

參賀の文武官等には御酒饌を賜はるのが宮家の吉例となつてゐる尚妃殿下には毎日御日課として朝鮮語の御習得を勵まれ近頃は日常の御會話は御不自由なき迄に御習得遊ばされたと承はる（東京電話）

朝鮮の首都として 伸び行くグレート京城

沈滯した灰色の都市から 塗り替へられる華やかな色彩

コンパスの一脚を假に南大門通りと黃金町の十字路、即ち日本生命ビルヂングの前に立て、他の一脚を以て大きく大京城の輪廓を描けば、先づ東へ東へと發展を張つて行く京城の姿が現はれて來るであらう。財界の不況や行政整理等の煽りを喰つて、幾分は多少の不自由を訴へたとしても、發展は年を逐ふて堂々たる威容を整へ、所謂グレート京城の色彩は益々鮮やかになつて行くのである

大正十四年の 京城は幾多の

大建築物の出現によつて、鮮やかな色彩を施し、古い灰色の都市が漸く新興文明の都會色に塗り替られたのである。先づ此の二三年來京城驛も此七月までの壽命である、その代り三百萬圓の巨費を投じた鮮滿第一の大京城驛が京城の玄關口に堂々たる偉容と、新裝の美を凝らして出現するのである。京城驛頭から、南山の中腹を仰げば

山脚へ向つて 一條の白線が

描かれて居る。それは、官幣大社朝鮮神社へ通ずる大參道である數年を費した大建築が、いよいよ竣工して今秋には鎮座式が行はれるといふのである。南山の翠色を背景として、朝鮮の守護神たる朝鮮神社の出現は、風致の上からも新しい喜びの一つであらねばならぬ。南大門から太平通りの方面を眺めると、

白堊の建物が 三角山を背景

として、クッキリと浮出してゐるのは來年度に竣工する總督府の新廳舍であるが、外觀は既に立派に竣成し、一部では既に事務を執つて居るのである。工費六百萬圓を投じた建築だけに、輪奐の美を盡して中央百八十尺の高塔は、巍然として大京城を睥睨して居るかの觀がある。而して、この本府移轉に伴つて各所屬官廳や官舍、及び關係會社等が次第に此方面に移動して行くことは明かで、本年からは、必ずさうした傾向を呈するに違ひない。大漢門前の廣場に面した曉ち元京城日報跡には、

木の香新しい 大きな板圍ひ

が出來た。言ふまでもなく京城府廳の新築敷地であるが、之も今新春早々から起工するのであるから、本年中には大體の輪廓が出來上るであらう。而してこの新府廳舍も亦京城の中樞機關として恰好の位置を占め、堂々たる偉觀を呈するであらう。更に本町筋では三越出張所の大建築と之に接して本町ビルヂングが竣成するので、京城の商店街もだんだんと綺麗になつて行く。嘗ては完全な運動競技場を有たなかつた京城も、今年からは

訓鍊院記念 グラウンドの

新設によつて、先づ野球、庭球、陸上競技等の競技に差支ないやうになるのである。現在のグラウンドから、ずつと光熙門外に擴がつて今度大グラウンドが竣成すれば運動方面の中心が東部へと移つて行く。そして稍淋しかつた東部が、この方面へ俄に活氣を帶びて來るだらう。そして淸凉里のゴルフ場と共に運動ファンが東へ東へと動いて行くだらう。淸凉里といへば、昨年新設された京城大學豫科によつて

寂しい一寒驛が 俄かに面目を

一新しかけて來た。元來京城郊外の勝區であつた此の方面に、伸ぶべくして伸びなかつた京城の發展が、漸く城大の新設によつて伸び初めたのである。今年は豫科の生徒も殖える。職員も殖える。而して商店も殖える。住宅も殖える。斯くて總督府を控へて學校街とも云ふべきものが、徐々に芽をふいて來るだらう。その奧にはゴルフ場を控へて居るが更に京城の大野球場新設の計畫もあるらしいから淸凉里の發展等によつて、京城の新しい色彩が此方面に點ぜられるだらう。一轉して西部龍山方面も[illegible]等の新設を見。

所謂文化住宅 が殖えて來た

小高い丘を擁して居る孔德里、此の方面は淸凉里方面と相對して、多分住宅地として發展すること〻思はれる。龍山方面は大した變りもないが、從來ゴルフ場であつた孝昌園が、愈々公園として完成すれば、遊園地として一勢力を得るに違ひない。斯くて十四年度にウント背伸びをした大京城は、朝鮮の首都としてグン〳〵と伸びて行く。

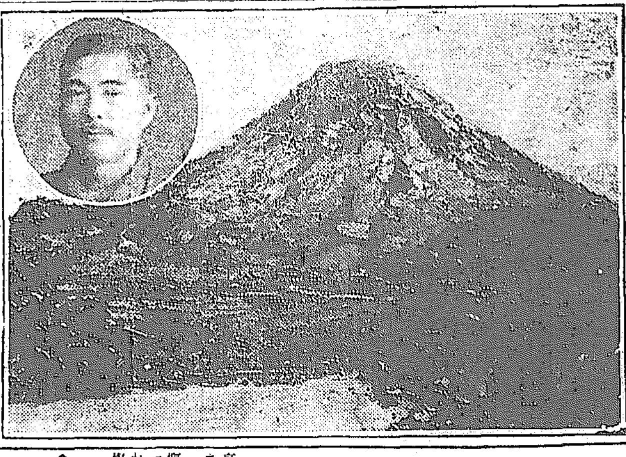
×　×　×

大京城のコンパスの脚が次第に長く大きく擴張して行くことは京城府民の幸福であり朝鮮の幸福であらねばならぬ

三度目の洋行する 當り年の背水畫伯

往十里の家を引拂つて 東京へ移住する

朝鮮洋畫壇の寄宿で、京城郊外の往十里にアトリエを有する高木背水氏は、明治十年生れで今年四十九歳の當り年である。氏が京城に移住したのは一昔のことだが、その後歐洲畫壇研究のために洋行したこともあり、發展のためにも洋畫壇の役を辭め、門弟を養成したことも尠くない。この春には三度目の洋行の旅に上つて、更に新しい歐洲畫壇の空氣を吸ふて來やうといふ意氣で目下その準備中である。一人娘の淑子さんは、昨年から東京の女子大學に入つて、勉强中であり、氏が洋行すれば文子夫人の獨りぽつちとなる形であるから、洋行中は往十里の家を引拂つて東京の郊外に移住するつもりで東京の郊外に畫室と住宅を建てることになつたといふことである。今は冬期休暇で歸省中の愛娘が、正月早々東京に歸るので、家族一緒に別府を離つて東京に引揚げる段取りださうである。（寫眞は背水氏と近作）



年賀郵便三百萬通

一昨年より一割減つた 局長以下が徹夜して整理

京城郵便局郵便課では二十日から年賀郵便のために忙殺され三十日夜來篠川局長を始め淺田郵便課長以下不眠不休で働いてゐる十五日受から十九日迄の年賀郵便の累計は百十九萬二千九百八十四通到着は二百六十三萬六千五百九十四通中繼は三十六萬千三百五十六通で一昨年に比し引受に於て一割三分到着に於て二割三分中繼に於て二分二厘總體に於て平均一割一分八厘の減を示してゐる到着が著しく少いのは年賀郵便の差立てが遲れた爲めで二十九日年賀郵便特別取扱中止後到着するものが多からうと云ふ見込みである郵便局では臨時雇員五十三名養成所生徒三十名常在員百七名、臨人夫百二十九人合計三百十九名の人々が之を整理し一日午前六時から七十餘名の集配人に依つて山と積まれた『お目出たう』の葉書が各戶を訪るゝのである

昌德宮の新年

李王殿下は五十一回の御誕辰を迎へさせらる

常緑の松の綠濃き昌德宮の新年は宮の内外に瑞氣靄靄たるものがある、表門から大造殿に至るまで裝ひを凝らし、幾代の風雨に錆びた殿堂の丹碧の色も鮮明に晴やかな春の氣分が漲つてゐる、王殿下には本年第五十一回の御誕辰をお迎へになるのである、一日午前九時李王職判任官以下の職員は仁政殿東行閣に參集し長官閔泳綺男に對し年賀の詞を述べ、閔長官は此の旨を李王殿下へ言上し、午前九時半李王殿下には王世子の上から御熙政殿にて勅任官以上の高等官、御親戚、朝鮮貴族の賀詞を受けられ、同十時十五分王殿下には陸軍大將の御正裝にて總督官邸に成らせられ兩陛下の御寫眞に對し奉り齋藤總督へ御賀詞を御依賴の上御退出御歸還の御豫定である、尚李王職では松の內三日の間東行閣に署名簿を備へ付け一般拜賀者の便を圖る筈である

一萬餘圓遺失

龍山漢江通り一二朝鮮釀造[illegible]は三十日午後三時頃[illegible]銀行振出しの小切手一萬圓外三百圓の小切手諸共漢江通七番地附近で遺失したのを元町二ノ八の古屋德吉が拾得龍山署に屆け出でた

表彰される 孝子節婦

四日總督から

一月四日總督府は左記孝子節婦及篤行者に對し宸慮の御沙汰に依り金盃又は褒狀を交附表彰すること〻決定した

忠淸南道論山郡魯城面大平里　孝子　崔聖順
同天安郡笠場面可山里　同　姜泰媛
同扶餘郡扶餘面自旺里　節婦　鄭氏
全羅南道光陽郡光陽面紗谷里　同　徐興葉
江原道旌善郡西面[illegible]里　同　全薇子
同淮陽郡安豐面新昌里　同　許玉
忠淸南道唐津郡松山面柳谷里　篤行者　實業　李種商

新春の芝居活動

各館それ〴〵の新陣容整ふ

京城の興行界は、何といつてもキネマの全盛である。昨年は左團次一行の名優も來たが、演劇方面は概して振はなかつた。今年もキネマ界は一層の活氣を呈すると思はれるが、先づ新春興行の各館各劇場の陣容を御紹介しやう。

喜樂館

◇青春の歌（全八卷）鈴木傳明、高島愛子の主演になる問題を背景として綠の三角關係を主題としたものである。それに舊劇『白藤權八郎』六卷と活劇『荒原の秘密』滑稽『波のまに〳〵』等がある。

大正館

◇逆流に立ちて（全七卷）諸口十九、川田芳子、武田春郎、林千歲の共演で、朝鮮を題材に取つた涙の物語りである。題を朝鮮に取つて居るだけに朝鮮に親しみがある。その他櫻咲子主演の時代映畫『元祿女』八卷、[illegible]『新血と砂』五卷等を上映する

黃金館

◇情火渦卷く（六卷）松竹から帝キネに入つた五月信子の主演である。例によつて力強い作で發表以來多大の期待を以て迎へられて居る。その他、海上活劇『噴起一颯』六卷、滑稽『彌次喜多』六卷

京龍館

◇時代劇『血の涙』、軍事活劇『砲彈』、時代劇『花の寒諸山櫻』、現代劇『愛は女の生命』、以上何れも帝キネの新作ものである

京城劇場

片岡成左衞門片岡島右衞門、市川鯉四郞、中村福十郞、淺尾友藏の歌舞伎一行で蓋を開ける。

中央館

◇嵐の娘　プリシラデイン主演の呼物である。その他島田嘉七、茂村愛子共演の小唄劇『小豆島情話』五卷と、妻三郎、生野初子共演の『時勢は移る』七卷の時代劇を上映する。

浪花座

◇お馴染の澤村源之助一派の歌舞伎で蓋を開けるが座主後藤京三氏の愛娘幹幸（一三）さんが愈々同一座に加つて女優生活に入るさうである。

喜樂館上映『青春の歌』

お正月の天候

三ケ日は暖かいであらう

お正月の天氣につき平田京城測候所長は語る『今年の年末は非常に暖かであつたそれは例年蒙古方面から滿洲北部にかけて高氣壓が高くなるが本年は高氣壓が高くなつても支那中部に下る爲め例年の様に北風が吹かず、西よりの風が吹き五六日間非常に暖かであつた、現に二十七日の如き最低氣溫氏四十五度七で前年の三十八度一に比し七度六以上暖かである、今朝朝鮮西岸の方に小低氣壓が發生してゐるのを見たが大したことにはなるまい、から京城では十一時から小降雨を見た一日の天候は大體に於て晴り二三日間は暖かであらう快晴になつたら今までより少し寒くなるでせうが急に寒くなるやうなことはありますまい』

秀谷對雪枝 紛擾問題

條件附で解決

細谷秀谷氏と故島田雪枝とに絡まるイサクサは可成り世の中を騒がしたが雪枝の實父島田幸三郎と秀谷の親族田中千代之吉との間に幾度か紛議を重ねた結果故人の恩師である池上秀畝氏も仲に這入つて斡旋し左の條件にて紛擾は漸く解決した（東京電報）

一、池上秀畝氏主催となり追悼繪畫展覽會を來春一月か二月故人の命日たる廿四日に開き故人の遺品並に秀畝氏同門一同故人追悼の爲め出品し一般の觀覽に供し且つ賣却すること

一、右賣上金中より故人の石碑を建てる殘金は故人遺墨帖費用として故人の實父幸三郎氏に贈る

一、島田幸三郎氏は右贈呈金を以て故人の熱愛せる忠雄の教育費とすると倶右忠雄は專門學校卒業程度の教育を施すこと

銀行員毒死

原因は不明

高陽郡龍江面倉前里三二漢城銀行々員李南圭（三〇）は三十日午前零時頃多量の阿片を飲み自殺した原因に就き龍山署で調査中である

京城料理屋組合　（いろは順）

いそべ　井門　一日園　白水　はり半　千代本　千歲　花仙　花月　花月別莊　川長　春日　玉喜　玉水

瀧南松權江惠咲京喜菊錦勝靜
廼山葉平戸川（支店）比良喜代陽
家莊亭淸庵須喜久中本水利軒

帝國地方行政學會
會主　大谷仁兵衛
本部長　酒井與三吉

京城花園町廉賣所一同

京城本町四丁目七九番地
三矢酢釀造株式會社

中央市場【京城永樂町】
守分藥店　大島食料品店　西名食料品店　全野茶店　立花米店　正島新炭店　濱田魚店　ウロコ魚店　前田魚店　金野菜店　渡邊酒店　松井精肉店　カフエーリリー店　岡本文具店　黑木防水布店　田中漬物店　伊藤菓子店　北園荒物店　服部履物店
電話本局二〇三三番　同三〇九二番　同二五四八番　同三一二四番　同一四六七番　同二九五〇番　同五八四番　同二〇四五番　同一九六七番　同三九二二番　同三三七四番　同二三二〇番　同三七一番

京城精米組合

京城穀物商組合

京城羅紗附屬品商組合

京城明治町二丁目
城六太
電話本局九六一番

喪中に付年始の禮を遠慮致候
京城三坂通四十七
富田煙火製造所
富田虎吉

津の國屋小染

（五十四）　小金井蘆洲

護持院大僧正が宮家の御誕のお務めを終つてお戻りになつた後『此の者は私の隱居先に訴へて出た者があつたが、何ぢや、あれは……』○『エ、御者か未だ取調べも出來ませぬ。但『アヽ左樣か、呼出して余が直接取調べて見るであらう』と呼出して取調べた時に紫三が逐一ながらに物語りをいたす、御院代から此事を僧正に申し上げる、僧『それは不憫のもの。當人の申す通りに偽りがなくば寺に留置いて遣させい』と云ふ御意だ、早速神田の津の國屋と坂本二丁目の親父の方とに、それとなく探索をして見ると紫三の云つた事に露ほどの偽りもありませぬ、戻つて來て右の趣きを復命した、茲に紫三は護持院の寺に入れて學問をさせる、當過ぎになると僧正のお手許に來て御用を達す、昔は上野の寛山は女人禁制で、お身分の重い僧正のお手許の御用なんぞは大抵美少年がお稚兒に上つて、お小間使をやつたものでございます、隨分高い金を出て是を買つた位のものだ、そウそれが年頃十四近くなれば逆も稚兒としては置けませんからお暇になる譯だが、茲に紫三は有難くも護持院のお側の爲に拾ひ上げられて勉強をしたが、外の者よりは學問の成績も群を抜いてゐる、外の者が半月で會得するものは七日ですると云ふ譯で、行く末の見込みも充分であるし、第一男前はよい、才氣があつて圓滑で、人の機嫌氣づまを取ることがうまくて、紫三〳〵と御贔屓、何時か年を重ねてこれが二十歳といふことになつた、モウ前申あげた通り、丁年になればお手許に置くことはこりやア出來ない、が手放すのは惜いものであるといふ思召から、普通者なら金子でも遣はしてお暇になる譯だが、種々お考への末、これを宮様のお手許に差上げた、輪王寺一品親王殿下のお手許へお目通りをいたしました時に、宮家初めて『大層御覽に叶つて宮『紫三と申すか、見知り置くぞ』と云ふ御沙汰、それからお傍らに奉公をすることになつた、貴人は皆井蕃かに在ます金枝玉葉の御身、其御食膳に近附いて朝夕御用を勤めると云ふことは、アヽ自分ながら能く出世の出來たものだ、有難いことだ、もう一つ出世をしては立派に津の國屋主従を見返して呉れやうと、愈々以て勉強を勵らず、出世を握てますから、自然上下の評判が好い、宮家も々御贔屓あらせられて、茲に二十四歳となりました時に宮『コリヤ紫三、其方の姓は何と申す』とのお尋ね、恐懼稍く暇を知らない、氏も素性もない紙屑屋の件だ、宮様のお手許へ御奉公をするさへ、過たく〳〵過ぎたことだと思つて居るから、ハッと頭を下げて暫くの間頭が上らない、重ねて宮『其方の姓は何と申す』殿下に涙を湛へて紫『私は過ただく……』とまでは云つたが後がのお答へが出來なかつた宮『ホ、ウ、其方の姓は杉田と申すか、以來杉田大藏と名乘れよ』との御意でございます、只もう有難くて平伏して居るばかり、忽ち非上の頭に御沙汰になつて、これは一人前の上野の宮様師にお取立て、根岸御行の松の片鄙りに立派な屋敷を賜つて日々上野に通勤めて居りましたモウ身分が違ふから津の國屋へ恨みを晴らしに行くことは出來る大『だが待てよ、モウ一つ出世をしやう』と愈々以て勉強を怠らず奉公を勵んで居ると、年二十六の時に上野の宮様のお側御用人格までにこれが昇進をした、御側御用と來りやア大層なものだ、三十六坊の内に飛ぶ鳥を落す勢ひになつた時に、初めて新しく發覺をした大『待てよ、今日まで津の國屋主従を怨みに思つて居たのは悪りやア心得違ひであつた、詰り今日の出世は津の國屋主従の庇蔭であつたのを知らなかつた』

俳句　內藤鳴雪選

題『萩』—七—

○北宵　夏樹
栗垣や糸萩更けて虫の聲
○釜山　たけを
萩深く咲く別院の裏戸かな
○京城　泪水
萩刈るゝ小寺の庵や僧一人
○新昌龍　綠
水涸るゝ小川のへりや萩垂るゝ
○鎭仁浦　筑雨
庭の萩朝々花を掃かしめぬ
○鎭南浦　紅風
萩寺や比丘尼一人の侘び住居
○龍山　ゆふき
朝なく〳〵萩こぼれけり掃きに晃き
○江西　梧堂
庵野が萩の雨夜のこぼれ月
○大邱　千汐
打吹にもろく散りたる萩の花
○鎭安　正俊
刈草の中に萩あり花も咲く
○鎭南浦　洞水
見あぐれば峰の山萩盛りなり
○仁川　蠻白
かくれたる女画者や萩の宿
○大邱　鳴石
この宿にねたまし萩の一と捕へ
○京城　鵙星
山凹の霧晴れやらぬ小萩かな
○同　翠波
白萩や茶室へかよふ柴折門
○同　翠園
ホロ〳〵と音無き雨や萩の上
○京城　愛子
籬にゐて何を食む雉や萩の雨
○同　丹山
萩散に萩一枝や內觀び
○群山　一碁
外山には夕日沈みて萩の花
○鳥致院　好月
泉水や靜かに受けて萩の月

庭石の隠れがちなり萩の花
人（賞）　京城　鏡栗

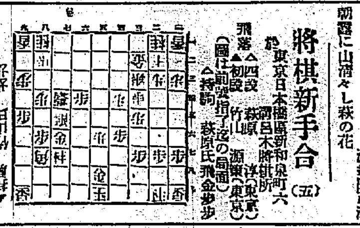
月高し萩咲きほこる夕とて
地（賞）　仁川宮町　岩部龍峰

萩の宿昔ながらの紙燭して
天（賞）　平北博川郡嘉東面　渡邊田茂津

朝霧に山消々し萩の花

將棋新手合（五）

於東京日本橋區新和泉町六　雨宮木將棋所
飛落　△四段　萩原　淳（東京）
　　　▲初段　竹山　源榮（東京）
（圖は前號指了迄の局面）
△持駒　萩原氏飛金歩歩



△六六金▲七八角△六五桂▲九二馬△四八玉▲七四馬△同銀▲五七銀△同金▲同歩△同玉▲五六歩△同金▲六七金▲四七玉▲六九馬△三八玉▲五五歩△同金▲五七金
（以下次號）

新刊紹介

▲科學と智識（新年増大號）科學を道具化するのが不可であると同時に輕侮することも出來ない、現代の科學文明が吾人の生活に密接な關係を有つてゐる以上、決して科學的智識に乏しい吾が國民に於いては自然科學を理解する事は思想の一大改革でありそれに伴はずしては、到底世界競爭場裡に立ち得ざるに至つた、本誌は科學的思想を普及し人間生活に直接間接に幸福の増進を計つてゐる（八十錢東京日本橋區室町三共ビル、科學智識普及會）▲宗教と思想（新年號）信教は自由であり、又不信教の自由も許されてゐると宗教を無關心にするのは果して如何？本誌はそれに就いて大家數氏の宗教と人間生活に關した數篇を掲げた（六十錢、京都市下京區東山線妙法院前、中外出版會社）▲書畫骨董雜誌（新年號）月五錢東京牛込横寺町五八、書畫骨董雜誌社▲復興（新年號）二十錢大阪市北區梅ケ枝町一五三▲外交時報（新春倍大號）目下渦中にある日米支那政局、英國を中心とせる新嘉坡及び埃及等の問題の禍根を詳細に摘發し滑りなく而かも端正に述した外交時報である（一圓、東京麹町區下二番町六八、外交時報社）▲文化生活（新年號）主筆森本厚吉氏（一九二五年を占ふて）千葉龜雄氏（文化國の特種）他に東京女性比較及び大家數氏の『生活更新のメモ』等がある（五十錢、東京本郷元町一ノ五、文化普及會）▲文化の基礎（新年特輯）吾人の社會的生活の恐怖は文化基礎の不健全にあると井餘氏の氣焔萬丈、因に從來の文化生活の基礎であつたものを改題し革新を計つたもの（五十錢、東京銀座新橋際、文化生活研究會）▲ユーゼニックス（一月號）種族改善、遺傳防止、心靈等に關した研究誌（卅五錢、兵庫縣香櫨園森具、日本優生學會）

演藝案內

黃金館　帝キネ直營　毎日晝夜
謹賀新年特別大興行　元旦より五日間公開
笑ふかどには福來る
◎ニコ〳〵大滑稽　彌次喜多　二編六卷
嵐璃徳、片岡仁引主演
日米映畫會社及ユナイテッド特約
ゴールドウイン特作
◎大活劇　憤起一戰　全六卷
ドリス・ケニオン孃主演
ヘンリー・ベル氏
問題映畫愈々公開
五月信子入社第一回超特作
◎情火渦卷く　全六卷
五月信子、正邦宏大猛演
解說桃山、南、桒井、西久保、小山

喜樂館　京城本町一　電光二番　日活直營
當る三十一日より新春特別大興行
▲實寫　高飛　一卷
◎フォックス會社作品
▲滑稽　波のまに〳〵　二卷
テイアール孃主演
◎佛國パテー社作品
▲連續活劇荒原の秘密四回目四卷
ルス・ローランド孃主演
◎日活京都第一部超特作
大阪朝日新聞連載講談
時代劇　白藤權八郎　前編六卷
松之助、吉十郎、澤村春子主演
延一郎、松蔦、一色勝子
◎日活新劇部高島愛子第一回作品
▲運動ロマンス　青春の歌　全七卷
鈴木傳明、高島愛子
南光明、東城坊恭長主演

大正館　松竹共營　毎日晝夜
當る卅一日より四日迄上映
◎新春特別大興行
アーバン映畫
◎實寫　近代探偵法　長尺
メトロピクチャー提供
▲闘牛猛闘大活劇『新血と砂』全五卷
松竹蒲田最新大傑作
朝鮮悲劇▲血涙裏話『逆流に立ちて』全八卷
諸口十九、川田芳子、武田春郎主演
松竹下加茂革新第一回作品
野村芳亭監督　柳咲子主演
▲映畫大時代劇『元祿女』全九卷
寛川延郎、兒島三郎、志賀川延松、酒井信子　助演

中央館　東亞キネマ　マキノキネマ
卅一日より新春特別大映畫公開
米國サンフキルム社特作
喜劇　不思儀な木馬　チャーリー・メーリン主演　全二卷
◎東亞キネマ甲陽特作映畫
◎原作曾根純三、監督山本嘉次郎
小唄現代劇　小豆島情話　全五卷
‖島田嘉七、澤操、花村愛子共演
◎ユニバーサル・ジュウエル超特作
◎リートレニックブラウン氏原作
海洋活劇　嵐の娘　全六卷
◎プリシラ・ディーン孃主演
‖東亞マキノ超特作大映畫
‖牧野省三氏監督等持院作品
大時代猛闘劇　時勢は移る　全七卷
‖阪東妻三郎、瀬川路三郎、生野初子

浪花館　明治町　電話二六〇
一月一日より
青葉會
安來節、落語萬歳
出雲富士　外色々
外三十餘名の大一座

賀正

京城永樂町二丁目
和洋帳簿製本　馬場製本所
馬場締吉　電話本局三六一〇番

京畿道金融組合聯合會
京城倭城金融組合
京城鍾路金融組合
京城光化門金融組合
京城南大門金融組合
龍山金融組合
新龍山金融組合
京城西大門金融組合
京城東大門金融組合

間組京城營業所

京城府練兵町
土木建築請負業　山本由太郎　電話龍山六三一番

京城府永樂町
共濟無盡株式會社
池田與三郎
鮎澤常義
奥彌輔

醴泉煙草元賣捌組合

高陽郡守　徐廷岳

朝鮮京義線　新安州驛前　坂井商店

株式會社　大同銀行　載寧支店

信川　福岡醫院

沙里院旅館組合
茶代廢止
岡田旅館　筑前屋　花屋　松の屋　柳屋　大和屋　長門屋

載寧郡廳　職員一同

沙里院　井上醫院

沙里院公立小學校　山内眞一

沙里院　望月暉郎

沙里院　宇佐見盛光

寫眞材料及機械器具
京城武橋町　菊田寫眞館　電話光化門一八三

京城府練兵町
質及信託　光延丈成　電話龍山八三

京城府練兵町
京龍館　電話龍山三二番

黃海道沙里院公立農業學校　職員一同

沙里院郵便局　職員一同

沙里院　職員一同

沙里院　田所政治

沙里院專賣局出張所　島田博

載寧　郵便局員一同

京城女髪結組合
取締　葛下ツル
副取締　山本ツギ
評議員　加藤ます
同　東良やす
同　北山きくゑ
同　松本すゑ
同　杉山もよ
同　貝野とくよ
同　佐中かつ
同　川島さく
同　竹本もと

京城西洋料理店（イロハ順）
ホワイトランチ　電本二〇〇八
ホンマチバー　電本三三五〇
カフエーアカシヤ　電本三〇二
カフエーキリン　電本三〇二六
京城食堂　電本一二二六
銀松亭　電本二八一七
勝利　電光三三四

日活王國　特別封切
新春元頭の大壯觀
■三十一日より四日迄■
與行記錄を粉碎させる
恭賀新正　運動映画
青春の歌
哀艶悲曲
鈴木傳明・高木永二・南光明・近藤伊代吉主演
！滿天下の視聽悉く集中せる學窓詩活劇！
東京三友舘に於て四週間滿員
日活直營　喜樂舘
連續猛闘大活劇　荒原の秘密　自第七編至第八編　四卷
連續時代劇　白藤權八郎　前編六卷　松之助・吉十郎・松蔦・延一郎・鬼若主演

謹賀新年特別大興行　元旦より五日まで
笑ふかどにわ福來たる　ニコ〳〵大滑稽劇六卷
彌次喜太
日米會社特約ゴールドウイン特作大活劇
憤起一戰
問題映畫愈々公開代表的大寫眞
五月信子入社第一回
情火渦卷
五月信子、正邦宏大猛演　解說桃山、南、桒井、西久保、小山競演　全六卷
帝キネ直營　黃金舘

▼新春を飾る東亞マキノ大作品揃
▽時代大猛闘大活劇▽
時勢は移る
▽牧野省三氏指揮△
阪東妻三郎、瀬川路三郎、生野初子共演
ユニバーサル　ジウエル大作品
プリシラデイン孃主演
海洋大冒險活劇
嵐の娘
東亞キネマ甲陽作品島田嘉七、花村愛子
小豆島哀話
三十一日より公開
中央館

卅一日より四日迄上映　新春特別大興行
松竹下加茂撮影所革新第一回作品
野村芳亭監督　柳咲子主演
寛川延郎、兒島三郎、志賀川延松、酒井信子　助演
大時代劇　全八卷
元祿女
松竹蒲田最新作　川田芳子　諸口十九　主演
朝鮮悲劇　血涙哀話　全八卷
逆流に立ちて
メトロピクチャー提供　闘牛猛闘大活劇
新血と砂　全五卷
大正館

兩陛下銀婚式の新年

御悩みもうすらぎ 少しく御肥滿
聖上陛下の御近狀

寶祚の萬歳と共に新に茲に目出度くも大正十四年の元旦を迎へた。皇統連綿二千五百八十五年、聖上陛下には畏くも今年は御悩みも稍ぎたまひ御病狀も漸々御輕しく渡れ承はる處によれば陽春五月の候をもつて御銀婚式を行はせらるゝやに拜し奉る。今上陛下には明治十二年の御降誕で本年寶算四十七歳、御踐祚は明治四十五年七月三十日、御即位は大正四年十一月十日で大正十年十一月廿五日攝政をおかせられ御在位十六ヶ年間大權を行はせ給ふて爾來ひたすら玉體の御恢復に努めさせられつゝある。陛下には

毎朝午前七時御起床

天氣のよい日には午前午後に亘り二時間位づゝ二三回御苑内の御散歩あり、雨天などの折には侍從達をお相手に御内儀で種々な御慰しなど遊ばされ音樂を好ませらるゝので毎週一二回は陸海軍の軍樂隊を御召しになつて妙なるメロデーに興がらせ給ふ事もある、陛下は御飲食と御睡眠は必ず皇后陛下と種々御物語りの中に濟ませらるゝ御習慣で

家庭主義を重じ給ふ

大御心拜するだに畏き次第である。斯くて御夏ぎの程に午後十時頃御就寢遊ばさるゝ御日常となつてゐるが玉體の御健康は其後益々御快復の御模樣で最近少しく御肥滿遊ばされ御步行も稍御自由に向はれたと拜承する、然し御腦の御悩みは依然としてさほどの御變化なく御不自由であらせらるゝことは恐懼に堪へない、東宮同妃兩殿下に各皇子殿下に一週數回また時折御參內の皇族方に御對面あらせらるゝが昨臘四日久々振りにフロックを召され御香閣祗候、錦鷄間祗候及宮中顧問官一同に拜謁仰付られたことは數年來の有難き御沙汰と等しく感泣した處であつた。

仔牛を愛でさせらるゝ攝政宮殿下

極めて御多忙
皇后陛下の御日常

皇后陛下は明治十七年の御誕生で御年四十二歳であらせらるゝ。聖上御不例の御事とて御日常は極めて御多忙で每朝午前七時御起床御朝餐の後は御參內の東宮同妃殿下及各皇族方との御對面や高官の御陪謁に連日を過させられる御有樣で宮中に外國交際官夫妻參朝なる場合等に謁見を賜はる事も度々である。更に各所行啓の外宮中に於ける御祭典儀式には必ず臨御あらせらるゝのであるが御の御餘暇に

内外の書籍雜誌など

にお目を通される外女官達を御相手に敷島の道にたずさわられ一年に詠ませ給ふ御歌は數多き由に承はる。新年に際しては沼津御用邸から還啓、元旦二日の拜賀から三日元始祭、一月中旬の御講書始、御歌會始にも臨御の御都合である。

かしこし御仁慈
切詰められた皇室豫算

兩陛下の御仁慈に渥らせらるゝことは申す迄もなき事ながら昨年東宮殿下御慶事に際し社會事業助成費として百萬圓、兒童就學獎勵費として百萬圓、殖民地に同獎勵費として廿九萬圓、社會事業功勞者二百五十八名に金二百圓宛を下賜冠節に當り社會事業御獎勵の思召により金萬圓へ十七萬七千八百圓其他各地の風水害火災震災罹災者其他不慮の災害を聽し召され罹災者御救恤として御內帑金を御下賜あらせられた額は極めて巨額に達した。一方皇室の御經濟は國民に範を垂れさせ給ひ本年度皇室豫算中御賄部御節約の如きは特に御聖慮の思召で編成されたなどは實に恐れ多いことである

御繁忙な政務の傍ら 御修養に努めさせらる
攝政宮殿下の尊き御生活
入江東宮侍從長謹話

申すも畏こけれど皇太子殿下には明治三十四年四月二十九日御降誕遊ばされ英邁の御天資、沈勇剛毅の御氣象、年と共に彌增し給ひ大正十四年には御數へ年二十五歳の春を迎へさせ給ふ、皇太子妃殿下には明治三十六年三月六日の御降誕にて聰明慈悲の御天資愈々加はり給ひ本年御數へ年二十三歳にまします〳〵皇太子妃殿下として第一の新年を迎へさせ給ふ、兩殿下には御健康益々御增進あらせられ御睦まじくおはしますは國民の共に慶賀に堪へない次第である。」

一、攝政としての御政務

皇太子殿下には攝政宮として萬機を御總攬あらせられ日々の御政務極めて御多忙に渉らせらる水曜日は午前中宮城に御出務遊ばされ又其他の日は赤坂離宮に在しまして御政務を執らせらる、內閣、樞密院其他の宮から續々提出せられる上奏書類を一々詳細に御調査の上御裁可あらせられ御署名を要するものには御親署あらせらる、政務に關する事件は急速處理を要するもの少からずして上奏書類は早朝より深夜に亘り時を選ばず御手許に差上ぐる次第である事件一日數十の多きに上ることありて殿下の御精勵は實に驚嘆すべきものがある、重要なる政務又は宮務あるときには內閣總理大臣を始め各國務大臣、樞密院議長、又は宮內大臣、內大臣等が御前に伺候してその所掌の事項につき種々言上するところを一々聽取あらせらる、內閣總理大臣以下の親任官を任命あらせらるゝ場合及陸海軍將官其他を親補あらせられる場合には內閣總理大臣等侍立の下に親任又は親補の式を行はせらる。

二、攝政としての御祭祀

歲旦祭、元始祭、紀元節、祈年祭、春秋二季の皇靈祭、神嘗祭、新嘗祭及御神樂等の祭日に當つては齋戒沐浴あらせられたる上賢所に行啓あらせられ賢所皇靈殿、神殿に御親拜あらせらる、新嘗祭の如きは最も重き御祭の一として夕の御祭及曉の御祭の二つを御親祭あらせられ前後四時間に渉つて賢所に御端座の上國土豐饒、萬民多幸を御祈念あらせられ翌朝一時迄も御親祭あらせらる　尚御平常に於ては每朝必ず御日拜所に御出まし伊勢神宮、賢所、兩陛下御座所に對して御遙拜あらせらる。

三、攝政としての賜謁並御陪宴

新任外國から大使、公使等が着任した時又は離任する時或は時に御機嫌伺に參內する時には一々之を御引見あらせらる、其他地方長官會議に出席する各府縣知事、陸海軍將官會議に列席する師團長、旅團長、司令長官等其他地方より上京する各省の會議員主として勅任官以上及御機嫌奉伺の文武官等に謁を賜はり又之等の諸官に御陪食仰付らるゝことも屢々である、新年式、紀元節、天長節祝日の三大節には宮城に御出ましの上外國の使節及文武諸官の拜賀を受けさせられ尚之等の人々に御陪宴を賜はる又四月には新宿御苑で觀櫻の御宴、十一月には赤坂離宮御苑で觀菊の御宴を、御催しあらせられ外交團文武諸官及其家族をも召させられ拜謁を賜はる平常に於ても文武諸官に御陪食を賜ひ其勤勞を犒はせ給ふこと屢々である。

四、行啓

攝政宮として諸方に行啓あらせらる、例へば帝國議會開院式、陸軍大演習、觀兵式、海軍大演習、觀艦式、陸海軍大學、陸軍士官學校、學習院等の卒業式などに行啓あらせらる、攝政宮として行啓あらせらるゝの外東宮殿下の御資格で諸地方に行啓あらせられ又は東京市中の諸官衙、諸學校、諸會合、諸展覽會等に行啓あらせらるゝ之は地方振作、學問、產業、工藝等御獎勵の思召にも基づくのであるが又諸方面に關する御研究の思召にも因るのである。」

五、皇太子としての御修養

上述の如く攝政宮として御多忙極まりなき御身にあらせらるゝが間皇太子殿下としての御修養、御研鑽は一日も怠らせ給はず月曜日の午前は臨時御進講の時間と定めさせられ道德、思想、政治、法律、社會、經濟、哲學、宗教、文學、歷史、地理、化學、工藝、醫百般に亘り其の道に造詣深き人々を召されその研究を御聽取あらせらるこの場合には妃殿下にも御同列で御拜聽あらせられ又他の皇族方も御陪聽あらせられる、最近には小野塚法學博士の『國家』穗積法學博士の『家族制度』白鳥文學博士の『皇道』三上文學博士の『明治維新の功臣の事蹟』等を御聽講あらせられた、火、木、金曜日の午前は定例御進講の時間として漢學、論語、尚書、古事記、外交史、軍事、佛蘭西語を御學修あらせらる、尚木曜日の午後には諸方面の人々を御召あり學藝の話を聽ひつゝ御寛ろぎて其研究の進行の現況につき御聽取あらせられ特にその問題に關係深き諸臣にも御相伴仰せつけらるゝ事もある。御諮問には深く御心を用ひさせ給ひて動物、植物等各方面に亙つて御研究あらせられ殊に歷史物に關しては深く御研究あらせらる、新聞紙も東京發行のものは勿論、地方有名のもの數種のは御取寄せあらせられ御精讀あらせらる。

六、御孝道

天皇、皇后陛下に對し給ふては此孝心極めて深く在らせられ毎週水曜日の午後には妃殿下と御揃ひにて御參向の上兩陛下の御機嫌を御伺ひあらせられ何四方山の御物語を遊ばされ夕方に至つて御歸殿あらせらる。兩陛下行幸啓に際しては必ず御奉送、御奉迎あらせられ尚平常にあるに當つては必ず御自身で又は御使として天機をお伺ひあらせらる、地方行啓中に於ても兩陛下の御みやげ物を必ず御自身御選定あらせらる

七、御交際並に御仁慈

秩父宮殿下高松宮殿下澄宮殿下の御弟宮を始め皇族方に對しても極めて御睦まじくあらせられ殿下は赤坂離宮に御招きあつて懇しく御物語あらせられ、時には御會食もあらせらる、臣下に對し給ふても極めて御仁慈に渉らせられ御由緒ある臣下御機嫌伺ひに參殿の際には親しく御座所に於て種々有難き御言葉を賜はる

八、御體育

攝政の大任に就かせられてより既に二年餘御政務と御研鑽との二方面に渉りて極めて御多忙にあらせらる、殿下の御體躯は國民の齊しく御案じ申上げて居る處であるが殿下にも努めて御健康を御利用あつて戶外御運動を遊ばさる、御運動は御乘馬を主と遊ばさる、御乘馬は陛下の御名代として陸軍の御統監あらせらるゝ御職務上から最も御必要なことであるので毎水、金の午後に御暇あれば一時間位御練習遊ばさる、御乘馬には極めて御堪能にましまし先頃北陸地方に行はれた陸軍特別大演習にも御乘馬で堂々と三軍を御統監あらせられたのである、土曜日の午後に御暇あれば一時間乃至一時間半程テニスを遊ばさる、尚日曜日に御暇あれば妃殿下と御同列で新宿御苑へ行啓あらせられゴルフ等御運動あらせらるゝこともある。

（上より）秩父宮殿下　高松宮殿下　澄宮殿下

御健やかな三皇子殿下
スポーツの宮樣
御外遊近き秩父宮殿下

霜柱を踏んで青山の皇子御殿から麻布步兵第三聯隊まで御徒步で御通ひになるお元氣な第二皇子秩父宮樣は同聯隊第六中隊附の陸軍步兵少尉であらせられる、今年二十四歳といふ御血氣盛りでまる〳〵と御肥りになつた御健康そのものゝやうな御身體、每日の御軍務に

日焼した

黑い威嚴のある御顏、御頭髮は何時も短く刈られてのイガグリ頭で少しの御飾り氣もない全くの平民的一將校とお見受け申すばかりである、殿下には近く四五月頃から愈々二ヶ年の御豫定を以て御洋行遊ばされる、御結婚について色々と說があつたが大體御歸朝後といふことに決した、御洋行中は英國に渡らせられ牛津（オックスフォード）大學に御入學の上英國皇室や貴族社會との御交際があり、一方には戰爭上の御見學及御研究を遊ばされ歐洲各國を御巡遊の上御歸朝の筈である、殿下が平民的であらせらるゝ事は每日聯隊へ御徒步で御通勤の途中

子供等が

「兵隊さん」「兵隊さん」と呼びかけると微笑を以て迎へられ御會釋遊ばさるゝので慕はれてお附きする側近の人は非常に恐縮する事がある　每日午前六時から六時半が御起床の時で御禮拜の後伊勢神宮遙拜に伏見、桃山、明治大帝、昭憲皇太后御陵に向はせられて御拜禮更に兩陛下竝に御兄東宮殿下の御寫眞に御拜あり、七時御朝食は簡單なミルク、パンにハムエッグスのやうなものをお採りになるさうである、七時半から八時頃御附武官を隨へさせ御徒步で聯隊に向はせられ、時折は全く軍裝で御通勤の事もある、野外演習の折などは全く他の

兵卒同樣

土にまみれ逆に伏されて日暮に至るまで激しい御軍務に御精勵あり、夕暗の中を隊伍を整へて軍歌を高唱せられつゝ汗みどろの御身體で御歸隊少しの御疲勞さへお見せにならぬ御元氣さには士官學校出の若い將校などタヂ〳〵である、午後四時過ぎ聯隊から青山の皇子御殿に御歸還の殿下には先づ御入浴の後和服若くば背廣服に御召換へあり、御寛ぎのうちに和食の御晩餐を召され御居間に入らせられて御讀書につかせらるゝのである。御居間はホンの御簡素なものであるが書籍は殿下の御熱心を物語る如く專門的な參考書類が多く殊に外國の

文學書も

二三冊置かれてある、毎週十三時間御用掛り樞密院議長一木喜德郎博士の憲法、皇室典範等の講義を御聽取あり、其他に帝大教授姉崎正治博士について宗教（神佛は勿論世界的に或は概念的に）深作安文博士について思想問題社會政策、加藤虎之助氏について古典學、曉星中學教師佛國人ガバルタ氏について佛蘭西語、陸奧伯爵夫人について英語をお習ひ遊ばされる殊に思想問題、社會問題研究には深き御趣味をもたせられ皇室と國民との接觸については殊の外御心を用ひられてゐる、御學問は大抵八時半か九時半頃まで續けられそれから新刊書類、新聞雜誌等の御閱讀に時として

十二時を

御過ぎする迄も御熱中遊ばされるので側近奉仕者が『お身體に障りますから』と御注意申上ぐることも屢々であるさうだ、更にスポーツマンでおはす殿下には每年夏期の休暇中の日本アルプス御登山や赤倉にスキーランナーとしての御活躍、其他乘馬、テニス、ベースボール、水泳あらゆるスポーツに多大の御趣味を有せらるゝとは全國のスポーツマンの渇仰措く能はざる處であるこの宮樣が學習院時代『水車絶えず休まずくる〳〵と、働くことは人もまねせよ』と歌人としての一端をお示しになつた事は又興深いことである。

海軍の宮樣
御成年式を擧げらるゝ 高松宮殿下の御抱負

有栖川宮家をつがれて御懷しき御兒童時代から二十年近くを過ごさせられた青山皇子御殿から麴町三年町の有栖川宮邸に移られた第三皇子高松宮宣仁親王殿下には明治三十八年一月三日の御誕生で御歳二十一歳に達せられ目出度くも

本月中旬

頃皇族成年式により宮中賢所大前に於て御成年式を行はせらるゝ事に御治定遊ばされた、目下は海軍少尉として長門に御乘組であるが昨秋[illegible]ブスに罹らせられてから御靜養中にあり既に御平常と殆ど御變りなき迄御快癒遊ばされた、殿下の御日常は艦上生活の外はすべて各皇子方と御同樣で現在御所内では每朝午前六時過ぎ御起床朝の御拜禮ありて御朝食、夫れより臨內御散策やら御讀書に過ごさせられ時折には御運動にも出でさせられる、殿下には御研究を丸學と申し大正十二年有栖川宮威仁親王殿下薨去遊ばさるゝや今上陛下の思召しを以て同宮家の

御祀嗣ぎ

と定めさせられたもので有栖川宮家と御縁故深き高松宮の稱號を賜はつたのである、御成年式後は總て公式の場所に御參列は勿論貴族院の議席をも有せらるゝ事となるのであるが將來我が海軍を雙肩に擔はるゝ御覺悟で海軍部内の人々は更なり一般の讚しく期待申上げて止まぬ所である

創作の宮樣
野球の主將澄宮殿下

○てりつづくあつさの後の一雨に人も草木もよみかへりけり
○うつくしくさきみだれたる花ぞのに蝶のひら〳〵とびまわるなり
○かもめとぶかげもはるかに大海の波路の上を見えかくれする

この三首は麗らしき創作の宮樣として詩情御豐なるに批評を驚かし給ふた第四皇子澄宮崇仁親王殿下の御近詠であるが此の頃一しほに大人びさせ給ふた御作的御才能には東宮御用掛も只管感激してゐる殿下には學習院初等科の野球團ＡＳ倶樂部の主將で本年十一歳の新春を迎へさせられた、目下學習院初等科

御體重は

六貫百二十匁御身長四尺一寸一分に達せられる、殿下には每日午前六時から七時迄に御起床、御洗身の後伊勢大廟賢所の御遙拜あり、兩陛下竝に御兄宮各殿下の御眞影を御拜禮遊ばされて御朝食、午後二時半頃御間食あり、四時過ぎ御入浴、五時頃御夕餐を召上られ夜は大概八時から九時迄の間に御寢遊ばされる御平素極めて御頑健なので日々の御通學にも雨天の外は御徒步で御通學遊ばされる、御歸殿の後は學科御復習の後御苑內で御運動、土曜日の午後若くは日曜日には御學友や宮附職員をお相手に野球の御遊みあり

天晴れのチャンピオン

振りを示される、每水曜日には御參內、兩陛下、皇后陛下に御拜謁御興ある御物語りもあるやに承はる。

京城旅館同業組合

【同不序順】
阿川組
鹿島組
多田組
宮川組
西本組
荒井組

京城府本町二丁目
日韓書房
電話本局一四五五番
振替京城一一五五番

京城府吉野町一丁目
朝鮮農林會社
佐藤虎次郎
電話本局五五七番

京龍左官業組合

京城府蓬萊町四丁目
東亞牧場
電話五二一番

關繁太郎
京城永樂町一丁目
電話本局四七六番

京城府旭町一丁目
小林病院
醫學士 小林千壽
電話本局六九二番

砂糖、麥粉、直輸入商
德永商店
京城永樂町五十三番地
電話光化門 長二七三番 四八一番

京城手形交換所
組合銀行

京城醫師會

京城本町二丁目十九番地
三田政治郎

京城府黄金町一丁目
食料雑貨 橋本商店

京城府本町二ノ三九
大平堂印刷所

帽子商 淀屋商店
京城本町二丁目 電話本局八二一番

川勝京城支店
京城南大門通り 電話本局一〇三二番

京染呉服 悉皆洗張 たまや京染店
京城明治町 電話本一一九六番

京城長谷川町九三
モスコー軒
田村如矢
電話本局二四六六番

京城長谷川町
門田寫眞製版所
電話本局三二三〇番

京城本町一丁目
千代田號印舗
電話本局九八七番 振替京城九八七番

京城本町一丁目四九
黒川宮作
電話本局九六四番

クリーニング 毛織物洋服 丸洗 丸染 西洋洗濯
京城大和町憲兵隊角
大和屋
電本局五二五番

京城明治町二丁目
坂井薬房
電話本局一四四四番

菓子商 澤井兵松
京城旭町二丁目 電話本二六六九番

京城黄金町一丁目
岩田寫眞舘

京城府漢江通り一三
龍山水産會社
電話龍山一一五番

京城府漢江通り
島田忠作
電話六一七九番

京城府岡崎町
松本製作所

山田禎輔

京城府龍山元町
大陸護謨工業株式會社

京城府龍山漢江通り
服部房吉

木下不老堂薬房
電話九三八番 振替京城一五四〇番 京城本町二丁目

朝鮮水産會
京城大和町一ノ四四

小林靴店
京城明治町二ノ六六 電話本局三五七一

化粧品卸商 月本商店
月本政次郎
京城明治町二丁目 電話本局二三三八番

開平炭 合資會社 松昌洋行
京城出張所
京城黄金町二丁目 電話本局一七七五番

京城日丸水産株式會社
京城府旭町一丁目

京城本町三丁目
株式會社 京城劇場
電本局五七八番

合資會社 近澤洋紙店
京城長谷川町 電話本局二二七 九四三

同印刷部
電話本局九三一 七八九

京城本町二丁目
木島時計舗
電話本局一三九番

宇治屋茶舗
高井龜治郎
京城明治町二丁目 電話本局四一二番

旭金庫工業株式會社鮮滿代理店
合資會社 旭金庫商會
京城南大門通三丁目鮮銀前 電話本局二五一四番

京城本町二丁目
ダリヤ喫茶店
電本二八九四番

京城本町三丁目
京染商 しらぎ屋
電話本局三〇六八番

平井時計店
京城本町一丁目 電話本局三〇一番

和洋紙文房具卸商
江里口和吉商店
京城本町一丁目四八 電話本局一〇三〇番

德田商會
德田高二
京城永樂町二丁目 電話本局二三二五番

和洋御料理
カフエー富士
京城本町四丁目六四(思案橋ヨリ) 電話本局三三五番

京城府永樂町二丁目
新日本火災海上保險株式會社
京城支部

京城府南山町
中村組農林部

京城府明治町
美粧倶樂部

京城府岡崎町
朝日石鹼株式會社
電話龍山(長)三六四番

京城林町一九〇
西川商會

京城永樂町二丁目五十六番地
大福海上火災保險株式會社
京城駐在所
社長 松方正雄
專務取締役 有村丈次郎
本社 大阪市北區堂島濱通一

京城府黄金町三丁目三九
朝鮮教育普成株式會社
電話本局一九四八番

京城府本町二丁目
北島薬店
電話本局一五九五番 長七六一番

京城府太平通二丁目
石炭商 合資會社 西崎商會
電話本局二七二 二七七番

京城旭町二ノ六
犬養帳簿製造所

京城太平通り二丁目
株式會社 大海堂

京城本町壹丁目
合資會社 山岸天佑堂

黄金町三ノ三四四
野呂武雄

京城府太平通二丁目七十三番地
スレート 細見商店

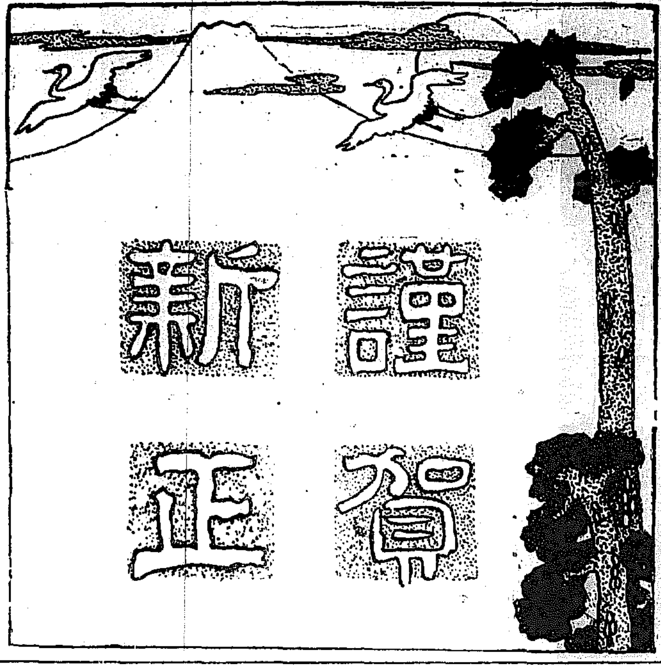
京城長谷川町
朝鮮製造 洋紙板紙 鼎商會

京城永樂町二ノ二四
中島法律事務所

京城本町三丁目三十番地
洋家具 學校用具 一般用達業 合資會社 宮入商會
電話本一六二六番

京城府本町三丁目
下川食品店
電話本四九七番

京城旭町一丁目
菓子卸甘栗 玄武堂



京城府若草町百六番地
西村元
電話長本局二二六三番

京城南米倉町三十五番地
池尻林太郎

京城府林町
本明雑木店

京城黄金町一ノ一九六
森電機商會
電本二二四八

京城太平通り二丁目
初音バー

京城本町二丁目五十八番地
釘本藤次郎本店
電話本局二七四番 自宅電話長四五一番 振替貯金口座京城二五六番

京城本町二丁目
釘本樂器部
電話本局二八三番 振替貯金口座京城六八四番

龍山浦三和町
釘本藤次郎支店
電話龍六三番 振替貯金口座京城七六三九

京城西界洞
釘本鑄物工場
電話龍山六六番

京城西大門監獄内
釘本金ヶ網工場

京城煉瓦共同販賣所
京城南大門通二丁目 日本生命ビルディング 電話本局三一六一番

京城長谷川町九十番地
中華料理 金谷園
電話本局一五二五番

京城長谷川町
備前屋旅館
鐵冷温泉
電話本局四一一五 三四一 四六一

早川堂看板店

株式會社 大澤商會京城支店
京城本町一丁目 電話本局長二六二 三四八〇 三九〇番

福壽火災保險株式會社
京城駐在所
磯邊積生
京城府黄金町三ノ三〇七 電本局長一五四

京城府永樂町二ノ二六
東神火災保險株式會社
京城出張所
電話本局長三一九番 振替口座京城二四六二番

京城府永樂町二丁目二番地
東邦火災保險株式會社
武井昌三郎
電話本局四三七番

京城酒商組合 (イロハ順)

千鳥正宗京城出張所 太平通二丁目 電話長本局一五一五番
河野酒店 堅志洞一〇 本町三丁目 電話光化門三四五番 電話本局一〇〇七番
高杉京城出張所 長谷川町八〇 電話本局長九四六番
田中支店 本町三丁目 電話本局七六四番
山邑酒造會社京城支店 明治町二丁目 電話本局長八四九番 一四五四番
山本商店 本町二丁目 電話本局五七五番
前田合名會社 本町二丁目 電話本局長一三七番
増田屋商店 本町一丁目 電話長三五四番
首藤商店 黄金町二丁目 電話本局長一一七一番

京城府若草町一五七番地
酒類 石炭 薪炭商 津々見商店
電話本局九五一番

京城南米倉町
辻本商店

京城材木商組合 (イロハ順)

石崎京城支店 本明雑木店 堀内商會 鴨綠江製材無限公司 大川材木店 (正)材木店 加來木材公司京城支店 柏木材木店 大二商會 高田材木店 中村材木店 永田材木店 熊野商會

丸一商會 滿鮮工材株式會社 小森材木店 秋田商會 淺見商店 淺野材木店 三榮商會 三幸洋行 北方材木店 三井物産株式會社木材部 平井材木店 須川材木店

京城旭町二丁目七十八番地
横濱火災海上保險株式會社
京城支店
電話本局長二九三 振替京城一三二一番

京城永樂町二丁目六十番地
山陽商會
電話長本局一五七九番 振替京城二七四一番

京城永樂町二丁目二十五番地
共濟無盡株式會社
共濟信託株式會社

京城女子技藝學校
職員一同

京城府仁寺洞一三六
辯護士 高橋章之助
電話光化門二五六番

京城飲食店組合

賞牌メダル、徽章 優勝旗 タオル製造
大久保眞敏商店
京城黄金町四丁目 電話本局二三一四番

京城黄金町三丁目七番地
貸家業 大坪文吉

京城驛前
カフエーダイヤ

パン、菓子類製造卸小賣
木村屋京城支店
京城府明治町二丁目 電話本局二八七〇番 振替京城二八八二番

京城本町二丁目
かき餅 あられ 豆類一式 だるま堂
電話本局三八三番

京城長谷川町九十一番地
朝鮮總督府官報 諸新聞大賣捌
合名會社 盛文堂
電話本局四二六番 振替口座京城七四七番

盛文堂南大門支店
京城南大門通五丁目 電話本局三六〇番

盛文堂鍾路支店
京城瑞麟洞 電話光化門六三八(取次)

盛文堂龍山支店
龍山驛前 電話龍山四一四

京城府本町二丁目
町田新聞舗

京城
新町遊廓組合

京城生命保險會社
同業會

和牛物語

中央畜產會事務理事 岩田勇

今年は丑の歲であるから牛の研究をして見やうと思ふ。一體牛といふ字は二本の角と頭と尾とを象どつた字であるが、日本で『うし』といふのは大獸の轉化である

神代記に現れた牛

我國に於ける牛は其源をヤツクに發してゐるかゼブに發してゐるか或は我國固有の野生牛であるか學者の間に多少の異論があるが我國にも神代既に牛の棲息してゐたといふことは事實である。神代卷に保食神死して牛馬と化るとあるを始めとし古語拾遺に『昔大國主神營田日、以牛宍食田人』とあり文武天皇紀に『戊午年八月、天皇、使弟猾兄猾弟猾大設牛酒以勞饗皇師焉、天皇以其酒牛宍班賜軍卒』とあるを以て見れば當時既に牛が棲息してゐたことが窺がれるではないか下つて顯宗天皇の御代には牛馬野を被ふの盛況を呈し安閑天皇の御宇には勅を發して牛を難波（難波は後世の攝津）の大島、蝦島に放なたしめたといふことである。

牛乳搾取の濫觴

孝德天皇の御代には吳の歸化人智聰が我國に歸化し搾乳の技術を汎く四民に傳へ延喜の御代には宮中に乳牛院を置き諸國に命じて酥（牛酪）を貢獻せしむるの制を設けられたのである。延喜式に『凡諸國貢酥各依番次、取乳者肥牛日大八合、瘦牛減半、作酥之法、乳大一斗煎得酥大一升云々』亦貢酥の順序は伊勢、尾張、以下の八箇國を第一番とし播磨、美作以下十二箇國を六番とし總て四十五箇國より五壺乃至二十壺の酥を合せ、五百七十九口を徵したのである。光孝天皇の御代に美濃、下野、若狹、能登、越前、越後、丹波、但馬、因幡、伯耆、石見の國司等百餘の牌を遞へたといふので位祿公廨を減ぜられたといふことがあるが、この制度が如何に嚴重に行はれてゐたかが窺はれる。而してこの制度は建武の頃に至つて廢つたのは、皇室式微の結果であることが偲ばれる。山城の國に醍醐といふ所がある。これは昔酥を作つた土地であるからで牛酪のことを醍醐といふところから此名ある所以である。

牧場の新年（平山牧場にて）

和牛の種類

さて我國に於ける牛の品種も尠くないが延喜の頃牧場牧畜といふ人が貢牛の京師に集まつたものを相しその中で皮肉筋骨の最も美なるものを掲げた手記に、一、筑紫牛（壹岐牛）二、御厨牛。三、淡路牛。四、但馬牛。五、丹波牛。六、大和牛。七、河内牛。八、遠江牛。九、越前牛。十、越後牛と順位をつけてあるが現今に至るまで現存して相當の名譽を保しゐるものは但馬牛であるがこれとてもその後いろ／＼變遷に遭遇しその當時の體態を失つてゐることは勿論今日では各縣の畜牛が改良和種といふ名の下に年々改良されて居る。

牛輸入の沿革

牛を外國より輸入したのは欽明天皇の御代紀元千五百年頃吳國主照淵の孫智聰が天王寺村大和節門なるもの百濟より牝牡各一頭を獻じたのを嚆矢とする、聖德太子、四天王寺を同村に移すに當つてその牛を用材の運搬に使用したので後に天王寺に三十町步の牛牧場を下附せられた、依つて時人之を牛町といつた數年を經て此牛大に繁殖し漸次近國に傳播せられたといふことである、又享保年間德川八代將軍印度より白牛を輸入してこれを安房の嶺岡に放つたといふ說があるがこれは『嶺岡白牛酪考』にその牛は印度産のものではない、想ふに斯かる間違ひを生じたのは『嶺岡の白牛は漢土之れに比すべきものなきも獨り天竺雪山の白牛に比す』云々とあつたのを誤り傳へたものであらうと書いてある。明治年間に至りては大久保利通公の農務卿たりし時、英米二國より洋種を輸入し近年に至りては政府及び民間の當業者によつて數次歐米諸國より多數の種牛輸入せられ吾國牛種の改良に供せられてゐる。

肉食の始まり

元來我國に於ける肉食の習慣は古代よりあつたもので前既に述べた如く神代より佛法旺盛の頃までは牛肉は盛に食膳に供せられたのであつたが聖德太子以後漸く獸肉を食することが廢つた鎌倉末の頃といふものは獸肉は穢れ多きものとして之れを喰ふ時にも家屋內で煮ることはしなかつたのである、然るに今より六十年前江州彥根藩に於て屠つた牛を幕府に獻じ江戶の藩邸に送つた、そこで藩内に於ては一の國産として公然之を拂下げた、處が意外に需用があつたので對馬藩でも之に倣ふて公然牛肉の拂下げを始めた爾後漸次肉食の風起り特に近代歐米文物の輸入と同時に國民の生活に一大革命が起つて今日では如何なる津々浦々に行つても牛肉屋のない處はない。

牛乳の飲用

牛乳も又古代に於ては一般に飲用せられたが肉食と同樣一時全くその飲用は廢れたのであつたが德川吉宗、嶺岡の白牛から牛酪を製し後家齊江戶厨城外の廐舍に牛を繫ぎ牛酪を製せんが爲牛乳を搾つたことがある、當時市內のもの大患に罹るときは私に牧夫に請ふて些少の牛乳を高價に購ひ之れを服用せしめ若し起たずして死すると『牛乳も猶生を保つ能はずこれ天命なり』といつたさうである斯くの如くして此時代より漸次牛乳の需要起り今日に於ては全國を通じて五萬三千餘頭の乳牛飼養せられ八三萬石の乳が搾られてゐる。

和牛と世界の牛の比較

我國の牛の總數は約百五十萬頭であるがこれを世界のそれと比較すると實に僅ない心細い感がある

國名	人口千に對する牛の數	一平方里の牛の數
日本	二九	九
英吉利	二八二	九六
墺太利	二六四	八二
匈牙利	三五〇	五四
獨逸	三四三	九三
佛蘭西	三六六	六八
丁抹	七五二	一〇〇
伊太利	一五四	四五
和蘭	三三六	一三四
白耳義	二六二	一五七
瑞西	四〇三	八四
露西亜	一三九	二一

であるから肉も乳も不足であるのみならず多大の輸入をして正貨の流出を致してゐる、特に近年に至つては農業の經營が痛切に感ぜられるのであるから幸ひにこの丑の歲の新念事業として本年は大いに牛の改良繁殖を計畫して貰ひたいものである。

日本に生れた 世界一の乳牛 一日の乳量四斗一升五合

日本がこれだけはせめてもの世界的誇りとしてヤンキーの國です、ら徹敵し心細く及ばずとズント高い鼻柱を叫まして居るものがある。それは世界一の乳牛が我國に生れたことである。丑歲の年頭に當つてこればかりはウンと誇りとせなければならぬのであつて近年我國の畜產事業が漸次進步發達しつゝあることを明かに物語つてゐるものである、中央畜產會では全國のホルスタイン種の牛に對し血統登錄を行ふと同時に畜產獎勵の意味から乳牛の檢定を行つてゐるがその中に八丈島東山富田氏所有の乳牛エレンピーター、チエグランワン號は一年間に能く百二石七斗八升一合四勺餘の乳（バタにして千七百九十三ポンド）を出し、富山縣の稻村由太郞氏所有のプリンス、アンナ、ローランド號は一年間の乳量九十四石八斗〇八合二勺餘（バタとして千八百二十七ポンド一四一九）を出してゐる、共に世界のレコードを遙かに突破してゐるのであるグランワン號が一日に最も多く乳を出した量は實に四斗一升四合八勺餘即ち酒樽に一杯より以上に出した譯である、今まで世界のレコード乳牛として米國が誇つてゐたセジス、ピーター、チエフロスペフト號は一年に九十三石四斗五升三合五勺の乳量でバタのレコードは加奈陀のデコール、プレス、ジス、ジヤシー號で一年間千三百四十九ポンド三五二であるこの世界一の乳牛は今年十一歲になつたので背の高さ四尺五寸二分、身長五尺六寸二分、胴の丸さが六尺八寸二分、體重百七十餘貫で我國畜產界の一つの大きな誇りである。

是は何うだ 素晴らしい大乳牛

牛そのものから云つても系統から言つても申分のない牛がある、この牛はマラソン、ベスパークの種で母牛はデイジイ、アーギー、オームスビー二世である、この母牛は一年間に八百七十五ポンドの牛酪と二萬九百九十六ポンドの牛乳を出した記錄を有する、その姉牛のデージー、オムスビー三世は世界の記錄を破り滿一歲の時に一千八十八ポンドの牛乳を產し三歲六ケ月で一千二百四十四ポンドのバターと二萬六千三百四十ポンドの牛乳を出した、此の牛は近く北米國乳牛品評會に出品する筈である米國デラ、ウエーア州、ウインターサー牧場に百ポンド以上のバターを產出する三頭の牛がある、そのうち一頭はベス、ジヨハンナ、オームスビー一頭はその母にあたるスプリング、ブルツク、ベスパークであつて、共にウインターサー牧場のスプリング、ブルツグ、ベス、パーク家の家族である、ベスジョハンナオームスビーは三頭、スプリング、ブルツグ、ペス、パークは二頭の子を持つてゐるが是は何れも種牛である（ホルスタイン、フリーシアン、ウオールド誌より）

◇

東小門外の平山牧場が昨年夏北海道牛商會社から購入した乳牛は件の種牛の子に當り一日の乳量は三斗五升以上五斗位で同牧場の最高記錄を持つてゐる

世界的の大乳牛 デー・ジイ・アーギー・オームスビー

丑にちなんだ 面白い話 俚諺やら迷信やら

犧牲といふ文字

牛はよく眞理を知り得るといふので古來支那や印度では牛とはのろく／＼して居ても大膽に祭祀する昔の賢人が牛を犧牲として山川の神を祭つたやうにユダヤ人も犧牲に牛を用ゐたものである。そして之に用ゆる牛は潔淨無瑕少しも傷のつかぬ申分のないものを選んだとある。これは東西が共通した面白い點で太古から如何に我々人間に取つて牛が緣故が深かつたか犧牲に富む牛を用ひた結果支那では犧牲といふ文字に牛といふ扁をさへ用ひた。

丑歲の人は鰻を食はぬ

日本の諺にも種々牛に關したことが多い。その中に『丑寅の年の生れの人は鰻を食ふべからず』とある。古來から世俗の言ひ傳へださうだが現在では丑寅の歲の人だらうが平氣で鰻丼の二人前位は平げるから何もならぬがその物語りが面白い。それは丑寅の歲の生れの人は一代の守り本尊が虛空藏菩薩にて鰻を食ふことを禁ぜられてゐるのださうだ。また『牛申高く巳年豐年』といふ諺がある。丑年や申年は米價高く巳年は豐年であると云ふ意味で、今年は大いに米の高い歲で薄給者泣かせの年かも知れぬからうつかりしてゐられない。それから四國の土佐では『牛の正月物言はぬ』と云つて小兒の拗ねても物を言はぬ時からかつていふのださうである。其他牛の日の事は長引くといふのでよく物事を丑の日にやらぬ人がある

丑の刻には草木も眠る

牛といふ動物が如何に靜かであるかと言ふことは昔の人も時刻を表すのに丑の刻と云ふて一般靜かな眠る丑滿時、一種の凄サと物凄く……』なんかといふのも面白い。滑稽なのは『牛の尻』と云つて物識りといふ事を皮肉る譯である、恐らく『モーのシリ』といふ處から來たのであらうか。『牛に經文』といふ諺は猫に小判、馬の耳に念佛と大差はない。

丑の日に灸を取ると火事になる

これはどういふところから言ひ出したのかよく判然してゐないが先づ昔の人は何事かを攫んでゐるからこれも迷信の一つであらうが昔から知つてゐる人は守つて來たらしい、大阪では相場師が相場の安いことを丑ベツタリと云つて丑の日は相場が安いと信じてゐる。牛の涎れの長きやうと商人は大變に牛の涎れをかつてゐる。關西の或る田舍では牛の糞を唯一の燃料としてゐる處があるがそれは牛の糞を拾つて來てよく太陽に乾かして焚きつけにする。その煙は隨分芋を燒くのに持つて來いといふ美味さを加へるのである。丑に關する物語りはまだ澤山ある。長い間われ／＼の爲に犧牲になつた牛は人間とは離れられない動物の一つだ。

生魚 清水良雄氏筆

趣味の飼鳥

朝鮮總督府遞信局 藤尾直勝

◇籠の鳥……と言ふても彼の俗謠な映畫を言ふのではない趣味として飼ふ小鳥のなどを申すのである

◇飼鳥趣味の效能としては、岡田文學士の言ける如く、朝起もその一つである、實際小鳥の五月蠅でも鳴けば、夜が明けるか明けない內に、愛らしい聲で朝聲の一囀を囀つて與れるものもあれば、又飼主の心に突透るまで友呼び交はすものもある、それを枕に近く聞きては、分時も寢床に執着して居られない、誰しも可愛い小鳥の爲に、何事を捨ててもその世話を先きにする氣になる、この朝の卅分、活動に入る前の三十分、これが飼鳥者でなくて味ふことの出來ない氣持よい時の經過である。

◇春に秋に小さき音樂家は、妙なる獨唱に、はた又友との合唱に我家の家族一同を樂しまして呉れる、だから飼鳥は主人一人の樂みではなく、家族的趣味の一つである、未だ經驗をしない諸君にお勸めをしたい、

◇私は今現に赤鶸、駒鳥、駒、大瑠璃、小瑠璃、小燕、貿鶴翎眼兒、及鶺鴒四羽を飼育して居るので、朝は可なり忙がしい、京城には素人愛鳥家も相當多い樣子だから、月に一回位は好事家相會し『鳥の會』でも開いて、お互に自慢の愛鳥を持寄り、飼育上の天狗話やら、失敗談を交換するのもより面白からう。これもお互の趣味慾を滿足せしむる一の方法であらうと思ふ

戀の珠玉 (一)

田山花袋

「そんなにして遊んで好いのかね？」

『大丈夫よ』

Bは笑つて、『旦那に見られては困るんぢやないか？』

『そんなこと心配ないの……。見つかつて、いやだつて言つたらよして了ふばかりですもの』

飽きも飽かれもせずに別れた德子と、ハルピンのホテルでさうした一夜を送らうとはBは思ひもかけなかつた。それはそこにゐるのは聞いて知つてゐた。大連で女から手紙も受取るには受取つた。しかもかういふ風に自由に、簡單に逢ふことが出來るとはBは思つてゐなかつた。せめて顏だけでも見られゝば滿足であると思つてゐたのであるのに、昨夜電話をかけると女はすぐやつて來て、それからの戀心の復活、何處にもさうした自由な歡樂はあり得まいと思はれるほどの戀のエクスタシイ――今朝目覺めた時には二人は顏を見合せずには居られなかつたことをBは繰返した。

『でも後で困るといけないよ』

『心配なさらなくつても好いの……。それよりも、私、東京へ歸りたくなつちやつた……』

『馬鹿な！』

Bは笑つて見せた。

『連れて行つて下さい……ね？ね？』とても出來ないのをちやんと承知してゐて、しかもわざと甘へるやうに德子は言つた。德子はベツドの傍にある洗面所で顏を洗つて、頭を梳いて、白粉をさつと刷毛で刷いて綺麗になつてゐた。

『……』

『駄目？』

男の顏をじつと見て、

『どうしてから人間と云ふものは思ひのまゝにならないものなんでせうね――』

『……』

『だつて、さうぢやないの？こんなに思ひ合つてゐるものが何故一緒になれずに、こんなに遠く離れて暮さなけりやならないの？それがこの世の道理？』

『……』

『男ツてのんきね。何とも思つてゐないんですものね？』

『……』

『ね？連れて行つて下さい……』

Bが眞面目な顏で沈默を續けてゐるのを見て、德子は溜息をついて、『私だつて、旦那がいやぢやないんです。いやではこんなにしてはゐられはしません、しかし本當にはそれより矢張貴方の方が好いんですものね……貴方だつてさうでせう？奧さんがいやぢやないんでせう。しかし奧樣よりも私の方が好いんですもの。……何故、好い同志がかうして離れてゐなくつてはならないんでせう。二人一緒になれば、眼に見へて好いことがちやんと分つて居りながら――』

『……』

Bは答への代りに、二三步近寄つていきなり女をかき抱いた。德子も强くBを抱き締た。いつか男の眼からは淚が流れた。女は低い歔欷の音を立てた。

朝鮮朝顏

劍花坊

(上) 四五人の親とは見えぬ舞の袖

大森の〇〇園の奧まつた離れ座敷に、朱塗の食卓を中にして、對座して居る男女、男は二十七八と見える所謂ハイカラの若紳士、女はちよつと見て男と同年輩、或はそれより若いとも見えるが、是は亦さう見せるので、實のところは男よりも年長で、或は三十を出てゐるかも知れない大年增。

『貴郞、隨分驚いたでせう、ホテルを出るなり、いきなりタクシーを呼んで、無理に御いつしよに乘つて戴いて、此家まで來るなんて、オホホホ……奇拔ね』

『奇拔過ぎますよ、かりそめにも月山夫人ともあらうものが、……ぜんたい、どうしたンです、僕を御からかひになる、といふことにしても、ちつと手きびしいと思ひますが……』

『そんなこと、ひどいワヨ、雪田さん、貴郞をからかふなんて、そんな不眞面目な女と、妾を思つて居らツしやるの』

『いや、必ずしも、さうと思つてゐるわけではありませんが、何だか、變ですからね、第一、斯うして奧さんと二人對座して居るところを、月山さんに見られたとしたら、どうでせう、果して、月山さんが、何とも思はないで、平氣で居られるでせうか、奧さんも亦、何とも無い氣持で旦那さまに對することが出來ますか、李下の冠、瓜田の靴、なぞと云ふと、黴の生えた東洋道德の濫習だと、冷笑はして居ながら、ヤハリ事實は、さういふ風に考へられて、大いに平和を攪亂した結果になりはしないでせうか』

『まア、何といふ、貴郞といふ人は、……それでかりそめにも新人雪田凍花とか何とかいはれて、女學生の渴仰を受け、自らも大に得意になつて居らして、恥しくは無いの……』

『女學生の渴仰……と、輕蔑したやうな御口氣ですが、女學生は純な、交り氣の無い、美しい感情の持主ですから』

『オウ、これは……失禮を申しました、御氣に障つたら御免なさいね、女學生は純な、交り氣の無い美しい感情の持主よ、妾達のやうな、良人を持つて十年にもなる、子供の四人もあるといふ御婆さんと同一には論じられませんからね』

『御怒りになつては困ります、僕は、ナニもそんな意味で云つたのじやア無いです、たゞ僕が女學生に……』

『モウ、澤山、女學生の話なら、聞きたくないことよ、が、それはそれとして、貴郞は妾と、斯うして、對座して居たつて、寂しいことが無ければいゝじやアないの、……でも、貴郞は寂しいことがお有ンなさるの』

『別に、寂しいとなんか無いんで、すが、月山さんが、これを見られると、或は知られた場合の思惑を云ふのです』

『ちつとも變じやア無いことよ、月山は、あれで、よつぽど、わけのわかつた、男らしいところが有るのですよ、それで充分に妾を理解し、自由をゆるしてくれて居るのです、解放主義よ、斯うしたところを、よしや見たにしろ、くだらない嫉妬なんか燒かないことよ』

『いや、どうも手放しですな、すると奧さんは、充分に旦那さまを敬愛して居らツしやるのですね』

『えゝ、充分に敬愛して居ます』

『それで居てどうして、僕をこんなところへ引ツ張つて來たのです』

『オヤ、じやア、雪田さん貴郞は、何故、隨いてらしやツたの？』

京城府古市町 材木商 熊野商會 松本豐作 電話本局一八一番

總督府醫院職員一同

京城南大門通三丁目九八七 富田商會 長電話本局三三〇九番 振替京城四五六八番
京城本町二丁目八六 富田出張店 長電話本局五五四番

三中井吳服店 京城本町一丁目 電話本局三七、一二六、五一九番

合資會社 清水組京城支店 京城府黃金町一丁目百一番地 電話本局長三四九番

文房具 紙 帳簿 測量 機運動具 シノサキ商店 京城本町一丁目 電話本局六四八番 一三〇三番

京城府黃金町四丁目 荷福仁助 電話本局一〇〇九番

東京火災保險株式會社 京城出張所 京城府南大門通三丁目 電話本局一〇六〇番

京城府太平通一丁目二九番地 名帥源一郎 電話光化門五九一番

京城府太平通一丁目 多田工務所 電話光化門一二二番

京城府竹添町二丁目 杉山久 電話光化門一八一番 五四五番

京城府本町二丁目 貴生堂 電話本局一三八番

謹賀新年

京城櫻井町二丁目一四五
傘提灯商 福岡吉二

京城旭町一丁目三番地
齋藤齒科醫院
電本一四一四番

京城太平通一丁目
觀劇町學 朝日乃旅館
電話本局七八四番

京城太平通一丁目
浦上申三
電話光化門七一三番

京城南山町
佐々木聚古堂

京城長谷川町二一番地
合資會社 牛島商店
電話本局四九六番

京城黃金町二丁目
日洋料理 銀松亭
電本二八一七番

京城本町二丁目
森啓助商店
電本四三〇番

京城本町三丁目
京染商 にや

和洋紙印刷業
合資會社 谷岡商店
京城本町四丁目
電話本局一三四〇番・一八一四番

京城太平通二丁目
德國顏料廠
電本局二三番

京城府公平洞八十七番地
大昌貿易株式會社

京城明治町一ノ五九
興業 末廣
電話本局一六六二番

京城南米倉町
和田常市
電話本局五一一番

京城長谷川町七十二番地
綿糸布商 宮林泰次
電話本局長二〇四五・二六三九番

京城本町一丁目
和洋菓子問屋 本城屋
本吉清一
電本二三四三番

教育圖書出版印刷業
中田明倫社
中田立三
京城府永樂町二丁目
電話本局二七七十番 振替京城一七一九〇番

朝鮮體育協會指定
京城南大門通三丁目一〇六
京城運動具商會
電話長本局一〇一〇一四番 振替京城一〇六八一番 電信略號『ウン』

京城本町
銘仙毛糸 ちゝぬや
電話本局五〇五番

京城黃金町一ノ一八七
滿洲恒業合資會社京城支店
電話本局三三六六番

京城太平通二丁目
綿糸布 燐寸粉輸入商 雜貨
株式會社 共進商會

京城本町一丁目
㊉ 平田百貨店
電話本局六九五・三二二八番

京城西小門町九十二番地
合資會社 朝鮮人參製劑所
社長 久松彥四郎

京城南大門通二丁目
堀井謄寫堂
堀井新治郎

京城本町三丁目
金物商 近藤安吉
電話本局一五六二番

京城黃金町二ノ九二
栗栖椅子店
電話本局二三三七番

京城明治町二丁目八十二番地
大阪海上火災保險株式會社
京城出張所長 圓城寺孝藏

京城南大門通二丁目一二四
エンゼル・ヤーンストーア
電話本局九二二番

京城南山町二丁目一九
秋吉正夫
電話本局長二四七番

京城南大門通二丁目一番地
朝鮮火藥銃砲株式會社
電話本局一〇五〇・一〇七九番

京城明治町
㊇ 京城魚市場
電話長一四七八番 電略(キ)又ハ(〇キ)

歐米直輸入 時計眼鏡 貴金屬一式
田中時計店
京城本町二丁目百八番地
電話本局二五七番 振替口座京城四三八七番

京城南大門通一丁目九十三番地
皮革直輸入商 北村商店
電話長本局七〇番 電略イ

京城明治町通り
富屋洋品店
京城本町二丁目
富屋支店
電本二六九番

三國商會
土井誠一

京城內地人辯護士會

京城南山町三ノ一九
殖産無盡株式會社
社長 藤野富次郎

金川食堂
金川組

鞄製造販賣元 Ⓐ
京城本町二丁目一四
天野旅行用具店
電話本局一三二三番 振替口座京城六二〇七
工場 京城黃金町三丁目三四
支店 京城鍾路通二丁目一〇

京城本町二丁目二番地
一番ヶ瀨慶次郎
電話本局四〇〇五番

京城南大門通五丁目
日本セメント株式會社
京城出張所
電話本局五八五番

京城天然氷株式會社
京城旭町二丁目一番地

京城印刷業組合

株式會社 **大倉洋紙店京城出張所**
京城南大門通二丁目
電話 四九〇番

土木建築請負 **小寺組**
小寺忠行
京城府竹添町二丁目
電話光化門五九七番

齋藤合名會社
豐國製粉株式會社

朝鮮火災海上保險株式會社
京城府黃金町一丁目九十七番地
電話 本局長三三〇番・三三二一番
振替貯金口座 京城一九番

高瀨合名會社京城支店
京城府南大門通三丁目九十五番地

三井合名會社朝鮮農林部
京城長谷川町一一五
電話 本局四一五番

京城本町一丁目四十八番地
室內裝飾品 織物敷物類 西洋家具並 金庫及煖爐 商
株式會社 **横山商店**
電話 長本局一六七番
出張所 神戸市元町一丁目二三〇番屋敷 電話長三ノ宮八〇四番
奉天浪速通二七番地 電話三九〇番

京城本町一丁目
鞄製造販賣 **高木鞄店**
電話本局二一五三四番

金剛山電氣鐵道株式會社
京城出張所
高陽郡漢芝面
電話本局一六八五番

京城府黃金町二丁目
石田建築材料店
電話長本局一一六一番

京城明治町一丁目
瀧川靜江
電話本局三〇二番

京城本町二丁目
石川物産商會
電話本局一八八四番

京城金物商
【イロハ順】

井原助太郎　岩田留楠　橋口卯作　原田熊夫　合名會社堀田京城支店　德木京城支店　朝鮮貿易組合　金川清助　吉川藤四郎　恒川商店出張所　釘木藤次郎　丸三商會　福田又兵衛京城支店　近藤安吉　佐野彥藏　佐藤半次郎　嶋田忠作　柴田國市　株式會社進和商會龍山支店　鹽金卯一　毛利辰次郎　森本重太郎　森田清松

浅野セメント會社
京城出張所
京城府大和町一丁目
電話本局長六六二番

農業、開墾、水利灌漑
不動産管理信託
㐂不二興業株式會社
朝鮮京城府黃金町一丁目

第五十議會に直面して　一

三派の協調は堅い

政友會幹部長　岩崎勳

五十議會は政界の消息通から之を見れば何うにしても波瀾重疊を極めるであらうと云ふやうなことを傳へられて居るけれども、我々當局の衝に在るものの目からこれを見れば却て平凡でありはしないかと思ふ。勿論平凡は餘り人の好まぬ處であり、殊に第五十といふ數字が何等かある記念すべき事跡を留ましめるやうな感があると思はれるけれども先づ政治の原則から考へれば遂に都市に於ける政友會中央大會に於て我黨の總裁が聲明された通りで此內閣は三派の聯合で殊に時代の要求、國民の輿望によつて成立したもののであるから此

大なる協調の力を根幹

として立憲政治、政黨政治の爲に動くともその爲すべき丈けのものは爲さなければならぬ。爲すべき丈けのものと言へば勿論多くあるけれども此內閣の成立從その天下に聲明したるものは曰く『普選の斷行』曰く『行政財政の整理』曰く『貴族院改革』等である、而して、普選法案は既に成案を得て上奏の手續を盡し、行政財政の整理は既に樞密院の議に附せられて居る、又貴族院改革問題も逐日其實現に歩を進めて居るのである。其爲すべき處のものが成されつゝあることは言ふまでもないのである。現在の情勢から推して行くならば此五十議會の前途に就ては自ら明かであると思ふ。然しながら政界の前途は固より且に夕を測られないのであるからして何時如何なる方面より如何なる變化が生ずるやもそれは神ならぬ身の知る由もないけれども凡そ責任といふ觀念から之れを考へれば、假令各方面に於ける勢力の變化數字の變化等のことがあると假定しても此變化に適いて政局の轉換をしなければならぬやうなことは殆ど想像し能はぬ處である。尚之を具體的に謂へば假令この變化のために政友會が第一黨にならうが第二黨にならうが唯その事丈けで政友會の責任觀念に變りはないのである。從つて此變化が直に

今期議會の勢力の上に

直ちに變動を來すと云ふことは有り得べからざることである。此意味に於て我々は常に三派の協調と云ふことに就いても政府との疏通といふことに就いても愼重なる注意を拂つて萬遺算なきを期しつゝあるのである、只然し內閣が三派聯合である以上は要するに三派協調の責任觀念を以てするにあらざれば凡百ことに向つて此原則の遂行は出來ないのである。少くとも我政友會は昨年一月分裂當時の國難に適いて而して國民一般の之に對する從來の信頼を裏切るやうなことは決してないと斷言する、既に斯くの如くして尚此議會に何等か變化が起つたとしてもそれは勿論我政友會以外の何處かに何等かの原因して發生したものと斷定する外はないのである。要するに自分は五十議會は斯くの如き觀測と信念の下に當面して行く積りである故に區々たる黨の利害の如きは大局の上よりこれを忍ばねばならぬ區々たる個人の感情は固より責任の上から之に堪へなければならない、大我心を滅すと云ふは即ち此意味に外ならぬ、身を殺して仁を爲すは政治家の要諦である、殊に貴族院問題等に於ては

世上種々なる取沙汰が

あるけれども此根本觀念さへ失はなかつたならば其解決の如き極めて易々たるものである。我々は當代の政治は極めて圓融にやり度い過誤と纏頓にやりたい假する處に向つて直つ直くに勇往邁進したい過去の種々なる權謀術策、乃至機略の如きは殆ど當代に於ては其必要は最早却く害惡の源となると思ふ、瓦全よりも玉碎と云ふのは當代に於て政治を執るもの心掛けねばならぬ道であらうと思ふ、而して我々は國論を繼り任務を大觀した上で更に輿論に鑑み四圍の關係に顧みて我々の執るべき道を執る積りである、其擬所即ち時代が變化を要求せず國家の爲に現狀維持を必要とすれば我々は飽迄現狀を繼續するも亦已むを得ぬであらうが、其反對に時代が新局面の展開を要望するとならば勿論之を容るゝに決して人後に落ちるものではない。

問題は上院改革

革新俱樂部　植原悅次郎

第五十議會に對しては種々の豫想がある樣である、或者は三派協調が破れ內閣が崩壊し議會が解散されるとの極端な考へを持つてゐるものもある、然れ共政黨は、公な團體であるから理由がなくして今直に喧嘩別れをする譯には行かぬ。普選問題で可成り三派と政府とがいがみ合ひ、之に乘じて政本合同を策し政界を攪亂しやうと企てた者もあり、引いて五十議會に對しても相當悲觀論を稱へるに至つたのであるが三派の提携は一朝一夕のことでなく淸浦內閣成立に對し共同宣言を發表し一定の主張を以て現れ出たものである。普選の斷行、行財政の整理、貴族院改革といふが如きは共同の主張で三派は之を實現せねばならぬ責任を持つてゐる。之れをなさなければ三派は

國家社會に對して面目

がない、若し三派が私情私念の爲めに三派共同の之等の主張を實現せざるに於ては我國の政黨の信用は地を拂ふものと思はなければならぬ、三派の黨員も恐らく之れを痛感してゐることであらう、それ爲めに第五十議會に於て內閣の運命に拘はつたり政變を惹致するが如きことはあるまい。總選擧に於ける主張主義を根底として內閣の成立を見たるは我國の憲政史上今回の護憲內閣が初めてである、三派の諸君も之れをよく諒解してゐるものと思ふ、而して三派が飽々のことを協定して之れを政府に實行せしむることは立憲政治の本義である。立憲政治は輿論政治、若しくは政黨政治である故に、三派の內閣である以上三派の異る意見を調和協定して其實現を期することは當然であつて、之れを非難するものが間違つてゐる、故に三派の協調と現內閣との關係は頗る圓滑に進展しつゝあるものと思はねばならぬ。實際見方に依つては現內閣程有力なものはない、即ち三派はどうであつても、有力なる反對黨がないからである。政府反對黨として

恐らく政友本黨程微力

で意氣地のない而も國民の信望を得ぬものは無からう」。組織著名を標榜するに極端な保守主義な政友本黨を向ふに廻してゐる現內閣は先づ以て太平無事なる內閣と言つてよからう。若し現內閣の基礎に於いて、興味があるとすれば、それは三派間に於ける意見の相違でなく強き反對黨を持たぬことである、強敵を有すれば自然と味方も緊張する、然るに政府反對黨たる政友本黨が如何にも貧弱なものであるから、政府や三派の氣分がゆるみ勝ちになるのは免れぬ、只問題となるのは貴族院改革問題である、假りに貴族院改革に就き貴族院の間に紛糾が生ずるとしても、內閣が之れを以て國民の判斷を求むる決心を有すれば、自ら解決の道が開かれるのであらうから、五十議會は先づ以て無事に終了するものと見て差支へなからう。

死力を盡して奮鬪する覺悟

政友本黨政務調查會長　小橋一太

第五十議會はわが帝國の現狀及內治外交の點より見て頗る重大なる關係を有するものであつて、其議會に於ける成績結果如何は直に我國利民福の上に至大なる關係を及ぼすものと認めるが故に苟くも政治に志しあるものは大いに其の成行きを注目してゐるであらうが、殊に公人として政黨政派に關係あるものは充分括目して政府の施政如何を監視しなければならぬ我々政友本黨は唯一の在野黨として出來る限りの力を盡して國家の爲めに有効適切なる效果を舉くるやう奮鬪する覺悟である。而して今期議會には非常に重大なる問題が幾多横たはつて居る、即ち財政經濟の重大なる**外交問題**の外、內政問題としては行政財政の整理、選擧法の改正、貴族院制度の改革問題等である處が現內閣の成立以來なした處の外交を見るに常に時宜を失して何等なす處なく我帝國の前途に對して誠に憂慮に堪へないものがある。對米關係に於て何等爲す處なきは世間周知の事實であるが對支關係問題に就ても現內閣の態度は或は恐る可き帝國の權益を失墜するに至りはせぬか。我黨としては今期議會に於ては充分此の點に就て大に政府の注意を喚起する考へである。

行政財政整理 に就ては政府は當初頗る宣傳を大きくして居たが其結果を見ると全く羊頭狗肉にして單に一二の官廳の廢合等を行ひ財政の基礎を確立することが出來ないのみならず却て人心を不安ならしめ各種の事業は萎縮し國家經濟の發達は之が爲め著しく阻礙せしむるの惡結果を來したるに過ぎぬ。財政計畫の具體的實現に就ては充分徹底に討議する積りである。

選擧法改正 に關しては我黨としては國體を重んじ現下の國情に鑑みてなるべく民意を暢く代表する趣旨に依り適切なる改正を行ふことは異論なきのみならず其趣旨にて充分討議する考へである。

貴族院改革 問題は未だ政府の成案を見ないことであり議論上の問題としては必要なる改正は異論なきも政府の具體案を見たる上愼重に審議したいと思ふ。我黨としては地方の農村振興に就ては常に努力實行し來つたことは世人の認むる處であるが地方財政の逼迫せる今日

義務教育費 國庫負擔を增額することは最も必要なことである。此問題に關しては從來主張した結果既に四千萬圓に增額を見たが我黨最後の目的としては是非共小學校敎員の俸給全額一億二千萬圓までは增額せしむべきものと信じてゐる。而して今議會に於ては其目的を達する道程として數億の半額に達する增額をしたいと思ふ。

多年の懸案を解決した普通選擧法案

內務省參政官　鈴木富士彌

多年の懸案であつた普選法案も愈々今回の加藤內閣によつて解決される運命に到達した、日本の憲政史上特筆大書すべき重大事項たるを失はぬ、政友本黨あたりでは普通選擧を單に選擧權の擴張と云ふ意味に曲解して居るが之れは全然意義を誤解したもので兩者立論の出發點を異にするものである、即ち普通選擧は總ての國民を對偶として其參政權を認むるもので政治上人格として認むと云ふ正義人道の立脚に基いて居るものである、此の意味に於て普通選擧の斷行は光輝あり精彩ある制度と言はなくてはならぬ、然らば今回政府の提出せんとする普選案は如何なる內容を有するものであるか、政府は昨年九月上旬に草案を作製したが更に其完璧を期する爲め與黨三派の協調して作成せる草案を參考として屢々會合を催して協調案の趣旨を攝取し、然る上訂正すべきものは訂正し條文を整理して十一月法制局に廻り十二月中旬法制局の審議も終つて樞密院に御附せられた次第である、樞密院の議を經決定しないうちは其內容は確定的のものとは言へないが、大體に於て左の如きものとなるであらう。

選擧權及被選擧權

選擧權及被選擧資格の中から納稅の要件と住所の制限を撤廢して、年齡二十五歲以上の帝國臣民たる男子に總べて選擧資格を有せしむる事としたが茲に注意すべきは、從來選擧權及被選擧權のなかつた華族の戶主、學生生徒にこれを與へた事、それから神官、僧侶、小學校敎員、請負業者等は從來被選擧權はなかつたのであるが、今回は之等の人々に全部附與することにした。

選擧區

小選擧區を中選擧區に改め一區議員の定員を三人乃至五人に改め、大體に於て人口四十二萬人に付き一人と云ふ割合に配置した、選擧區は全國で百二十二區であつて、市の獨立選擧區制は之を廢止したるも人口の關係上東京、大阪、京都、神戶、名古屋、橫濱は獨立選擧區とすることになつた、從つて現行法に於て選擧區は三百七十四の多きを數へたが、今回は其中二百五十二區を減じた事になる。更に之を區分すれば

	選擧區數	議員數
三人區	五十三	百五十九
四人區	三十八	百五十二
五人區	三十一	百五十五
計	百二十二	四百六十六

從つて議員數は二名を增加したこととなる。

選擧方法

選擧期日は從來餘りに長きに失して、淸浦內閣の如き一月解散して五月に選擧を行ひ、其間內閣の壽命を强いて引延ばしたことになつてゐるが、之は非常に弊害があるから解散の後一ケ月以內に、總選擧を行ふことにした。任期滿了の場合を更に短縮したいと思ふて居る。候補者に對しては屆出制度をとり候補者たらんとするものは選擧期日十日以前に保證金二千圓を添へて屆出を要することとした。而して若し候補者が法定數（總投票を議員定數で除した數の四分ノ一）の得票が無かつたものは之を沒收せらるる事になるものである。又屆出候補者の數が議員定數を超へざる時は選擧を行はずして當選人とする制度を設けた。又盲人の點字投票についても適當の方法により之をなさしむる事に決定した。

選擧運動取締

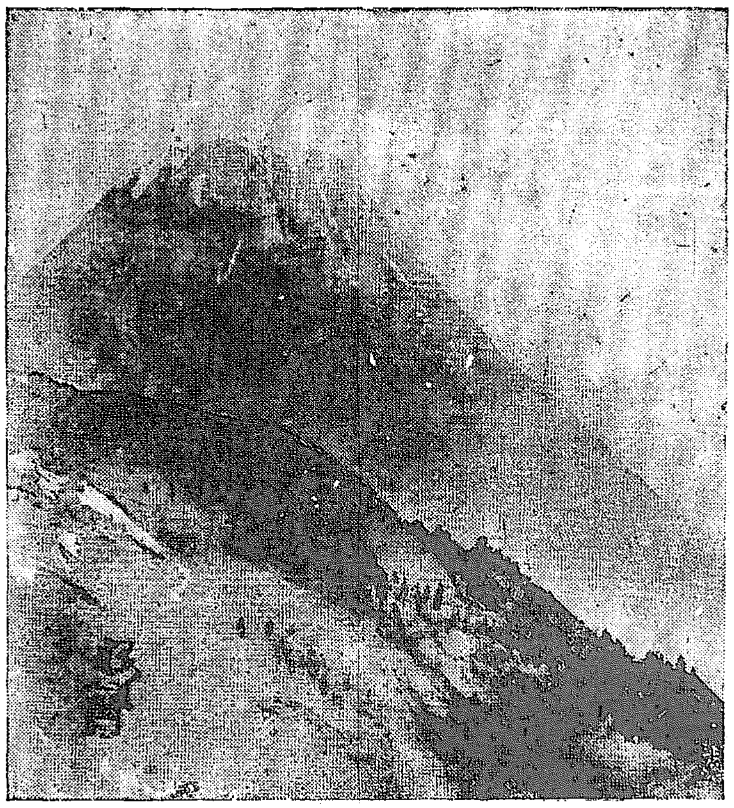
選擧において從來最も弊害の多かつた戶別訪問を絕對に禁止し事務所は之を七ケ所以內に限り事務員及選擧委員は之を通じて五十人以內と定め、選擧長一人を選任して一切の事務に當らしむる事とした、事務員には實費及手當を給することは出來るが選擧委員は實費の外、手當を與ふることは出來ない、選擧當日は投票所より一町以內の地に事務所を設くることを禁止し、休憩所又は之に類似するものは一切之を認めざる事に決定した。

選擧費用制限

從來選擧費用は餘り多額に失した嫌がある。競爭のある場合には一人平均五萬圓、競爭なきも又一萬圓を下らざるごときは選擧界を腐敗せしむるのみで斯くの如き狀態では人格高い政治家は、到底其の渦中に投ずるを好まざるは當然の歸結であつて實に憂ふべき事である、そこで今度は選擧費用を法律で制限し一選擧區の有權者の總數を議員定數にて除した商に四十錢を乘じて得たる額を限度とした隨つて平均運動費用は候補者一人當り一萬二千圓位となる勘定で、ある最も候補者が車馬又は船舶乘用の爲に要する費用は之を除外することとした

罰則

罰則は現行法よりも少し重くしたのであるが、大體其の要項は現行法と大差なきものである。たゞ、選擧費用、制限を超過して支出したる場合は、選擧事務長又は其責任者は一年以下の禁錮又は千圓以下の罰金に處せらるゝ事になつたのが、從來になかつた新しい點である。（完）



山色連天　木島櫻谷氏筆

刻下の急務は外交刷新

政友本黨總務　川原茂輔

國民外交と云ふ標語から觀察すると、實力なくして專ら外交術策に囚はるものと實力が相當にあつて外交極めて拙劣なるものとがある。支那人は前者の適例であり我國民は實に後者の好標本である。支那今日の窮狀は宛然として三國史時代の樽俎折衝が眼前に髣髴たるの有樣である。之れに反し我當局は外交の機微を無視せざるも甚だしきであつて、我國力を背景として而かも實戰の外交にだも及ばざるは慨嘆の至りである。曾てポーツマスに於ける

日露講和 談判の際我が小村大使は露國代表ウヰッテ伯が餘りに傲慢不遜、事每に强硬態度に出づるに對し『貴下は戰敗國の代表で乍りながら恰も戰勝國の代表の如く振舞つて居る』と詰りたるに、ウヰッテ大使は『之は怪しからぬ露國は決して戰ひ敗れたる者ではない、今は休戰の時である』と答へたとの事で當時ウヰッテ伯が傲岸不遜な國的態度を持し我代表を閉口せしめたのは、敵ながら天晴れの外交家と云はねばならぬ。併し歷史を遡れば吾人の祖先は中々の外交家であり、海外發展を志した者亦た少なからぬのである。上古に於ては三韓征伐の壯擧があり戰國時代に於ける國南の雄飛は懦夫をして齒嚙せしむるものがある。不幸にも德川幕府の

鎖國政策 に累せられ、爾來三十餘年我國民は一島國に蟄居し、桃源の林に眠り、醉生夢死し、外交の事は全然之れを忘却し去り一黑船の來航に顚倒し惶然として爲す所を知らざりしは狼狽の狀態想像するに餘りあるである。

明治維新後泰西の文物に模倣し內政の整備、國力の充實に努力し日淸日露の兩役を經て武力を世界に認められたるも當時の外交に於て勝利を完ふせりとは云ふを得ない。歐州戰役に參加し平和の再來に努力したるも人種平等案に敗れ外交上幾許の成功を贏し得たるかは問題とならない。之を支那に比較し、陸海軍備の實力天と地との相違あるに拘はらず、動もすれば支那の外交に致され、今や米國は我國民を支那人同樣に取扱ひ

移民禁止 の法則を斷行して傍若無人、憚かる所ないではないか。

華府會議の結果は青島還附となり、而かも威海衛、香港は依然たる英國の領有であり、米國亦ヒリツピンの防備を嚴にし、南、盛んに大海軍を建造し、我國と覇を極東に爭はんとして居る。東洋の將來は禍根內に潛み危機を包藏し事端益々逸からんとして居る。今にして我國民が眞に外交を解し、大に之を刷新するに非ずんば、帝國の前途は甚だ寒心に堪へない。十の實力を十に示すは外交にあらず、之れを十五にし、二十にして示すの術、即ち外交であり、妙味之に存せり。我國今日の外交は十の五だも示し得ない。明治初年

副島伯の 如きは外交上の苦心一方ならず、外交談判に當り自ら、日光を背にして對手方を眩しからしめ、以て之を威壓するの工夫を凝らしたることである、此の一事に徵するも如何に外交に機略を必要とし機敏を要ふるの陸と、眼光人を射る底の膽力を要するかを明白に語つて居るではないか、此に大正十四年乙丑の新春を迎ふるに際し國運の興隆を策するの上に於て當面の要務亦時なからざるも就中特に我外交刷新の急務なるを提唱せんとするものである

京城府龍山驛前　宮崎式ペーチカ

龍山　練兵町市場組合

京城府龍山練兵町　鈴木時計店

京城府元町　松華　電話龍山三一八

陳內茂吉

龍山榮町　秋山組　シート製作部

京城府元町二丁目　こまや呉服店　電話龍山二六三番

京城府元町二丁目　富井呉服店　電話龍山二一〇八番

醬油味噌製造元　京城府龍山元町一丁目　兼古商會　電話龍山一四番　振替六七三番

各種パン和洋菓子製造元　陸軍諸官衙各學校御用達　神戶屋　京城府永樂町二丁目　電話本局二一〇六九番

京城府龍山京町　山下商會　電話八四四番

京城府元町　藤田安之進　電話龍山五五一

京城府漢江通り十三　大陽館　電話龍山一六番

京城龍山驛前　東洋塗料株式會社

京城府黃金町二丁目五六番地　株式會社川北電氣企業社　京城出張所　電話本局三六〇八・三九九九番

京城府漢江通　寺尾猛三郎　電話龍山（長）五二二番　一〇二〇番

京城府龍山漢江通　石原磯次郎　電話龍山一八〇番　二〇八番

龍山鐵道病院

京城府漢江通り　龍山信用組合　電話龍山一〇一番

龍山質屋組合

京城府西界洞　當房有次郎　電話龍山七八九番

龍山驛前　㊥運送部

龍山　組支店

龍山承認運送店組合

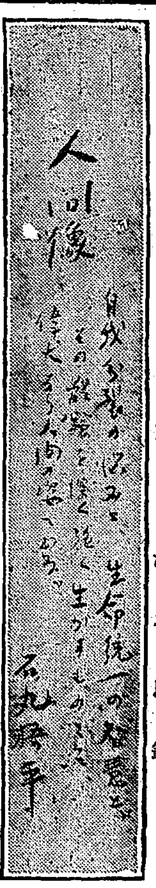
京城府龍山元町三丁目　朝鮮書籍印刷株式會社

京城府寄元町　朝鮮製綿株式會社

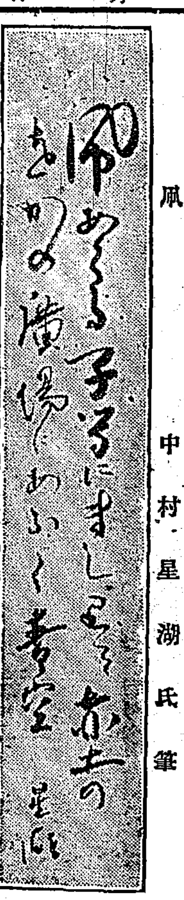
京城府元町一丁目　天野鐵工所　電話龍山四二九番

山色連天　白田亞郎氏筆

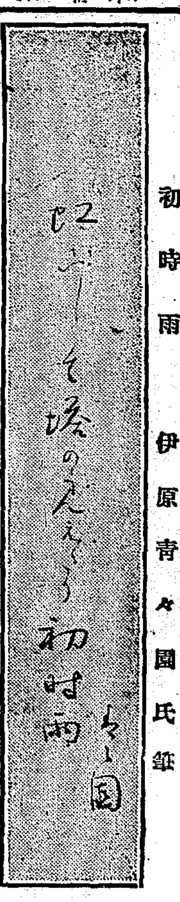
人間像　石丸梧平氏筆



凧　中村星湖氏筆



初時雨　伊原青々園氏筆



創作界の現状

小島徳彌

一

現人は、或る年齢に達すると、『後輩』といふものに編入されて現役から離てしまふが、創作家は幾何十歳になつても、『後輩』なんかに入れられない。現役として活躍して貰はなくては困る。しかるに、日本の創作家は、外國の創作家に較べると、案外早く老込んで、この『後輩』といふのに入つて、現役から離れたがるやうな傾向があるが、これは、何ういふ譯であらうか。つい先頃、新進とか何とか云つて騒がれて居た作家が、新作家の時代を通越して、早や老朽作家になるといふやうでは、甚だ心細い次第でないか。

扨て、かゝる老朽作家の多い中で『後輩』といふ色彩を打消すことは出來ないが、兎に角、中堅作家、現役作家と並んで活躍してゐるのは、正宗白鳥、徳田秋聲、近松秋江、小川未明の四人であるが過去一ヶ年間を通じてみるとき、これら四人の作家の他に、めづらしくも、島崎藤村が『藤村パンフレット』その他に於て相當活躍してゐるのである。

藤村の『子に送る手紙』は、郷里にゐる我兒に東京の震災の状況を報道つた書簡體の小品で、甚だながらのしつとりと抒情味のあふれた筆致の上にも、慈父の愛兒に對する濃かな情感がにじみ出てゐて、個々として私共の胸に迫り來るものがある。その一種云ふべからざる情味は、單なる筆先のものとは思へない。また、最近公にされた『三人』は三人のオールドミスのことを書いた所謂『本格小説』の典型。その手堅い、どつしりと重味のある客觀的手法は、流石に他の新進作家の及ぶところでないが、その三人の女が三人ともに何だかしめツぽい性格の女で、それがどうもあまりに藤村式になりすぎてゐるやうだといふやうな非難が秋聲その他の人々の口に洩れてゐる。

秋聲は、最近、病氣其他の理由であまりに作品を公にしないが、それでも、『餘震の一夜』、『車掌夫婦の死』、『恥辱』、『花が咲く』、『風呂桶』、『或る種かしさ』などを書いて、その老熟の境地なところ、まさに壯者を凌ぐ概がある。中でも、『餘震の一夜』は、自分の體驗を書いたもので、例によつて克明に、リアリスチツクに描かれてゐるが、發表された當時、江口渙は、その月評に於て、可なり峻烈なる非難を加へ、その主人公の氣持のイゴイスチツクであることを咎めた。それに對して秋聲は作者として直に反駁を草したが、それほど、この作品は作者にとつて自信のあるものゝやうに思へる。『車掌夫婦の死』は完璧に近い老巧な客觀描寫を示したもので、無論、自然主義風の作品であるが、如何にも如實に彼等の生活が描かれてゐる。作者が或る程度の深さまで主人公の生活感情の中に入り込まなければ得られないやうな成功を收めてゐる。『新時代』の作品ではないが好ましき短篇である。

白鳥の最近の戯曲は『戀愛の前進』といふおもかげがある。『他人の災難』『ある病室』『わしが死んでも』の小説『ある人の影』『人生の幸福』の戯曲其の他の作品は何れもこの作者の益々手堅くなつた客觀的手法と鋭い觀察に向ひつゝある。虚無的人生觀とを示すに足るものでその出來榮は、殆ど甲乙がつけられない。『人生の幸福』は勞働問題と云ふ問題にもならなかつたが、最近上演されて『若き時代』の觀客は何れも熱烈なる喝采を浴せかけた。」

二

小川未明は、老て益々盛んなところ未だ新進作家の風手を失はないが、その筆致の上に、壯年時代から見ると餘程相異して來たことは爭はれない。例へば、最近の『獨逸人形』の如き、その手法が著しく客觀的、寫實的になつてゐる。また、一時は可なり濃厚に、どうかすると浮調子にまで取入れられた階級意識が、作者の生活感情の中に溶け込んで出てゐるやうに思はれる。新進作家の間でも評判のよかつた『死者の滿足』も、矢張りプロレタリヤ的感情が露骨に出てゐないで、潜在的に作者の感情の中に溶け込んでゐるために、私共は極素朴な、所謂未明の持味を示した作品といふ印象を與へるのである。實際、未明の如きは、階級的に、階級意識とか、プロレタリヤ的感情とかを取入れる必要はない。彼は、最初から、虐げられ踏みにぢられつゝあるものゝ中に美を感じ、それを表現しやうとした、反抗の感情に燃えてゐる詩人である。未明は、この他に、『雪解の流れ』『鐵路』など幾多の作品を公にしてゐるが、『路次裏』といふのは恐ろしき傑作である。

近松秋江は、小説の題材に現女優や彼のいきさつと限る必要はない、大いに勇壯活潑な事件も小説の題材になると述べたりしたが、秋江自身は結局彼のいきさつより他に題材を探ることの出來ない作家のやうに思はれる。『時事』に連載した『地上の光』といふ小説に秋江は自分の持味を出さず、生仲新しき題材を取扱はんとして、しきりに安價なる床屋政談を小說に持込んだ末、餘から見てゐるさへ氣の毒な位收束のない狀態に陷り、中絶の止むなきに至つた。『地上の光』に於て斯くの如く失敗した秋江も『黒髪』『閨房』などになると彼の獨壇上、蘭ののたくるやうな、ぬらりくらりした男の女に對するやるせなき痴情を描いて、このところ『近松秋江先生十八番』といふ持味を出してゐる。

田山花袋、中村武羅夫、上司小劍などは最近一二篇の短篇を公にしたが、何れも、殆ど文壇の注目を惹かない。此三人の中で中村星湖は其作品から見ても未だ『後備』などに入れられる作家でなく中堅となつて大いに働いて貰はねばならない人である。すでに、今日活躍するところの中堅の流行作家に劣らないだけの確實な力量を持つてゐるのであるから、もつと積極的に、大膽になつて活躍すべきではなからうか。大正十三年の末より十四年度の文壇を豫想すれば、彼の如きは大に復活して貰はねばならない作家である。（未完）

國際的協力の新時代は來た

外務大臣男爵　幣原喜重郎

『新春の初頭に當り過去一箇年を回顧するに昨年は世界各國共に内外多事多端な年であつた。各國が經驗した幾多の問題を一々列擧するまでもなく歐洲に於ける政治の隙を見ても能く此間の消息を窺ふに足ると思ふ。惟ふに右の如く政情の動搖するのは其直接の原因は兎も角も、其根本に於ては一歐洲戰爭に依つて急激な變動を受けた各國の財政經濟狀態が未だ常軌に復歸しないのに、他方國際關係も十分安定の域に到達して居ないことに起因して居る。多くの國に於て左右兩派思潮の闘爭が益々激甚となり其政策綱紀ゆることなきは巴里講和會議後各國思想界が非常な難局に逢着することを表示せるもので、國際關係上に於ても之が反映を見るのは當然である。巴里講和會議、華盛頓會議後に際會として平和思想國際協力の觀念が漸なる勢ひを以て擡頭して來たにも拘らず

或種の反動的思想

が依然一部人士の間に揮擲せられてゐることを否定すべからざる事實である。併し世界全般の趨勢より見れば正義平和の思想、公明正大の精神が確固たる基礎の上に其勢ひを增加しつゝあることは之を斷言するに憚らない。國際問題處理に當り權謀術數を以て最良の徹條とした時代は將に、終焉を告げむとし、國際的衝突に代ふるに國際的協力を以てする新時代が吾人の眼前に展開して居る。客年中に於ても例へば『ドーズ』案の成立に依つて歐洲復興の根本難關であつた賠償問題解決の曙光を見、又『ジュネーブ』平和議定書の調印を見たるが如きは其後に於ける推移如何は暫く別問題とし、兎も角も國際政局上

新機運誕生の先觸

を爲すものと見るべきであらう。勿論襲れる歷史や傳統を背景とし通商經濟其他諸般の關係に於て必ずしも利害を一にせざる諸國の間に於ては時に國際紛爭の發生を免るゝを得ない從つて時々各國民の感情を刺戟するやうな出來事も起るが、之を以て直に武斷的思想、侵略的意圖に結びつけ世界の恒久的平和及び紛爭の平和的解決を促進せんとする新なる機運を否認せんとするは牢乎觀察たるを免れない。客年中に於ても幾多紛爭の發生を見るゝを得なかつた、併し此等紛爭は新時代實現の途上に横はれる障礙ともいふべきもので、之が解決に當り武力的方法に訴へず國際的協力に依る和平的解決方法に據らんとする傾向が年を逐うて增加しつゝあることは世界平和の爲め喜びに堪へない。此等の紛爭は節する處自國の正當なる權利利益を主張すると共に進んで他國の正當なる權利利益を認めるといふ相互的同情及理解に依つて圓滿に解決し得るので是實に人類の共存共榮を計り世界の平和を促進する所以である。兎もあれ新春を迎へた、翼事を始むる此の吉日に若かず。我國の前途に幾多難關の横伏せる事實は今日吾人が之を心底に明記せねばならない。一刻も早く

之を切抜ける爲に

一致協力國力の充實に努むる覺悟なる決意をせねばならない。而して余が國力の充實を力說する所以は單に之に依つて我國民のみの福祉を增進せむとする利己的動機に出づるものではない。充實せる國力に依り我國民族が世界の文明文化に對して負へる大使命を完行せむとするに在る事は多言を俟たぬ所である。

まどゐ（トランプ）

新年有懐　小坂梅雅

寂寞助寒歲換新。客留勵處見天擧。如何做策竟無效。自憫當年虛度春。

夕ぐれの會話

―『木兎の家』を訪ふ―

小田原の海岸を右へ曲つて少し行くと、かなり急な坂道になつてやがて傳肇寺といふ小さな寺の前へ出る。その寺の境内の傍に木兎の家がある。詩人北原白秋氏の住居である。記者が氏を訪れたのはうらゝかな冬の日の夕方のこと。家の入口が所謂木兎の家で、萱で結んだ古風な庵といつたやうな感じである。庭先に小さなテーブルが一つ、その傍に椅子が二脚置いてある。家の中を覗いてみると、そこにテーブルや椅子がごちやごちやしてゐる。庭からは藍色の海が手にとるやうに見渡される。詩だ―すべてが詩だ―なんといふ調和の氣分が漂つてゐることだらう―通されたのはその裏の方にある洋館の二階である。

◇

『今日はまとまつた話は何もできませんよ。仕事がやりかけだし、話をすると感興が中絶してしまふんで困りますから、まあ繪でも見ながら遊んで行つて下さい。ゆうべ徹夜してカットを描かされたんでね、疲れてゐますから。この通り三日も泊りこみで居催促をされてゐるんで困つてるんです。』と氏が言はれる。見ると、氏と向ひ合つてテーブルの向ふ側に本屋から來てゐるお客さんがゐる。

『アルスから出す童謠の本のカットですよ……畫家に頼んで描いて貰つたんですが一つも氣に入らないので自分で描いて見たんです。昨夜一晩で五十幾枚か描きましたよ。』と言ひながらもの繪をとり出して示される。

『殺人でなければ描けないやうな繪でせう。かういふ場面らしい繪は殺人でなければ描く氣になれませんよ。どうも繪かきのはきまつてゐますからね……』

小さな諸用紙にペンで描いたあつさりした繪ばかりであるが、見てゐるとなるほど肯かせるやうな繪だ。輕い感じで、いかにも子供の好きさうな氣分が出てゐる。どれを見ても面白い。

◇

『先生、これは駄目ですよ、大きすぎて。』

と、本屋の人が突然言ふと

『おや、おや、そいつは困つた。描き直さなくちやならんかね。』

と言つて笑ふときの氏の顔……それを見てゐると、いかにも子供の小父さんの顔だ。でつぷりと肥えた身體をゆすぶつて笑ふ。と、部屋の隅の方の小さなテーブルに向つて、さつきから何かひとりごとを言つてゐた坊ちやんがこつちを見て訴へたやうな眼をする。『坊ちやんはお幾つです？』と訊くと

『三つですよ……どうも近所に遊び相手の子供がないものだから、大人の言葉ばかり覺えてしまつてね大人の言葉を使ふんですよ。』

と氏が答へる。

『汽車がお好きですつてね……』

『えゝ、動くものがなんでも好きなんです。親父より汽車の方が偉いと思つてるんだからやりきれないよ。』と言ひながらも、あまりやりきれないやうな樣子でもない、いかにも滿足さうな笑顔をしてゐられる。坊ちやんはまたひとりごとを言ひながら、鉛筆で紙に何か描き始める。ひとりごとが歌のやうな調子を持つてゐる。何か歌つてゐられるのであらう。子供の歌その分らない言葉の中に、どんなに偉大な藝術が含まれてゐるのかと思ひながら、部屋の中の落着いた氣分を心ゆくまで味はつてゐる傍で氏はまた繪を擴げて何か描いてゐられる。

◇

『鼠が十四眠つてゐるところを描けつて言ふんですよ。』

とまた話は坊の方に戻つてくる。

『鼠の眠つてゐるところなんかどう描いていゝか分らないんで困つてるんです。どうもふだん描いてゐないものだから、調子が分らなくてね……鼾を描かうと思つても鼾の形がなかなか出てこないんですよ。さあ、鼾はどう描いたらいいかな……』

としばらく考へこんでから『さうだ、子供が大鼾してゐるところを描いて、子供の頭に鼾をくつつければいゝだらう。』

と、いよいよ子供の小父さんらしいところを發揮してくる。

『これはどうです、面白いでせう。』

と言つて示されたのは馬のお醫者さんの繪だ。馬があぐらをかいて坐つてゐる。その前に篝火が燃えてゐて繪の上に童謠が書いてある

馬の病氣はなをりさう
馬の怪我ならなをりません
私は馬のお醫者です

たしかこんな歌だつた。

『子供は繪がちやんと歌に合つてゐないと承知しないんですよ。繪かきはどうもさういふことには無責任です。たゞ繪を描くだけでは駄目ですよ。子供は鼠を十四といへば、どうでも十四描いてなければ承知しないんですからね。』

と、どこまでも子供の氣持を尊敬する氏の言葉はなつかしい。

『繪かきの繪は實際繪らしいだけで詩がありませんね。そこへ行くと、あなたの繪は繪といふよりも詩ですよ。繪を見てゐると、ひとりでに詩情が湧いてきますよ。』といふと、

『さうでせう。僕は意氣で描くんですからね。意氣で描かなければ本當の氣持が出るものぢやありませんよ。』

と得意の色を滿面に濺はして、氏の話はいよいよ面白い。

◇

が、いつのまにか窓の外は暗くなつてしまつたので、長居を詫びて辭した。庭先まで氏と奧さんとが見送つてくれる。

『暗いですから、御氣をつけなさいまし。』

と奧さんが言はれる。寺の庭に出て、暗い中に浮き出て見える白い敷石傳ひに歩き出して二三間ゆくと、あとからばたばたと足音がして女中さんが追つて來た。

『ローソクをお持ち下さい、眞ッ暗ですから。』

『大丈夫ですよ……』

と言つては見たものゝ、行く先はたしかに眞の闇で、一寸先も分らない。ローソクを貰つて火をつけて山を下つた。海も見えない闇の中に、街の灯が夢のやうに瞬いてゐる。記者の心には温かい詩情が、詩人の家で感じた豐かな抒情が、いつまでもいつまでも默つてゐるのであつた。

朝鮮郵船株式會社

鈴木商店
京城支店

三井物産株式會社
京城支店

東洋拓殖株式會社
京城支店

目出度い魚の話

—産地と其の味—

帝大助教授　田中茂穗

目出度い魚と云ふのは贈物として人の家へ贈つたり、祝ひ事の時の獻立として使つたり、又はその魚の形を飾つて人の出世を祝つたりする時に使ふ魚のことである。

先づ贈物として人の家に送る魚では鯛が最も一般的で、これは全國共通の風習であるから誰でも知つて居るところである。

この外に、東京附近では歳末の贈物として鮭の鹽鱒を使用するし北國、九州地方ではブリを用ふる土佐では婚禮の後にシイラを贈る習慣がある

惠比須樣の鯛

これらの贈り物とする魚を考へて見るのに、先づ贈り物の王たる鯛は形も大きく、色も優美である以外に、一般に大切な味が日本人の嗜好に適してゐること、その味が四季を通じて餘り變化が無いと云ふことが、廣く贈り物として喜ばれる所以であらう。

鯛にはマダイ、チダイ、キダイ(關西のレンコ)の三通りあるがその中でもマダイが一番重要視されて居るものである。キダイは形も色も味も遙かに劣つてゐるので惣菜の原料になるくらいのものである。エビス樣が鯛を釣つてゐる繪があるが、あの鯛はマダイに違ひない。何故かと云ふのに、元來マダイは海岸近くの淺海に住んでゐるものであるが、チダイやキダイはもつと深い海に棲んでゐるものであるから、大昔まだ舟なども完全なものが無かつた當時のことであつて見れば、釣をするにしても海岸の岩の上か、船で沖に出たとしても精々一二里のところであつたに違ひない。海岸から一二里の淺海に棲んでゐる鯛は大抵マダイであるからエビス樣の釣り上げた鯛は必ずマダイに違ひないと云ふのである。

又昔から日本ではエビス大黑などゝ云つて、エビス樣は目出度いものの表徴とされてゐたのであるから、それとマダイを取り合せたところから考へても私の考證は間違ひはないと思はれる。

鰤は出世魚

鯛やブリを目出度い魚とするのは、之等の魚は非常に出世するものであるところから一家の繁盛を表象するといふ意味からきたものであらう。殊にブリは小さい時から大きくなるに從つて色々名稱が變つて來るので一名出世魚と名づけられてゐる程のものである。

今ブリが幼時から大きくなるに從つて名稱の變化して行く具合を二三述べて見よう。

先づ東京では最初ワカシといひ次にイナダ、ワラサ、ブリと變つてゆき、富山縣ではピンピン—ツバエソ—コゾクラ—フクラゲ—ニマイズル—アヲブリ—小ブリ—大ブリとなる。高知縣ではモヂヤコ—ワカナ—ハマチ—メヂロ—ブリ—大ウヲとなる

これらの方言の中で一寸說明を要するのは高知縣でモヂヤコと云ふ言葉は『藻の中にゐる小魚』と云ふ意味である。ブリの小さい時は海藻の中へ潛り込んでゐるものであるから、ブリの幼時をモヂヤコと呼ぶやうになつたのであらう。

高知ではブリの中位のをハマチと云ふが他地方ではブリの一種のカンパチと云ふ魚をハマチと云つてゐて高知のハマチとは少し違つてゐる。又こゝで云ふ大ウヲと北國で云ふ大ウヲとも全然違つてゐる北國の大魚と云ふのはイシナギのことであるが、高知で云ふのは一番大きなブリを云ふのである。出世魚と云ふのは、大きくなるにつれて名稱の變つてゆく魚のことでさう云ふ魚は種類も少くないが、たゞボラが出世魚の仲間に數へられてゐるところから、目出度い魚の如く考へられるが、これは贈り物や祝儀などには使はない。

仲のよい鰍

シイラも非常に珍重してゐるところから目出度い魚と見做されるのであらう。高知ではこのシイラが雌雄の仲が善くて何時も離れずに居ると云ふところから婚禮の後に使ふ習慣が出來たのである。

今まで述べたのは贈物とする目出たい魚であるが、次ぎには祝ひごとの獻立として使ふ魚を述べて見やう。

その筆頭に擧げらるべきものはやはりマダイであつて、これも全國共通の風習である。

この外に、東京では鯛の節句にはワカサギを供物とするし、關西では十月二十日のエビス講にはサンマを供物とする。この習慣もやはり魚の群住に依つて一家の繁盛を表象したものと思はれる。

又大分縣の別府附近ではハタミヂャコと云ふハゼの一種を鯛の節句に供へる。この魚も丁度その節句に非常に澤山とれると云ふこと、魚の形が小さく可愛らしいと云ふところから鯛に供へることゝなつたのであらう。次に人の出世を祝ふためのものとしてはコヒの吹き流しを使ふ。これはコヒの形が立派で勢ひのいゝものであるから、生れた男兒の成功と健康を祝ふためには恰好のものである。

北國の君魚

コヒを非常に祝ひごとに使ふのは滋賀縣であつて、これは一寸他縣に類似を見ない。北國の新潟、佐渡などではホウボウを上魚として珍重する。この地方ではこの魚を君魚と云つて、昔は殿中へ獻上するもの或は貴人達だけの食するものと見做されて居たので、その習慣が今日まで殘つてゐるのである體際ホウボウと云ふ魚は形がよく色が美しいので貴人達のたべる魚とするには恰好の魚である。

この外日本全國を調べて見れば地方々々に依つていろ／＼目出度い魚があるだらうと思ふが、今度はこのくらゐにして置かう。

松隱　李秉直氏筆

銀婚式の新年

貴族院議長　公爵　德川家達

洩れ承はる處によれば天皇皇后兩陛下には本年を以て御結婚滿二十五年の御目出度い銀婚式を行はせらるゝやに拜するが、畏くも兩陛下には昨今御健康も一際すぐれさせ給ふ趣き誠に慶賀に堪へ申すも恐れ多い極みである。昨年は攝政殿下の御成婚を奉祝した國民が今年はまた重ねてこの御悅びを慶祝し得るといふ事は我が家の幸福これに過ぎたものはないといはねばならぬ。

皇室の御仁慈深きは今更申すまでもないが、あの大震災以來殊に國民の上に大御心を寄せ給ふた事は數多いもので或は公共團體に社會事業團體に皇后陛下の玉步を枉げられて御慈愛の程を垂れ給ふた事も一再でない。國民の等しく感激措く能はざる處である。恐れ多いけれども斯くて皇室と國民の上は君臣以上の或親しみが感ぜられ愈々濃厚を加へて行くのである。

今や世界に於ける日本の立場は最も自重すべき秋に際會してゐるのであつて、隣邦支那の混亂を救濟し民族の融合、東洋平和の將來のため大いに策する處がなければならぬのである。然してこの事は內外共に共同融和の理想に依らなければ容易に達成し得べきでないのである。卽ちこの理想は國際聯盟となり軍備縮小となつて現れたのであるが、これは列國の情勢に鑑み最も愼重に對策を採らねばならぬ處であつてこの理想を履違へて軍備撤廢等の極論をなす者があるのは大いに警戒を要するものである。

自分は不肖ながら明治三十六年以來二十一年間、貴族院議長の要職を汚し世間の後援によつて幸ひに大過なく今日を得たのであるが昨年任期滿了、更に任期を重ねる事になつた此の際一段の努力をもつて我が憲政のために大いに盡瘁したい決意である。

文學に現れた牛

螺炎　今村鞆

方々からヲダテられて、來春の催行物へ、牛の事を七つも書かされた、モー御仕舞かと思ふて居ると又々京城日報より、同じ注文で強制せられた。道理から止むを得ず牛の歩みの捗らぬ筆を叩し、牛の角文字手短く、文學に現れたる牛の事を瞥見して、少し許り書いて見た。

今昔物語に、源賴光の郎等、貞道、季武、公時等が賀茂の祭使の行列を見物せんとて、或る僧の牛車を借りて、紫野に出でたれど、乘慣れぬ事なれば、車の進行と共に、立板に頭を打ち或は互に鉢合せを爲して、肢蹈に居たゝまれず、閉口して中途下車したることを記してある、當時牛車に乘らざれば、轡が利かなかつた事は今の自動車と同じである、賴光の郎等は今日の軍人階級で歟を引けば、先づ將校曹長格である、笑止千萬ではあるが、あの觀かな飾りにハイカツて、失敗したのは牛車でも、ガタ／＼た轍を見ると當時繁盛の京の道路も、凸凹甚だしく、震災後の東京の道路と同一であつて、チツトモ、坦々として砥の如くで無かつた事が想像せらるゝ。

平家物語には、木曾義仲が初めて院の御所に參りし時、烏帽子、狩衣を着、牛車に乘りし時一鞭當てければ、牛は飛ぶが如くに起り出て、困つた時の有樣を、『牛飛び出づれば、木曾は車の中にて仰向きに倒れぬ、蝶の羽を擴げたるやうに、左右の袖をひろげ手をあがいて、起きん／＼としたれども何かは起きらるべき、』云々と書いてある、家來の今井の四郎が、轡鐵を合せて漸々に追付き之れを止めし時、牛飼が木曾に仲直りせんとして、車の中の手形と云ふもに取りつけと、敎へたとある、此の事は

源平盛衰記にも出て居る。流石に北國に驍勇武名を馳せたる、木曾の冠者も未だ都慣れぬ爲めに難癖しき一牛飼に飜弄せられて居る所は頗る滑稽で、着つけぬ衣冠、乘慣れぬ車で、冷汗を流した有樣を目に見る樣だ、丁度成金が生れて初めて、洋服を着てホテルで洋食を食つた形ちだ、今昔物語りも、平家物語りも、公卿階の手に成つたものである、當時洛中を橫行した事に憤慨して居つたから、幾分か誇張して書かれた嫌きがあると思はれる。

兼好法師の隨筆の中に、德大寺右大臣殿、檢非違使別當の時、使廳の評定の席へ、放れ牛が上り來つて、臥したのを見て、迷信に神經を尖らしたる當時の事なれば、重き怪異なりとし、人々牛を陰陽師の許へ遣はすべしと、申せしを、父の相國が、牛には分別は無い、足があるから何處へも行く、眼を明はず元の主に戾せと、天晴れ見識を發揮して居る、法師は結文に、『牛をば主に返して臥したりける疊を換へられにけり、あへて凶事なかりけるとなん、怪しみを見て、異まさる時は、怪しみ却て破るといへり、』と法師らしく說法して居る。同じ法師の

徒然草に、『飼ひ飼ふものには馬、牛、繋ぎ苦しむることいたましけれど、無くてかなはぬものなれば、いかゞはせん、』と牛馬の虐待は、人の生活上、止むを得ざる事ならんも、何とか工風がないものかと、動物愛護の慈悲心を發露して居る、矢張法師らしい、やさしみが見らるゝ。

謠曲　車僧には『そも人牛は打つとも行かし、扨御僧の打たば行くべきか、中々の事、いで／＼さらば、露地の白牛を打つて見せんと拂子を上げて虛空を打てば、不思議や此車の動き廻りて今迄人も引かぬに、やす／＼と廻りかけて、飛ぶ車とはなりにける』とは、足輕車と見へつるか、牛も無く幽幻奇怪の構想が出て居る、之れは、印度の宗敎の牛崇拜から出た各種の傳說に想をとつたものである。是から方面を換へて

和歌の方を探して見よふ。

牛に乘り牧の乘替か吹笛は深き語りのしるべとぞ聞く　光俊

里毎に放つ野牛は乘替見か打たれ髮の追ひ亂れつゝ　雅經

牛は初めて欽明天皇の朝に、百濟から日本へ輸入された、其當時より源平時代頃までは、日本內地も生活が安易で、鷹揚々として居つたから、田舍では今日の江原道の隱谷面のような情趣が見られたと思はるゝ、後者は其實感ならんも、前者は實感でなく、支那の文人趣でも見てよんだのであろふ。

古の春に還らぬ世をうしと桃の林の影に戀ふらん　爲家

夏の日に力車を挽き惱む業をやうしと名は負にけん　土滿

小田返す牛の唐鋤辛き世に繫がるゝ身も牛のからすき　蕙庵

輓く牛の類ひならすや小車の否と浮世に繫かるゝ身は　春海

懷しき花の名負へる牛なれは黑き中にも色は見ゆらん　有功

耳洗ふ人も無ければ山川に水かふ牛を率きもかへらず　公朝

以上何れも、理屈に落たのと文飾を弄した丈けで、歌の價値は少しも無い。

狂歌の方には

飲みては臥食ふては寢て子の年の明けなは春も牛とならし　東作

牛よりも先のハナサバや見め人に桃の林はそウ盛りぞと　寶吉

御所車牛ひき据へし大庭の香りは鼻を通す橘　野丸

いか計り花に醉てか牛飼の眠り落たる春の桃山　稀州

何れも平凡である

星合の夜半も更くれは妻牽のひき捨てられて牛は獨寢　閑內侍

七夕の戀をひやかした所、幾らか狂歌らしい所がある。

一體に昔の歌人は、雪とか花とか、戀でなければ、上品で無い、風雅でないと考へて居つたから、牛を畜獸とし、賤畜として、鄙しした、ものは一つも無い、夫れに比すれば、

俳句は世界が廣く、內はれが無いから、牛の句にも中々よいのがある。

柴濡れ牛はさながら時雨哉　其角

客一把牛に被せて時雨哉　希因

二句共實感であつて冬の山村の景趣がよく現はて居る。

牛の尾の風吹くなり麻の花　成美

賤を牛さへ涼み車哉　其角

永き日やぐと牛の鞍　舊國

卯に寢る牛の黑さや秋の月　扇背

何れも名句である、各其季節の氣分がよく表現されて居る、特に牛の性情である、悠々と迫らざる浴かさと牛を畫かれてある四圍の環境とか、ピツタリと融合して居る。讀誦すれば自ら其光景が眼前に髣髴する。

詩の方にも中々よいのがある。二つ三つ並べて見よふ。

有人支枕臥蓬底　臥看耕牛渡野溪

雲外亂山方斜暗　雨中平野更復迷　杜蘊

芳草如烟迷渡頭　雨餘嘯犢綠爭流

小舟撐出垂楊外　已被漁人又喚牛　鎗齋

日乘農族卽閑行　無聞談論不野情

南有吟朋北耕吐　兩村相距一牛鳴　茶山

菅消石磴溜雨痕　暗渡濱潤欲青根

蔵耕野菊花邊立　斜日騎牛貨巣村　梅隱

詩は全部を言ひ盡して居るから、俳句のように想像の餘地が無いが、矢張り品がよくて、牛を景物の一に取り入れ、よく生かして居る。

飯倉だより

島崎藤村

都會と地方人

「ロダンの言葉に『大都市は墓地です。人間はそこに生活してはゐないのです。彼等は健康な生活力を失つてゐます。消耗してしまつたのです。』これは曾てエレン、ケエがロダンを巴里の郊外に訪ねた時に、ロダンが語つた言葉だとして、ある雜誌に記載されたものである。その訪問錄の中には、ロダンが彫刻家らしい立場から次のやうな言葉をもエレン、ケエに語つたといふことが出て居る

『新時代が特に失つて居るのは均齊に對しての感じです。そしてこの感じは、本質的なるものに對する感覺を他の半分とした、生活の味なのです。貴方はわれ／＼の寺院を御覽になりましたか。われ／＼は記念建造物や有益をもつてゐます。それはさういものを破壞する者と呼ばるべきなのです—その無感覺な修復によつて。新しい建築を御覽になりしたか。エッフェル塔へお上りなさい、さうすると見られます。巴里がそのすべての屋根々々でまるで踏石の並んだ墓地のやうに。』

すぐれた藝術家でなければ、こんなことは言へない。先頃私は伊豆の綠の新鮮を見て來た眼で東京へ歸つて見た時に、これが住み慣れた町の草木の色であつたかと驚かされた。この變色にひどい損傷を浴びた。健康な生活力も失はれたやうな都會の草木の色は、やがて都會の居住者の顏色であらうかといふことにも氣付かされた。ずつと以前に、私は淺草の方に住んで見たこともある。あの淺草に近い新片町に七年の月日を送つて見たこともある。あの邊は震災前にも近く、何となく古い江戶の趣の殘つてゐたやうな町で、附近には舊幕時代の國の名殘の分れたといふ家があり、其一族の子孫にあたるといふ人達の住む家もあつた。それでも土地の事情に詳しい人の話を聞いて見ると、舊家の名は同じでも住む人は替はつて、三代と續いて居る家は殆ど稀だらうとのことだつた。子は親よりも弱く、孫は子よりも弱い。大都會が人を弱くしつゝその生活力を消耗させることはこれを見ても分る。

大都會は人の活動の地ではあるが、大都會に居て却て活動力を失つたものは何程あるか知れない。多數な人の集まる都會生活は、その居住者から個性を奪ひ、その特質を平等にし、平坦にし、眼に見えない枠でもつて一様にその生活力を搔き減らしてしまふ。試みに私達が自分の周圍を見渡すと、そこにはたゞ／＼都會に寄生するばかりのやうな、何程の多くの家族を見出すか知れない。せゝこましく窮屈な町の中に住み、狹い土地と日光を爭ひ、僅かばかりの草木を自分等のものとして朝に晩に眼を慰めるやうな都會の居住者のことを想ふといたく／＼しい。

ロダンに言はせると、『大都市は墓地である』のだ。『人間はそこに生活しては居ない』のだ。しかし、現に都會に居住しつゝあるものに取つては、たゞそれだけでは濟まされない。何とかしてこの都會のよどみ易い空氣の中に新鮮な地方の生氣をそゝぎ入れなければならない。その更新を持ち來すものは、何時の場合にも地方人の氣魄と野性とではないだらうか

京城電氣株式會社

日本自動車株式會社京城出張所

株式會社京城株式現物取引市場

謹賀新年

京釜線清道驛前 新炭日鮮雜貨商 吉田商店 振替京城二〇六一番
慶北慈仁市場 印洋雜貨商 澤田商店 振替京城三〇三二番
藥種商 上野晋平 賣藥商 高等旅館 肥後屋旅館 慶北慈仁市場
慶尚北道慈仁公立普通學校 稻垣八代藏
上高理三郎 慶北慈仁市場
慶北慈仁市場 和洋日用雜貨 安村商店
京釜線慶山驛前 中田運送店
慶尚北道米豆檢査所慶山支所 山田本二郎
大邱地方法院慶山出張所 高村萬六
京釜線慶山驛前 米穀貿易商 堀家寛三郎
京釜線慶山驛前 米穀貿易商 濱崎矢八郎 電話六番
慶尚北道慶山金融組合 理事 田中晋
慶北慶山公立尋常高等小學校 北村開作
慶北達城郡 玄風公立尋常小學校 池田武治
慶北達城郡 玄風面職員一同
公醫 今村善市 慶北玄風邑內
京釜線清道驛前 日用雜貨 金物陶器 栗谷商店
京釜線清道驛前 高等旅館 浦川旅館
京釜線清道驛長 中山三吾
京釜線倭館 廣瀬菊太郎
慶尚北道米豆檢査所 清道支所員
京釜線倭館驛前 御料理 仕出し 並鮮魚 有明 宇野內藏三
慶北倭館金融組合 西岡浩
慶北若木郵便所 黒川貞一
慶北倭館 山形定右衛門
京釜線倭館驛前 米穀貿易商 岡野松次郎商店 電話倭館六番
慶尚北道 慶州郵便局 職員一同
慶東線河陽驛長 小嶋彌次郎
慶北善山郵便所長 小林要心
慶北善山郡 善山公立尋常高等小學校 椎廉
京釜線若木驛長 酒井長太郎
大邱地方法院 若木出張所 木村春信
慶北永川郡 永川面事務所 職員一同
慶東線永川驛前 精米 雜穀 倉庫 運送 盛運商會 有澤德郎
公醫 竹迫敬藏 慶尚北道安康

慶尚北道 安康金融組合 永島茂
慶尚北道米豆檢査所 慶州支所職員一同
慶北倭館警察署長 岡本修二
星州邑 渡邊旅館 慶北星州邑內
慶北星州郡 星州面長 李宇英
慶尚北道 星州公立普通學校 若林勇
慶尚北道 鶴尾公立普通學校 藤本武吉
慶尚北道 若木公立普通學校 金子直江
慶尚北道 若木公立尋常小學校 向山鬼
生駒富太郎 京釜線若木驛前
慶北醴泉 地方法院出張所 書記 藤井眞澄
慶北青松邑內 自動車停留所 鳴門旅館
慶北安東邑內 醬油製造 米穀生產 西村正武
慶北醴泉邑內 島屋旅館
慶北醴泉郡 醴泉尋常小學校長 和田米作
京釜線金泉 橘屋旅館
慶北青松邑內 岡田旅館
慶北奉化郡 春陽公立普通學校長 山田立藏
慶北安東本町 西居旅館 電話一八番
慶北尙州邑內 各官廳御指定 加賀屋旅館
慶北奉化郡乃城 內鮮人向 雜貨商 小原商店
慶北醴泉邑內 醴泉印刷所
慶北醴泉郡 龍宮金融組合 理事 井上貞治
慶北奉化郡春陽 來栖光之助
慶北盈德郡 江口盈德尋常小學校長 筆井靜一
慶北榮州邑內 榮家旅館
慶北青松郡 眞寶公立普通學校長 後飯塚秀朝
慶北青松郡眞寶 精米業 平野保信
慶北英陽邑內 豊西旅館
慶北盈德邑內 盈德旅館
慶北聞慶邑內 山本屋旅館
慶北醴泉郡 龍宮尋常小學校長 上田作重
慶北青松郡 眞寶金融組合 理事 篠塚昇
慶北盈德郡江口港 上松質店
慶北義城邑內 配川旅館

慶尚北道 高靈金融組合 理事 福永寅四郎
慶尚北道 慶山郵便所 灘井榮一郎
株式會社 大邱銀行 倭館支店 電話一〇番
慶北慶山郡 河陽煙草耕作組合
慶北河陽驛前 米穀商 濱畑喜亟 電話五番
慶尚北道 善山郡守 李鐘洙
京釜線若木 山崎醫院 院主 山崎英彥
慶北星州邑內 御旅館 並御料理 賄業 岡崎市太郎
帝國在鄉軍人會 慶州分會
慶尚北道 慶州郡慶州邑內 飯沼信夫
慶北星州金融組合 組合長 裵東玉 理事 玉木彬
慶北河陽 小林農場 主 小林興次郎
京釜線鶴尾驛前 米穀商 石川宗平商店 振替京城三三八六番 電話五番
京釜線清道驛前 公醫 長谷部賢一
慶北達城郡 玄風金融組合 杉町利七
玄風郵便所長 玄風學校組合 管理者 古賀正藏 慶北玄風邑內
京釜線倭館驛前 諸官衙御指定 各會社 中西旅館
御料理 中西料理部 電話八番
京釜線倭館驛前 日用雜貨 並ニ貿易商 飯田商店 店主 飯田勇 電話呼出六番
京釜線倭館 大邱穀物株式會社 倭館出張所 電話一九番
京釜線倭館 公醫 濟生醫院 江口龍夫
慶北咸昌 熊野醫院
京釜線金泉 大邱穀物株式會社 金泉出張所
慶北咸昌 咸昌館
慶尚北道咸昌邑內 鹽川旅館
慶北義城郡 義城面長 李堂
慶北義城邑內 九州旅館

慶北醴泉郡 醴泉郵便所長 田內鶴男
慶北奉化郡 春陽金融組合 理事 林漢東
慶北榮州郡 榮州郵便所長 栗野俊雄
慶北榮州郡 榮州金融組合 古谷堅城
慶北榮州邑內 順昌醫院 院長公醫 金昌
慶北醴泉郡醴泉邑內 公醫 石原堯春
慶尚北道榮州郡守 全省吾
慶北醴泉郡 龍宮郵便所長 片山彌一
慶北青松 青松郵便所長 勳七等 久光政次郎
慶北金泉郡 金泉面長 渡邊榮太郎
慶北奉化郡乃城 大野拓
慶尚北道尙州 白幡準三 志茂半作
慶北尙州驛前 尙州商事株式會社 尙運送部 電話六四番
慶北安東郡安東邑內 田中文太郎
慶北安東 安東慈惠醫院 職員一同
慶北安東郡 安東警察署 職員一同
慶尚北道聞慶 四宮章巛
慶北醴泉郡 龍宮公立普通學校 職員一同
慶北尙州郡 咸昌公立普通學校 職員一同
慶北聞慶 聞慶郵便所長 竹村彌三喜
慶北安東邑內 雜穀精米 製炭販賣商 和田屋商店 電話七二番
一日鮮向雜貨 六神丸一手販賣 契約販賣店 占部商店 京釜線清道驛前 占部治將 振替京城九四九六番
慶尚北道 慶山警察署 職員一同

慶北慶州八幡町 岡本自動車部 電話五一番 新羅の古蹟遊覧自動車を運轉致します尙御案內の上説明を申上げます
京釜線金泉 穀物商 福岡直助 電話長二八番 尙州出張所 電話三〇番
京釜線金泉本町 井上材木店 電話一八番 同 貿易部 電話一六七番
慶北醴泉郡 醴泉公立普通學校 職員一同
慶尚北道 慶州公立尋常高等小學校 石川府 玉井三郎 藤見 井上やすし
明けまして御芽出度う御座います 本年も不相變御引立を願ひます 慶東線河陽驛前 高等旅館 內田旅館 館主 內田キマ
慶北達城郡 玄風公立普通學校 進瑠太郎
慶尚北道慶山郡慶山邑內 安炳吉
慶尚北道 善山警察署 職員一同
營業種目 慶北鮮農。倉庫業。日本生命保險株式會社代理店 慶尚北道安康 土佐興農組合 日浦廣治
慶北星州警察署 富田數喜
綿絲雜貨卸商 坂本俊介商店 慶北慶州市場通 電話一五番
同上小賣商 坂本文治商店 慶北慶州本町 電話五五番
慶北河陽驛前 中原農場
慶北榮州 榮州警察署 職員一同
營業種目 朝鮮總督府出版教科用圖書販賣 古川庄八 朝鮮慶尚北道青松郡眞寶 振替口座京城一二八一二番

大邱府 大邱公立普通學校 職員一同
大邱府 女子公立普通學校 職員一同
大邱商業會議所 書記長 吉田由巳
大邱本町 公立尋常小學校 職員一同
大邱府東城町二丁目 三石製靴店 電話八〇七番
大邱府東城町二丁目 表具師 長谷川繁藏 電話九四八番
大邱府幸町 米穀貿易商 古谷治輔 電話四八番
大邱府本町二丁目 南方眞次郎商店 電話一六一番
大邱府東城町二丁目 土木建築請負業 佐野平藏 長電話六〇四番
新案特許萬年提灯製造販賣 大邱府京町二丁目 タンナカ商會 電話一三〇番
大邱府元町(玉村書店横入り) 會席御料理仕出し 信濃屋 電話五八九番
大邱府十二間道路 スミレ寫眞館 電話一〇三四番
大邱府錦町一丁目 新炭石炭商 和泉商會 電話三五三番
大邱公立 鳳山町尋常小學校 職員一同
大邱府三笠町 京城日報支局 新炭石炭御小賣 山田春久
大邱府東城町二丁目 大邱消毒社 同 葬儀部 電話一〇四番
大邱府大和町 美術石版 活版印刷 慶北印刷所 電話三一六番
大邱府十二間道路 東京生そば 天ぷら 鮨 御料理仕出し 満盛庵 電話四六九番
大邱府八雲町 清涼飲料水製造 白米 新炭商 滿鮮飲料社 電話四七一番
大邱府 白鶴食堂 電話六一六番
大邱府鳳山町三番地 大邱テント商會 新田淸吉
各種鞄 柳行李 バスケット製造卸小賣 吉田旅行具店 電話七九番
大邱府東門町 木材石材商 家本材木店 電話七八〇

各種ボイラー製作及修理。各種ボイラー附屬品製作及修理。鐵板類製作工事一式。及組立。機械工具製作及修理。 塚本鐵工所 所主 塚本定次郎 朝鮮大邱府東本町 電話ト三三九番
朝鮮大邱府南旭町 諸官衙 各學校 會社 御用達 松本商會 長電話四九三番 運動用具。體操器具。和洋家具。製作販賣。改良塗板。 松本商會製作部
慶尚北道 達城郡廳 職員一同
大邱府南旭町 合資會社 南鮮飲料舍 代表者 天本鞍藏 電話三七五番
大邱公立高等女學校 職員一同
慶尚北道公立師範學校長 渡邊洞雲
大邱高等普通學校長 高本千鷹
東洋杞柳株式會社 大邱府
大邱府東城町一丁目 寫眞器械材料並 長藤寫眞機店 電話七四六番
大邱府錦町一丁目 前田鐵工所 主 前田勘作 本店 本町二丁目 電話四三六〇番 電話四三九〇番
大邱府八雲町 大邱安東間 其他各地貨物自動車 山川組 運輸部 電話二六七番
大邱府東城町一丁目 森永製菓株式會社 佐久間製菓株式會社 特約店 內外製菓卸問屋 鳴門軒 電話四六番
朝鮮大邱府市場北通 繭出入商 太弓商店 振替口座京城一〇九一九 私書函大邱局第四四號 電略(タ)又(ヘ)(タ)ユ(ミ) 電話長六一 七六 七二番
朝鮮大邱府八雲町 小口組大邱支店 電話長六五五番 電略(ヲ)又(ヲ)ヘ(ヲ) 馬場國藏

慶北青松郡 青松警察署長 植田柳助 中島米太
慶北青松郡 青松公立普通學校 校長 北村太吉 外職員一同
慶北聞慶 聞慶公立普通學校 校長 奥村甚左衛門 外職員一同
慶尚北道 英陽郡廳 職員一同
慶北醴泉郡 醴泉警察署 職員一同
慶尚北道安東郡 郡守 李胤榮 庶務課長 川越省三 財務課長 久保和七
奉化郡乃城 官公吏一同
慶尚北道 青松郡廳 職員一同
慶尚北道 慶山公立普通學校 職員一同
慶北永川郡廳 同警察署 同公立普通學校 同公立尋常高等小學校 同金融組合 職員一同
京釜線倭館驛前 貿易商 松原洋行支店 電話二二番 本店 福井縣敦賀港 支店 大邱府元町一丁目
大邱煙草耕作組合 矢野光成
各種時計 貴金屬 裝身具 眼鏡 大邱府上町 木村時計店 電話五五五番 振替京城九五三二番
米穀 海産物 乾物 食料品 大邱府錦町 平櫛支店 長電話三五六番

電氣工事設計請負並ニ電氣器具及各種特許電池 岡部電氣商會 朝鮮大邱府田町 電話八六三番
朝鮮大邱 振替問屋 磯貝彦五郎商店 電話長四一五番 振替京城一一五五二番
大邱府南町 穀物貿易 新炭問屋 森清吉商店 有働生命保險株式會社代理店 電話五五六番
朝鮮大邱府元町二丁目 土木建築請負 諸官衙御用達 各工事材料商 合名會社 坂野組 長電話三四〇番 振替京城四五九五番
米·大豆·雜穀·肥料 貿易商 松原洋行支店 朝鮮大邱府元町二丁目 電話長六二三 五〇七番 本店 敦賀 支店 倭館
大邱府外新岩洞 旭牧場
大邱府內村上町 精乳舍販賣所
フォード自動車販賣 木下商會 大邱元町一 電話一〇三七番
大邱府東城町一丁目 歐米雜貨 旅行用具 有名化粧品 越智洋品店 電話二七〇番 振替八〇五八番
大邱公立商業學校 職員一同
大邱府元町二丁目 合資會社 杉原商店 長電話一六番
大邱府東城町二丁目 製造卸問屋 割烹 落花生 望月本店 長電話二六一番 振替京城五二六五番
大田本町二丁目 望月支店 長電話四二番 振替京城二五一一三番
大邱府錦町一丁目 菅運輸部 電話長一五三番 二四四番 店主 菅照太郎 店員一同
大邱府元町二丁目 木材商 川上商店 電話五四一番 振替京城二二〇四番
各種鞄、柳行李、バスケット製造卸小賣 十年屋 高田商會 大邱府元町二丁目 長電話八六九番

諸機械工具金物 アイエキセル號米國自轉車總代理店 千代田洋行 大邱上町角 電話長四二五番
大邱府十二間道路 旭洋服店 電話八〇三番
大邱繰棉工場 大邱府七星町
大邱中學校 職員一同
大邱府田町 割烹 三笠 電話五三〇番
大邱無盡株式會社 大邱府十二間道路 長電話四四一番
絹綿絹布糸布商 內山好亮商店 大邱府本町貳丁目 電話一五三
大邱府上町三十四番地 大邱煙草元賣捌株式會社 長電話一三五番
大邱府七星町 割烹 刀水園 龍泉亭 主 長谷川音之亟 電話一〇二一番
大邱府元町一丁目 伊藤呉服店 店主 吉村鎭雄 電話一五七番
大邱運送業組合
於慶尚北道醸造品評會 優等賞受領 銘酒 惠美櫻 大邱府東雲町 醸造元 棟居酒造場 電話八二四番 振替八七七〇番

大邱府元町一丁目 割烹 福助 電話三三七番
大邱府元町 玉村書店 河野初治
大邱穀物信託株式會社
慶尚北道 產業課員一同
和洋酒類、醬油味噌、櫻正宗特約店 小泉酒店 大邱鳳山町 電話二八六番
大邱府元町一丁目 あたらしや 佐藤呉服店 電話五四八番
太陽生命保險株式會社大邱代理店 和洋菓子司 風月堂 大邱府東城町二丁目 電話四五二番
大邱旅館組合
大邱尋常高等小學校 職員一同
帝國火災保險株式會社 大邱代理店 山北光德 電話九七番 九三七番
朱陸島栽培研究普及所 種子並栽培要覽頒賣所 製造卸小賣 大邱府元町 末次養壽堂 電話四五六番 振替京城三三四〇番
大邱 大醬油釀造組合
大邱公立普通學校 職員一同
大邱府錦町一丁目 大邱運送株式會社 電話一三番 二八番

本年の經濟界はどう動くか

法學博士 河津暹

我國現下經濟界の實狀は、全く不況のどん底に沈みつゝありと云ふの外はない。而も茲に至つた所以なる原因に就ては、詮するところ外國貿易の不振に歸すべきであつて、換言すれば輸入の激增に伴れて輸出の減少を來したるに依ること、素より論を俟たないのである。最近に至りて些少の輸出超過を見るに及んだが大勢は猶依然として挽回すべくもない。斯くして我經濟界が殆ど行き詰まりの狀態に沈落し、これが挽回をして甚だしく困難なりとすれば、我が經濟回復は到底之を望む能はずと見るの外はない。我經濟界の大體を綜覽すれば實にかくの如くである。然らばこの

頽勢を挽回すべき方途如何

に就て考へるに、まづ第一に吾人の望みを嘱したるは卽ち政府計畫の財政行政の整理であつた。然るに近頃に至り其大體の計畫を見るに及びて、甚だしく吾人の失望を禁じ得ざるものがあるを遺憾とする。

現に既に發表せられたる點に就て見るも殆ど整理の實を伴はずと謂し得べく、よし多少の緊縮はあるにせよ決してこれによつて大なる效果を擧げ得るとは信じられない、從つて此點から見て、我經濟界が整理の結果に大なる望みを嘱することを得るかと云ふに、到底これは不可能と見るの外はなく、かくして資金の缺乏の續く限り經濟界は沈滯し、永く萎微不振の狀態を脫することは出來ないのである。かくて吾人の第一の期待は全く裏切られたのであるが、然らばこれに代る問題如何と云ふに、まづ第一に國民が出來るだけ勤儉努力し、而して經濟界に對して其蓄積したる資金を投入することが出來るや否やと云ふと今一つは今日既に會社等で行つて居るやうに

なるべく外資を輸入し其力

によつて企業の能率を擧げて行くと言ふより外、別に方策を見出し得ないのである。第一の、國民が勤儉力行に努めると云ふことは甚だ必要の事であるが

併し其效果に至つては非常に大なるものであると云ふ事は出來ず、且つ急速に其結果を擧げることも亦六ケ敷い。若し然らば殘るところの問題は外資輸入であるが、これも何れから外資を仰ぐことが出來るか、將又これによつてどれだけの利益を擧げ得るかと言ふ點に於て幾多の疑問が存するのである。而して現在の狀態の下に於て、甚だ高率なる條件に於てならば外資の輸入も或は不可能事ではあるまいが、併し非常なる高率の資金を以てしては企業界を賑すことは出來ない、若し相當の率と云ふことになれば、放資者の範圍は、著しく狹められ、餘程有望の企業でない限り、外資の輸入は甚だ困難となつて來るのみならず、外資の輸入を行ふて企業の振興を計るとなれば差當りこれによつて一時的に景氣の恢復を見ることが出來やうか、長い間の事を考へると非常なる禍根を後に殘すことゝなる、若さう云ふことを考慮に入れて眞面目にやらうと云ふ事になれば外資に於ても亦大なる望みをつなぐことは出來ないと見なければならぬ。かく見來るならば甚だ遺憾ではあるが本年度も

昨年度と同じく矢張不景氣

であつて、これが回復は容易のことでないと豫想せざるを得ないと思はれる。若し斯くの如しとすれば我國民は、誠に平凡で、つまらぬ事ではないが、矢張り勤儉力行によつて今後の努力を續けて行くと云ふ事が一般的によい事であると思ふ。我々の望む所は政府に於ても各種の事業繰延は勿論、大に財政整理の實績を擧げ、其實行に躊躇なからんことを期すべく、亦企業界に對して希望することは、此經濟的現狀を何とか整理し、他面に於ては大に生產能率を擧げることを工夫して行くことが甚だ緊要である。此種の事柄は何れも容易ならざる仕事であり、甚だ苦しいものであるが、併しこれを措いては他に全く經濟界恢復の方途はないと信ずるのである。

おもちやの牛 北野恒富氏筆

朝鮮財界

景氣はいつ立直るか

爲替相場が安定せぬ限り駄目

朝鮮銀行總裁 野中清

新年は何人にも希望を齎す。しかし其希望が眞實の希望を實現せざる限り、希望に終ることが多い。大正十四年の朝鮮財界に對して『希望あれかし』と云ふ希望には、吾人共に異議がない。吾人は其希望を最も強く抱く者の一人であらう。しかし其希望が果して實現せられるかどうかは、事實の推移に待たねばならぬ。朝鮮の財界は、朝鮮自體に內在する經濟組織と、內地財界の事情とに支配せられるさうして內地財界は世界財界の影響を受けること勿論であるから、朝鮮財界も此の意味で世界財界の影響外に立つことは出來ぬけれども、今日及び近き將來に於ては、朝鮮財界の世界財界から

受ける影響は

間接であつて、必ず內地財界の媒介を一度通してからのことであるだからドーズ案の成功で世界財界安定の礎石が据られ、英國の保守黨の勝利や、米國の共和黨の勝利で、歐米財界の景氣が好轉したからとて、直に朝鮮財界の外的事情が良好になつたとは云ひ得ない。之等の世界的事情が內地財界にどんな風に又どんな程度に響くか、或は內地財界には之等の好材料を容ても尙且救ひ得ない程の特殊の缺陷が潛在して居りはせぬか、等を考へて見なければならない。先づ朝鮮自體の經濟事情から眺めると、無論最近數年間不況の色調を脫することは出來なかつたけれども

手堅い歩調で

進んで來たと云ひ得る。殊に大正十三年の貿易の如きは、出入共非常に旺盛であつて、上半期には六百萬圓以上の出超をさへ示し、大正七年下半期以後のレコードを作して居る。而も近來、輸出品中に籾、米、牛、生絲、棉、纖絲等の半製品とも見るべきものが隆盛して來て移出增加率を著しく大ならしめて居ることは頗る注意すべき現象と云へやう。また金融方面でも徐々ながら預金の增して來て居ることや、事業界の整理の行き渡つて來たことや、更に之等貿易及金融の根本となるべき產業が、物的設備の整成と地方民の覺醒と相俟つて、

漸次進展の跡

を示して來て居るなど、少からず人意を強うせしむるものがある。無論天惠に於ては近年次第に增收の傾向を示しては居るが――不幸にも昨年旱魃期の水害及旱害によつて、前年よりも一割以上の減收を示したことは一抹の暗影と云ひ得ぬでもない。大正十三年上半期の貿易出超が十二年の豐作に一因を有してることを思ふと、十三年度の減收は、たとへ價格增加を以て之れを補ひ得るとの說あるにせよ、決して油斷はならない。がしかし概して云へば朝鮮財界の內在的方面には左程不健全なるものを認め得ないと思ふ。然らば內地財界はどうか、先づ吾々の看過し得ないことは最近著しく

樂觀說の擡頭

して來たことである。さうして其理由として擧ぐる處は、物價の昂騰、移出貿易の增進、預金の增加、整理の一遇、金利の低下及び、世界財界(主として米國)の好轉等である。以上の諸點は無論樂觀材料であるには相違ない。しかし我國には世界財界の好轉に反する我國特殊の一大暗影を藏することを忘れてはならない。これは一昨年の大震災による富の破壞及夫れ以來特に目立つて來た國際爲替相場の下落である。樂觀論者が主なる理由として擧ぐる輸出增進は實際輸出物資の增加によつてゞはなく爲替下落の爲の採算から來て居り、

物價の騰貴も

國內の購買力の增加によつてゞはなく、矢張爲替相場の騰落から直接輸出入品價の騰貴となり、內地品も之に刺戟せられて一般に上向いたのである。勿論爲替が逆調になつた時に、輸出增進によつて其逆調の恢復を計るのは國際貸借の常道であつて、其現象が徹底なだけ、我國經濟界に底力あることを示すものとも云ひ得るが客觀すれば、それは右に動いた振子が中心に復せんとする當然の運動である若し最近の輸出增進と物價騰貴を以て樂觀材料と云ひ得べくんば、之れは爲替回復の後に來るべき反對の悲觀材料を何と見るものかと云はねばならぬ。しかし吾人と雖も

強ち悲觀論者

ではない。預金の增加、整理の一遇は何としても眼前の事實であり、輸出の增進、物價騰貴も(物價の方が爲替相場より先走つて輸出を阻止せぬ限り)當然の運動であるから、前途の曙光を認め得ぬと云ふのではない、たゞ爲替相場の安定を見ざる限り、世界財界の好轉を以て直に我國財界の隆盛を豫測し、延いて朝鮮財界の將來までも樂觀せんとするの態度なることを指摘して自ら戒めんとするに過ぎない。思ふに、我國財界も陰鬱な天候が久しく續いた爲めに、快晴を望む心情切なるものがある。其希望がやがて、焦慮となり、焦慮が中間景氣を生み出すことが多い之の點は深く

戒愼を要する

と思ふ。しかし前に云つた通り、朝鮮財界は朝鮮經濟界自體には大體に於て不健全な點が認め得られぬのであるから、爲替相場安定し、又內地金利も引下げ低調を持續し、樂觀論者の擧げて居る事象が眞に根底を有するものとなつたならば、朝鮮財界の繁榮も期して待つべく諸君と共にその助長に一臂の力を盡し得ると思ふ。それをこの新年の樂しみとしたい。

財界恢復の遲速は國民の努力如何にある

漢城銀行頭取 韓相龍

米國大統領の選擧と云ひ、英國保守黨內閣の成立と云ひ、其政綱は何れも主として產業の振興を基礎として居り、又ドーズ案の通過は時に歐洲諸國をして經濟界の建直しに最も有效であると稱せられ、それ等の關係上大體に於て世界は恢復するものと見ることが出來るので、此結果米國の財界は益々好況を現し延ひて我國の生絲其他の生產品の輸出が旺盛になり、國內經濟界は自然的に好影響を招來すること〻豫想せらるゝのである、又近時に於ける米價及綿絲布の昂騰、株式高騰などに徵せば何だか景氣が直つて來た樣な氣分も致され所謂中間景氣とも見られるが何かの動機で何時瓦解するやうなことがあるかも知れずとの懸念もあり、樂觀交々の觀測あり、更に所謂緊縮整理も綻き謂がある。さりながら今や政府は行政整理を斷行し、國民亦專ら節約、緊縮を謳つて居る故に其の成績は未だ充分とは云へないが相當の效果も現はれて來た樣である。そこで今一段の努力を重し公私經濟生活に於て要約を緩らず、進んで積極的に產業の振興に努めらんには前途は左程心配するに足らぬこと〻思はるゝ。要するに財界が恢復することの遲速は一に國民の奮鬪努力の程度如何にあるので此の自覺なくんば勝ち來る國際競爭場裡に於て勝を占むる事は至難である。

お調子に乗るな

朝鮮商業銀行頭取 和田一郎

財界の將來に付ては世上色々の觀測もあらうであらうけれども、何と云つても貿易の逆調は容易に回復する見込もなく、本年上半期に於ては少くとも

四億圓位

の入超は免れぬであらうし、輸出は必ずしも惡くはない狀況であるけれども、さりとて急激なる增加を認むるに足る樣な材料もない、從て著しく輸入の減少せざる限り正貨は益

る樂觀し難いと思はれる、爲替關係の回復も存外長引く樣にも見えるし、我物價の國際的地位も極めて不利なる狀態にある――奢侈品の防遏、節儉貯蓄、政費の緊縮整理等に關する政府の施設は相當に徹底せられつゝあるにも係はらず大勢は依然として動かない、一面金融の手許は漸く潤澤となり又一面物價騰貴、株式騰貴の傾向と共に多少財界回復の

曙光が表れた樣にも

言はれるけれども一般經濟界の活動が之に伴つて居らぬし又種々の根據より見てまだ好景氣來の先驅とは觀測しかたいのであるから過渡期の經濟は當然忍じて避けねばならぬこと〻思ふ、何と云つても今日は國を擧げて所謂國難經營の自覺を徹底的に實行せねばならぬ時節である、人心は兎角僞み易いこの弱點は何時も健全なる社會の進運を妨げつゝあるのでお互に最も警戒せねばならぬ點であるのである

海外爲替 回復の途

男爵 田健次郎

近時に於ける我國幣の下落は洵に容易ならぬ大問題であると云はなければならぬ、本來ならば米貨四十九弗に相當すべき我百圓は今や二割以上の下落を告げて三十八弗餘を上下してゐるに過ぎない。斯の如き幣の下落は曾て明治十四五年の頃之を見た事があつた。當時、西南戰爭の軍費に充てる爲め政府は不換紙幣を增發して

一時を糊塗し

たのであつたが其結果として紙幣の價値は下落し銀紙の開きを生じ遂に一圓に對し紙幣一圓八十錢に達したことがある。それが爲松方公の努力によつて不換紙幣を回收消却する案を立てゝ、諸年間之を斷行し其結果として日本銀行を設けて兌換制を確立し斯くて明治十七年には銀紙の開きを消滅せしめ爾來長くこれを維持し來つたのであつた。然るに今日は又もや當時に類する紙の開きが再び生ずるに至つたのである。此圓爲替下落の大問題に對する

救濟策として施すべき政策や手段は多々あるであらう。當局でも考究してゐる

正貨輸出禁止

の解除も又一策であらう。是には通貨收縮より來る一大不景氣を切拔ける當局の覺悟がなくてはならぬ。然し爲替計畫の如きは比較的枝葉の方便に過ぎないもので之が極め眞に必要とする所は獨り施設上の手段のみに止らず我國民全般が此事實に對し一大覺醒を爲し勤勉力行大いに製品を低廉ならしむるの策を講じ、以て輸出貿易の復興を促し國際貿易をして順調に復せしむべく最善の努力をなすべきである。是が爲替回復の唯一の道である。

ドン底は二三月頃？

釘本藤次郎

昨秋は一般が大震災の後を承けてゐるので相當に復興景氣が出るものと見てゐたが事實は反對で復興問題は內閣の更迭三回に及びたる爲め遂に行惱みとなり緊縮政策の見越輸入、金融の梗塞、不當値の鎭靜政府の緊縮方針行政整理等の爲に一般は極度の不況に陷り恐らく利益を享受したる者は銀行、會社、個人の何れと雖もあるまい從つて一般の整理も相當に行はれたものと思はれる。但し今日の經濟上から見れば商行きが普通より

稍々少い

と云ふ位であつて一旦向上した生活に對する節約は未だ十分思ふ樣に行はれて居らぬ樣に見受けらる。仍て昨年末の一年の經濟界を見て一般が感ずる々非常なる緊縮に改まる事と思ふのである。故に二月三月頃の變には總々行けないものは落城する。眞に不堅實なものは倒れて堅實なもののみ殘る事になる。此の大淘汰にかけられる事に依つて茲に始めて堅實なる基礎の上に立つことになるのである。斯く淘汰し來れば是からは一般經濟の結果に殘つた堅實なるものに依つて組織されるから本年

下半期頃

になれば堅實なる財界となると思はれる。即ち目下は整理は出來てゐるが更に一般が徹底すべきか、將又如何にすべきかと云ふ岐路に立つて居る時期であるが、寧ろ此の際諦める位が相當にあれば夫丈け却て財界には好影響を與ふる事と思はれる何れにしても二三月頃を過ぎれば漸次安定して堅實なる經濟界になるだらうと思はれるのである

興味ある米界

―一大波瀾を豫想さる―

天日常次郎

大正十三年度の米界は大した波瀾はなく先づ平穩に推移したのであるが俗人は十四年度の米界は當業者は固より生產者及び消費者共に大に警戒を要し或は一大波瀾あるやに想像されて居るのである我々專門從業者としては興味津々たる面白き時期と思はれるのである。十三年度の作柄を見るに昨年は內鮮を通じて之を最近五箇年の平均收穫額に比較するときは約

四百萬石の大欠陷

を生じて居る譯である果して然らば此の不足を何に依りて補ふかと云へば無論外米の補塡にならねばならぬ。併し此の外米が豫想通り輸入が出來るや否や、假に順調に出來るとしても爲替關係等に依り價格に大變動を來しはせぬか、加之需要に堪へぬのみならず、國民生活を脅かすものは外米食を嫌ふ習慣あり、曾て大正八年の米騷動の時は一般に個人收入が今の樣に好調ではなかつたが、其後供給關係や生活程度が向上して來て居るから果して以前の樣に外米の需要があるか何うかと云ふ疑問が起つて來るのである。然して現時朝鮮の食糧問題に對し焦點となる所の朝鮮の輸出狀況と內地に於ける

朝鮮米の消化力を

見るに例年になき好況を呈し特に東海道筋、北九州、中國筋、四國筋、昨年以來北陸筋、信州路と云ふ樣に殆ど朝鮮米の行き渡らぬ處なき迄に販路が擴張されて來たので在外移出商は確へて居ること〻信ぜられる之等の關係を綜合して考ふる時は今後の移出は如何なる結果を來すや容易に斷定を許さないものと云はねばならぬ。以上の如く考察を下せば本年の朝鮮に於ける米界は多事多端であらうと思はれる。之れに對しては大に考究を要すると共に一般も輕々に油斷を忽にすべからざるものと思ふのである

『朝鮮一』多田國境督軍

十字に跳く鴨綠江の鐵艦はモウ古い、此際日本晴しい處で吹聽したいのは曾て鴨綠警備から國境督軍の稱を得た名物男多田榮吉氏である此國境名物多田督軍には既にライオン又はブルドックの綽名あり國境警備の王であり又若い時十年に寢ずとも離れぬ處に所謂噛んだら放れぬ根強い處がある、蕃族の討伐を一手に引受ける多獅島警備、鴨綠江の警備たる平北の山林其に私欲を放擲して其の貢獻する處に氏の人格が見え茲に朝鮮一の尊稱を奉したい所以があるのである、此の國境の二大問題、未だ訓練を要するに於ても大多獅島州建設に缺くべからざる要素であり新義州の運命は之を牛耳る氏の前途と共に明るい前途を辿りつゝあるは疑ひの餘地ない處である。

忠北の煙草と天然炭酸水

忠淸北道の名物は天然炭酸水と黄色煙草である、前者は淸州に近い朝鮮鐵道內務驛から一里半を距りたる發掘里に自然湧出する炭酸泉である古代より藥水と稱して著名なものである、此炭酸水は世界を通じて三ケ所よりない中で數分け優秀なものだそうだ。今は其處に工場が設けられて天然炭酸水と天然サイダーの淸涼飲料を製造して居る黄色煙草の耕作は忠州を中心として四郡三十一面に及び面積一千三百町步、收穫五十一萬三千斤價格百二十三萬圓を超過して居る

大邱府東本町 久保洋服病院 院長 久保和七

石油機械 牛皮食鹽貿易商 大邱府市場町・電話三一番 內田商店

苹果各種果實 大邱府錦町驛前 黑川農場販賣部 黑川圓治 電話三六番

雜穀 入貿易商 大邱府本町二丁目 松前商店 坂本俊資

大邱府元町二丁目 木村竹太郎 電話六番

朝鮮料理 西洋料理 すき燒 ちり 大邱下西町 華仙閣 電話一〇二番

土木建築請負業 大邱府元町一丁目 吉原軍太郎 長電話二八番

銃砲火藥 運動具 武術用具 大邱府田町十二間道路 名出商店 電話長二二一番・振京一八七三

列車接續名所案內 大邱驛構內 タクシー自動車部 電話二一一番

生絲繭商 大邱府八雲町 龜石商店 長電話三三五番

土木建築請負業 大邱府東本町 椎橋四郎 電話一〇三番

慶尙北道 金融組合聯合會

大邱府東城町一丁目 西田精肉店 電話二一〇番

ゴム製品一式卸商 大邱府本町一丁目 笠原商會 電話八九七

日用雜貨 食料品荒物 大邱府三笠町一番地 ㊎商店 電話六〇八番

大邱府錦町二丁目 古賀煉瓦製造所 所主 古賀榮雄 電話一〇三九番

大邱府西新町 宮井正一

英式結髮揃 婦髮具販賣 大邱府三笠町 田村權藏 長電話七一八番

大邱府鳳山町 西田印刷所 電話長一七三番

日用雜貨 食料品荒物 大邱府村上町中央市場前 (久)商店 電話七二一番

大邱府上町 內鮮特產品商會 電話八〇五番

洋服 帽子商 大邱府上町通 富屋商店 電長九八五・振京城八〇〇八

大邱府大和町(西本願寺裏門前) 森齒科醫院

於各博覽會品評會共進會褒賞受領 銘酒 高麗錦 菊の露 萬壽白藥酒造元 大邱府東本町 片木屋酒造場 電話五五一番 振替京城六八三八番

建築製圖 設計監督 高橋建築事務所 高橋德重 大邱府前田町四六 電二九六

大邱料理屋組合

內外自轉車及附屬品 銃砲火藥 鑛山土工用品 銃砲修理改造 卸商 スプレングストツク會社 ダイナマイト特約販賣店 東京 獨逸人 面印 旭 金印 株式會社 丸嶋商店 大邱府東城町一丁目 長電話二三〇一番 振替京城一九二三番

大邱魚菜株式會社 電略「タ」・電話二四七番

大邱醫師會

大邱慈惠醫院 職員一同

朝鮮大邱府元町一丁目 大邱穀物株式會社 電話 八二〇 六二〇 九六三〇 市場專用八〇一 電略「タイ」

大邱專賣支局 職員一同

慶尙北道英陽郡 英陽俱樂部員一同

慶尙北道義城郡 義城官公吏一同

慶北尙州料理屋組合 井筒 電話一〇六番 一福 同一〇一番 天金 同一〇八番 都 同二一番 嬉野 同一一四番 旭屋 同五九番 海東園

慶北尙州郡 郡守 申鉉求 淸澄篤人 丹羽憲夫 津田豐

慶尙北道軍威郡 軍威官公吏一同

山色連天 富士山頂の日の出

本年の勞働運動

麻生久

（一）

日本の勞働運動が眞實に運動らしくなつて展開して來たのは、大正七八年頃からである、從つて、大正十四年と云つても、此間僅に七八年に過ぎない。此間の勞働運動の經過は隨分めまぐるしいものがあつた。過去七八年の間我々勞働運動に從事してゐる者にとつて毎年新年劈頭の感想は今年こそは勞働運動者にとつて最も重要な年であると思ひ、年暮れんとして過去一年の成來つた事を顧みる時、實に多忙を極めた年であつたと感じなかつた年は一年もなかつたのである。實際、日本の勞働運動は世界のそれと比較して甚だしく遲れてゐる。而も他の先進諸國が過去長年月に亘つてなし來つた結果は時々刻々押し寄せられ日本も現在に於て他の先進國と肩を並べて行かなければならぬ狀態にあるので從つて運動夫れ自身も非常な速度で驅け足をせざるを得ない、何となれば、遲れて出發して同じく肩を並べて行かうとするには、他の先進國が長年月かゝつてやつた事を、日本は短期間の間に壓縮してなし遂げなければ追ひつけないからである。

斯くの如き事情に迫られてなし來つた過去七八年の運動は、實際に於てめまぐるしい變遷と發達とを遂げ來つたのである。例へば勞働運動を指導すべき思想の如きも一時に輸入せられて、そこには目まぐるしい、混亂の渦を卷いた。或る時期にはサンヂカリズムの思想に影響された事もあつた。或る時は無政府主義の思想に影響された事もあつた。或る時は露西亞のボルシエビッキーの思想をその儘受け入れて何事かをなさうと欲した事もあつた。其他數へ立てれば未だ多くの思想に影響されて色々な渦を捲き立てた。そして、是等の思想は單に思想として渦を捲き立てたのみならず、矢張り勞働運動の實際の上にも影響して、勞働組合運動の上にも諸種の流派を生じ渦を捲き起し、勞働者同志の間にも激烈な闘爭を生じたのであつた。

（二）

併しながら、最近に至つて勞働運動の上には一つの決定的な傾向が生れて來た。それは過去數ケ年のめまぐるしい變轉極まりなき言論の渦も一とロにいへば、勞働組織の上から生れて來た言論である。その言論を一とロにいへば、將來の勞働運動は、現實の社會に立脚して、その上に築かれてゆかねばならぬといふ事である。今一つ現實的に又日本それ自身の上からいふならば、日本に於ける將來の勞働運動は、日本の現實の社會それ自身の上に立脚して進められねばならぬといふ事である。然らば、何故過去の組織の上から斯くの如き結論を生み出したのであるか。一とロに云へばそれは過去の運動が、觀念上の運動であつたと云ふ事である。もう一つだけて云ふならば、日本の現實の社會と云ふ事を忘れ、又は無理して他國の運動そのものを、其儘日本の國の運動の上に實現させんとした事であり、又理想と現實と云ふ事の關係立場を無視して、理想を直に現實たらしめんとした運動であつた事である。元來、社會運動と云ふものは社會そのもの、反映であり、產物である。社會的な思想と云ふものも決して、空から湧いて來るものではない。矢張り社會そのものから湧いて來るものである。けれども思想の發展は必ずしも現實を伴はずして如何なる將來をも想像し推測して、或はそこに社會の必然に來るべき將來の社會を指し示し或は一個の理想をも想像し得るのである。例へば社會主義の社會、共產主義の社會と云ふ如き、一つの社會的理想を描き出す事が出來るのである。斯くの如き一個の社會は決して、空に生れるものではなくて、矢張り今日の社會を基礎にして考へ出されるのであるけれ共又、斯くの如き一つの社會的理想が理想の域から次第に現實化して、遂に一つの社會的現實となるためには、その間にそれ〴〵の進化的順序を踏まねばならない、斯かる理想があるからそれが直に現實と一致する事は不可能である。觀念的運動と云ふ意味は、現實から理想に達する、順序、過程、進化の道程を無視して、理想を以て直に現實を律せんとする事である。而し現實の上に立脚すると云ふ事は、現實から理想に到達する道程を考へ、それを洞察して、その道程を踏んで、理想を追求して行くと云ふ事である。

さきにも述べたやうに、日本の如く運動の遲れた國では、先進國の進んだ實例が新聞などで報道されると、望みは高くなり氣は焦つて運動を理論に依つて左右しやうとする傾向が多くなり、從つて、運動は觀念的とならざるを得なかつたのである。

（三）

併しながら、かくの如き順序を誤まり、道行きを誤つた運動は一面に於て失敗たらざるを得ない。

最近日本の勞働運動の上に、現實に立脚せよと云ふ聲が起り、それが運動の傾向となつたのは、此苦き經驗の結果である。昨年四月に開かれた、日本勞働總同盟の大會に於ては斯くの如き精神が明かに表明され宣言の上にも明かに表明されたのである。從つてその精神は現實の政策の上にも現れて、今日まで排斥し來つた勞働會議も利用すべしと云ふ事になつて、國際勞働會議に對しては既に昨年の大會に選出されて行つたのである。其他、今までは極めて非現實的な議論に左右されてゐた諸種の運動に、非常に現實的となつて、組合設立の着實なる運動が次第に擡頭するに至つた（未完）

武力を背景とせぬ平和は不安定

朝鮮軍司令官 鈴木操六

昨秋精神作興勤儉力行の御詔勅を下されて以來既に一週年の歳月を經過したのであるが此の詔勅の御趣旨が如何なる程度迄に實現されてゐるかと言ふと遺憾ながら吾等を首肯せしむるに足るものは殆ど無いと言ふ寧しむべき狀態である、去る十一月私が東京に行つた際の如き一般の狀態は昨年の震災當時の慘禍を殆ど忘れたるものゝ如く而も十一月十日より一週間に亘り節約デーを催された、皮肉にも十日より却て料理屋は繁昌する、之等の事も大人と言ふ豫想に反した悲しむべき事實を現出した、私は買物の爲めに二三大商店に行つたが何處も

人を以て充たされ殆ど通行も出來ぬ雜踏の狀態であつた一般人心が官能の快樂を求める事にのみ汲々として華美を競ふ風は益々旺ならんとするの傾向がある體育にも精神の修養にも關係ある中等學校に於ても軍事教育を加味されんとするや直に之れに反對をさへ唱へんとするものが出ると云ふが今日の世の中の狀態である、之は一體何に原因するか、當局の指導宜しきを得ざる爲めか、將又國民の自覺なきに因るか、その原因の何れにあるにせよ現狀の儘で推移する事は決して許すべきでない、此の際國家實力涵養の第一歩として各人の自覺喚起に努めねばならぬことを痛感する、然し世人中動もすれば實力の養成と云へば

金さへ溜めればいゝと考へる者が多いが私はそうは思はない、金が過分に溜まれば却て惡い結果を醸し易いものである、之は東西古今に亘る國家の興亡の歷史に見るも將又個人の浮沈盛衰に徴するも明らかである、それより人間社會に最も肝要なものは精神上の問題である、剛健なる精神の涵養がなければ巨萬の富も何の役にも立たぬ、國家の繁興にしろ個人の偉大なる事業にしろ往々にして金がない者の手によつて却て立派に目的が遂せられてゐる、只無闇に金！金！と金のみ目あてにしたとて何等實益ある事業が出來るものではない、國力の涵養には金も要る、學問も要る、殊に科學の力が必要である、更にその反面に剛健なる國民の氣力が必要である。平和！素より望ましい所である。然も

武力を背景とした平和でなくては實に不安定なものである、國家の實力涵養の前提として個人が自覺して力の培養に努める必要を大いに力說するものである、我朝鮮に於ても今後總督の行はんとして諸般施設に大いに力を用ひる事となつてゐる際である、國力涵養の爲めには實に良い事であるが各人が能く之れを自覺して努力せねば決してその目的は達せられぬのである、過去一年間既往は仕方がない、たゞ年改まると共に今後鮮銀努力詔勅の御趣旨に添ひ奉り益々その實現に努めたいと思ふ

尚武の氣風を養へ

鎮海要港部司令官 松村菊勇

歐洲大戰は國防は戰に軍人軍艦のみの實務ではなく國家が人と物との全努力を擧げて擧國一致國家總動員の下に國難に當らなければ終に國家を完ふすることが出來ないと云ふ教訓を示したのである。されば今や世界列强と稱する英米佛伊等の何れの國を見ても戰後出來得る丈けの國費を節約し平和的施設に使用し戰力の恢復に努力すると同時に一方に於ては寸毫も國防上の施設を忽諸にせず、特に其重要素因たる國民資質の向上に留意し國民全般の教育に力を竭し以て國際競爭場裡に優越の地位を占むべき努力を盡して居るのであるが爲め學校教育を

軍隊化し以て青少年少女の精神及體力の訓練に多大の苦心を拂つて居る、然るに由來尚武を以て立國の大精神とする帝國々民の今日の有樣は何うであらうか、學校教育中に軍事教育の一部を加味することは世界の大勢を通觀して至當の措置で寧ろ後れ氣味の感がある位で何等議論の要はないと思ふ、我々は軍國主義とか正義主義とかソンナ小さな考へを超越して世界的大をなさんがために第二の國民として最も健全なる思想を有し最も健全なる身體の所有者を熟成する次第で擧國一致尚武の氣風を鼓吹し自彊自強の道を講じなければ終に世界の落伍者たる悲運に陷ることを恐るゝものである、今や我國は

國難來に瀕しき危機に臨んで居る世界的孤立無援の立場に於て最も苦き國際試錬の中に奮闘しつゝあるのであるから國民は須く聖旨に基き尚武の氣風を向上し浮華輕佻の念を去り至誠一貫質實剛健の面目の活動的人物を作り明治大帝の御鴻業を大成し奉るのが今の時機に於て國民のなすべき一大義務と信ずる。

國民は大覺悟を要す

第二十師團長 引田乾作

最近帝國の狀態を見るに頗る寒心に堪へぬものがある、一昨年九月の震災直後には一時緊張し誠に頼もしい感じを示し我國民性の發動は遂に豁然に値するものがあるとひそかに期待し考へてゐたが一年後の日本は以前にも增して弛緩し切つた氣分が甚の目ゆる、政府は財政緊縮の結果として行政の整理や軍備の縮小を行ふたが之れは國民の自覺心を喚起して國力の充實を目的としたものである、從つて國民は政府と同時に國民全體が武裝して立つの準備を益々進めねばならぬ、兵數、師團數と形式的に減ずる反面には一朝有事の際忽ち補充し得る丈けの訓練を國民は整へて置かねばならぬ、一部誤つた思想に眩惑されて國本を忘れ國家を害するが如き事があつてはならぬ表面に平和を唱へ人道を謳歌する諸外國が南太平洋上に堂々と九ケ月に亘る大演習を行ひ東洋の一角に海軍根據地を造るを見れば世界の大勢が如何に動きつゝあるかは贅言を要せない、美名に醉ふべからず、蛇蝎の色彩の美はしさを見て蛇ある事を忘れてはならぬ要するに私は此の際朝野の人々が世界の大勢を見てその進むべき路を誤らざらん事を祈るのである

起用第一年を迎へて 感一しほ深し

總督府學務局長 李軫鎬

大正十四年の春が各種の政治的施設の上から觀て將又國民的組織興盛の上から見て、國家的に更始一新の春であることは誰しも否定し得ないのであるが、同時に自分自身に取つても亦實に更始一新の春である。自分は曩に各種の官職に歷任して微力を國事に致したが其の後官海を絕つて、餘力を財界の事に竭して居つた。所が昨冬圖らずも起用せられて學務局長として新に半島の教育を監べることゝなつた。自分として豫想外の事であると共に、又特に自分自身の淺學菲才に省みて衷心恐懼逡巡の念に驅られて居る事は申すまでもない。世人は吾々朝鮮人を政務の樞機に起用して、どし〳〵其才能を發揮せしめらるゝ現總督並に政務總監に對して、あらゆる稱讃の辭を惜まない。是は寔に然るべき事と思ふが、自分は更に是よりも遠大なる總督及び總監の精神が、職務もあらうに學務といふ精神的に國家百年の大計を樹すべき重要の位置に吾々を置かれたといふ點に就て、一層傾倒の情を禁じ得ないのである。何故ならば教育の事は信念的であり、理知的であると共に感情的である。物質上の政治とは違つて國民の思想を支配し、國民性の根本にまで立ち込む所の一大事業であるからである。斯くの如き重大なる政務に聊か遲疑する所なく吾々を起用され、絕對の信頼を以て事に當らしめらるゝ總督及び政務總監の雅量は、寔に大海の如きものがあると同時に、吾が同胞も日進の點に於て著しく向上し、文化の程度著しく向上し、與に俱に鮮內の施政に參與するに足るものがあるといふ厚い信用を贏ち得た事を證明するものと言はなければならぬ。斯う考へて見ると、不肖自分が學務局長の椅子に座いた事は、一方に於て東亞民族の共存を主張する基礎から見て、更に意義ある內鮮融合の大理想に數段の地步を進めたと同時に、他方に於ては我等一千七百餘萬半島の同胞が、文化的大發展の上に更に飛躍欣舞せざるを得ないのである。自分の光榮は唯自分一人のみの光榮ではない。寔に我等同胞の向上發展の表象として、正に大白を擧ぐべき慶事である。自分は斯ういふ深慮と決心とを以て、半島の教育に當らうと思ふ。自分は此の絕大の責任を遂行する上に切に大方の助力と後援とを希望するのである。

桃果 ……… 岸田劉生氏筆

郵便貯金の奬勵に全力を傾注する

總督府遞信局長 蒲原久四郎

郵便貯金は國民大衆の日常生活に必須缺くべからざる機關であると共に國民經濟の消長と社會文化の趨勢とに最も深く關係を有するものは我郵便貯金事業であるが、殊に多事多難なりし年を送り更始一新國力の伸張と國民經濟の振興に對し更に新なる努力を國民の等しく竭すべき重大なる意義ある新年を迎ふるに當り、國民生活と最も深き關係を有する我遞信事業上の一として新春劈頭先づ最も痛切に感ぜしむるものは國民の勤儉貯蓄を奬勵することが我局の要務であると共に、吾々の所管する郵便貯金が勤儉貯蓄の象徵として直接的にも又經濟的にも極めて重大なる使命を有するに顧み、之を管理する當事者として年改まると共に更に一層より多くの努力を之れに傾注すべき必要ありと信ずることである。即ち現下內外の情勢は頗る多事にして國民經濟の基礎を鞏固にし國力の充實と國運の進展を企圖することの緊要なる實に國家多難の秋であるにも拘らず一般の思潮動もすれば浮華放縱の弊に陷らむとし勤儉貯蓄の美風漸く地を掃はむとするは洵に寒心すべきことであつて、益々國民に質實勤儉の美風を保ち勤儉貯蓄の思想を涵養するには國民一般の此の自覺に俟たねばならぬのであるが、之を實際に行ふには非常なる用意と努力とを以て官民一致の協力により始めて達成し得るのであると思ふ。內地に於て過般來全國的に行はれた勤儉奬勵に關する擧國一致の運動と各種の施設の如きは寔に機宜に適したものであつて、吾が朝鮮に於ける現狀は更に一層の努力を要するものありと信じ、吾々は斯の如き趨勢に依つて一般民心の振作と勤儉貯蓄の精神が朝鮮に於ても民衆一般に普及せむことを冀ひ吾々の職責たる郵便貯金の奬勵の事に今後一段の努力を致さむとするものである。

『朝鮮一』慶北の苹果

慶尙北道の苹果栽培面積は約三百町歩一ケ年の生產高が約三十萬圓から三十五萬圓、其栽培面積から云つてもその生產高から見ても敢て朝鮮第一と云ふ事は出來ぬけれども其品質の優秀なる點に於て既に朝鮮第一の稱がある。其品種は種々あれども、非常に優良の品を出すのは、中生種『紅玉』晩生種『國光』である、朝鮮歷代の總督、歷代の政務總監が東上せらるゝ場合は何時も提こき選りへの献上品として時期が早ければ『紅玉』稍十一月以後になれば『國光』種を貢上げて東上せらるゝ、只に畏れ多くも辱はる處によれば兩陛下に於かせられても、同政宮殿下同妃殿下に於かせられても慶北苹果の艶麗なる色澤と、香氣高く滋味濃かなる事を非常に御賞美遊ばされるとか、慶北苹果と稱し又は朝鮮苹果とも稱し、大邱苹果と稱し慶北の苹果は常に朝鮮の苹果を代表して東京、大阪、其他內地の各都市、北は滿洲、哈爾賓等に其聲價を嘖々せられ朝鮮第一の名を恥づかしめぬ。

今後の朝鮮鐵道に期待する二大要項

京鐵局長 安藤又三郎

一、線路は一哩でも多く延長すること

母國の鐵道が今日既に四通八達せるに拘らず尚十四年度に於て建設費四千六百萬圓改良費一億圓以上を投ずるに對し、我朝鮮の如き線路の普及未だ充分ならざる土地にありて僅く建設改良費を併せ一千萬圓を支出するに過ぎないといふことは非常に矛盾であり撞着である、日本の財政上致し方がないといへばそれまでゞあるが、朝鮮の現狀よりしたならば母國より現ろより以上の費用を投ずるが至當であることは何人と雖も容易に首肯するであらう、若し此の際朝鮮に於ける鐵道の建設改良費を增額することが出來ないならば內地の一部を割いても是非朝鮮の鐵道を延長せしむる必要があらうと思ふ、勿論之は官設のみでなく私設鐵道に於ても亦然りで、相當資金を融通し極力線路の延長に努めなければならぬことは謂ふまでもない次第である。叙上の意味に於て自分は鐵道の建設に付いては其線路の勾配や曲線其他停車場の設備等に關しては幾分不便を忍んで其方面の經費を成るべく節約し唯線路の延長を圖るの方途に出でゝ貰ひたい、要するに母國鐵道は今日改主建從の時代であるといふが我朝鮮線は正に建主改從の時代であると思ふのである。

二、運賃を出來るだけ低廉にすること

次に運賃問題にありては朝鮮の如き產業の幼稚なる處に於いては出來得る丈け運賃を低廉にし、產業の發達を助長せなければならぬ自分は此の點を特に考慮して大正十二年度下半期から貨物運賃の引下げを斷行したのであるが、今後物價が下落し鐵道の經營費を切詰めることが出來る場合があれば、總督府としても尚運賃の値下を斷つて貰ひたい、去りながら鐵道の經營の建て方は經費即ち支出に相當する金額は如何なる方法に依つても收入を以て之を得なければならぬ、從つて經費が減ぜざれば運賃の低減は出來ないのである、自分は經費の節約に付いても充分努力した積りで運賃の低減を斷行したのであるが不幸にして十三年度に於て財界の一大不況に遭遇し遂に經費を償ふに至らずして大分收入不足を見るに至つたことは先見の明がなかつた結果で甚だ慚愧に堪へない次第であるが、今後に於ける運賃低減に際しても此等の事情は大に考慮すべきであらうと思ふ

山色連天 安藤 靜

金剛の山大そらにつらなりて雲にはれ行く高嶺のあけほの

慶北浦項 迎日郡廳 職員一同

朝鮮慶北浦項港 穀雜貨 船具漁具 ㊞原田商店 電略（ハラ）又ハ（ハ）電話五六番 振替京城一二九一〇番

慶尙北道迎日郡浦項港 日華產業株式會社 浦項農場 電話七番

慶北浦項港 大邱煙草元賣捌 株式會社 浦項支店 電話一七六番

慶尙北道水產會 會長 中谷竹三郎 慶北浦項

慶北浦項 浦項公立普通學校 職員一同

慶北浦項仲町 內科 小兒科 外科 婦人科 皮膚科 花柳病科 エツキス光線科 入院隨意 爲仁堂病院 電話四八番

慶北迎日郡 浦項金曜會

朝鮮慶北浦項 松兼農營事務所 主任 松本末雄 電話四五番 振替京城一九九五番

慶北浦項港 浦項料理屋組合 組合員一同

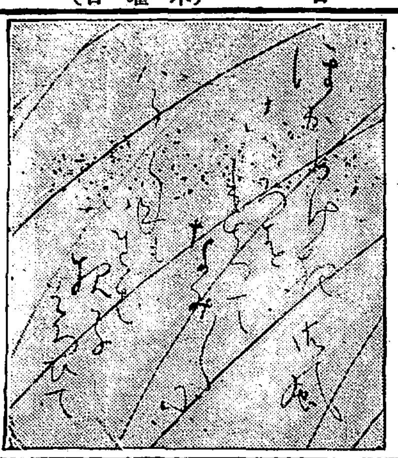
慶北浦項 大內治郎 電話一〇五番

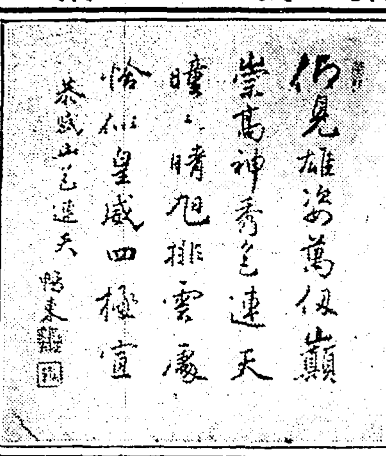
慶北浦項 北垣又次郎 電話一六四番

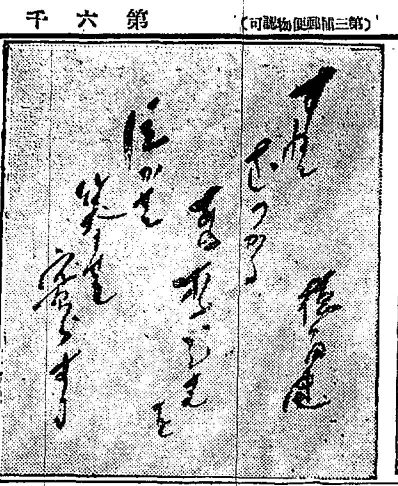
慶北浦項港 浦項公立尋常高等小學校 職員一同

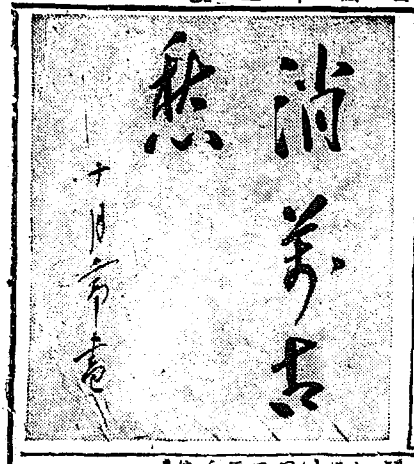
米穀雜貨海產物輸移出入貿易商 ㊞中谷竹三郎商店 朝鮮慶北浦項本町一丁目 大阪海上火災保險會社 保險事務取扱 電話長十四番 電略（ナ）又ハ（ナカ） 振替口座京城八六一九番

角輪組 浦項出張所 山住長平 電話一四八番









寫眞說明
（右より）巖谷小波氏筆　相馬御風氏筆　星和鴨東氏筆　德富健次郎氏筆　有島生馬氏筆

宮中の女官達

惠まれたお局の生活

千代田の城の奥深く雅びやかなお局の生活を送つてゐる宮中女官達にもお正月が來ると晴れがましい賑やかさが訪れて來る。門松こそないが綵物の美しい裲襠つた白粉のけはい匂やかな女官達が居ずれて微妙な屠蘇の酔ひに頰をホンノりと染めながら追羽子や百人一首、繪合せかるた、いろはかるた、双六などに笑ひ興じつゝ松の內を過ごすのである。

銀ブラの世の中

二三年前までのお局は女官の一人出は絕對に許可されぬ位嚴重であつたが、昨今では時代的に開放主義となり高等女官たる『旦那』のお許しさへ得れば自由に出入が出來、今日では芝居や活動はおろか銀座までも見物に出かけ學校出のオシヤン下女などは銀ブラとまで洒落込んだのもある、而し午後十時までといふのが御門限でそれまでにはお局へ歸らなければならぬ掟で時間過ぎになると、かたくなな門衛の衛手に氏名や年齡を嚴重に問ひ質されるのだそうだ

女官の役目階級

世間では宮中の女官と申せば、どんな仕事をするのかと異常な興味をもつてゐるものもあるが大正の御代になつては格別に大した御用もない、女官には高等官、判任官其下に雇員格の針妙下女などの下働きが約百四五十名餘りもゐるが兩陛下の御前に出て御服のお召替へ、御髪部の上げ下げ、お髪直しと御身邊のことを一切承はるのは高等女官だけである、判任以下の女官達はみんな一區となつて『お局部屋』に日常を送つて居る、それは或は『女官部屋』とも稱されて居るのである、高等女官には尙侍、典侍、權典侍、掌侍、權掌侍、命婦、權命婦の職名があつて尙侍（親任官）に任命をされたものは居ない

典侍の上席は勅任一、二等級で侍從長格、同次席は奏任三等官に當り侍從次長格で皇后陛下の行啓の際は大抵これらの女官二人の內から御陪乘を仰付られるのである

權典侍は前記典侍の補佐役で奏任四等官、掌侍、權掌侍は侍從格で奏任五六等官、命婦は事務官補の資格で奏任七八等級である

女官になる資格

この女官になる資格は却々六ケ敷いもので婦人ならば何人でも女官になれるといふ譯のものではない、殊に高等官になるのは家柄に依つて極められ、どんなに學識があつても、どんなに偉い名家の婦人でもなれない一種の傳統があるさうだ、聞く處に依れば權掌侍以上は舊堂上華族の伯子爵家からの出身者に限られ、命婦以下は京都士族の直隷若くは社家出の婦人に限られて居る、判任女官も士族で京都出身の婦人が最も多く雇員級の針妙、下女は主として埼玉、靜岡、神奈川、近在から來て居るが之等は別に資格なく之等仕者とか現在の仕中の人々からの世話で來るのが九分通りで中には各地の女學校出の下女も居る、もとより宮中の御奉公は名譽といふのでお給金などは五圓內外といふ世間知らずの相場であるが、ただ行儀見習ひの目的で永くて一年半位奉公して歸つて行くのが普通である

男禁制のお局生活

お局即ち女官の官舍は宮城內紅葉山の下に坪數千二百坪三棟のお局の長屋建てで、一の側二の側と區別され百間廊下から大奥へ參仕するやう便利に出來てゐる、乾門通りの正面玄關の階段には紅殼塗が磨きつめられてあるのが反に眺めらるゝのみでお局の周圍は二丈餘りのコンクリートの大塀を繞らし女ばかり百四五十名で一廓をなし宛がらの女護ヶ島の觀がある、このお局の入口には嚴しい鼻眼鏡手が眼を光らして無用のものは宮內高官だらうが判任官だらうが一步も踏み込ませぬ、僅に十二三歲の給仕達のみが木戸御免といふ格である。お局へ入るには宮內省出入の御門鑑以外に內廷御門鑑といふ特別なものがなければならぬお局の正面玄關は高等女官の出入口で他は見番（受付）の居る潜り口から出入し面會者がある場合は見番の後の應接間で應答し高等官の場合は自分の部屋まで通されることもある見番の前には八百屋菓子屋呉服屋等が詰切つて、いろ〳〵の日用品を販賣して居る所はまさか宮城內とは思はれない圖である、下女は高等女官一人に二三人、針妙は一名宛附屬して主人の高等女官を『旦那〳〵』と呼んで居る、そしてこの旦那のお許しがなければ外出は出來ないのである

いまの高等女官

現在宮中に奉仕中の高等女官は左記の通りである

典侍　千種任子△正親町鍾子
權典侍　竹屋津根子△清水谷英子△千種梁子
掌侍　吉見光子
權掌侍　園祥英子△東坊城敏子△烏松千歲子
命婦　生源寺政子△富田夏子
權命婦　三善千代子△西京子△梨木止女△北村民枝
同心得　萬里小路その△大原鹿子

女官の定員は大體に於て高等女官十八名、判任女官三十名、閣雇員十名、針妙下女百四十名以內と云ふことだ、尚高等女官には呼名として源氏名を賜はり二字名は華族出一字名は士族出と區別されて典侍の源氏名『花松』、正親町權典侍は『松風』と申して、兩陛下には『花松の佐』『松風の佐』と呼ばせ給ひ權典侍以下は『何々の內侍』とお呼びになる

女官の服裝と言葉

女官達の服裝は白襟に五衣若くは緋袴かな上頭に丸帶を男のやうに結び下げ、髪は根掛髷と云ふ昔ながらの御殿女中式で時代離れのその姿で御前へ上がる、この外に洋裝も用ひられ時代の進化に從つて便宜上洋裝の女官が多くなつたさうである言葉も御飯を『おばん』饌を『お獻』鯛を『お平』といふ風な京言葉のやうでそれでなく、極めて上品な敬語『お內儀言葉』といふものを用ひて居る、而しお局の方では兩三年前から針妙、下女達は『ね』とか『よ』とか東京言葉を用ひ甚だしいのは赤い手柄の可愛い丸髷であつたが昨今ではハイカラはおろか七三耳隱しと中々シャンになつて來たといふ事である

現下婦人界の傾向

は進步か變則か

山田わか

（一）

婦人運動の結果、婦人の活動範圍が擴大したのは事實です。けれども其職業が擴大して婦人自身の並に社會の幸福の増大となつたであらうか。婦人の活動範圍が擴大すればするだけ、それだけ家庭生活が閑却して行くといふのは自然の成り行きです。そしてこれが歐米に今日著しく現れてゐる現象です。結婚が非常に減少した。そして婚姻の減少に從つて私娼が増大し且私生兒の増加となつてゐます。或統計學者は結婚を避けて自由同棲を營んでゐる男女の數を一割以上に擧げてゐます。一方歐洲全部に渡つて出產率は減ずるばかりで其最も烈しいのが白耳義、次ぎが佛蘭西其次ぎが英國と云ふ順になつてゐる。獨逸及米國も其傾向は同じだと云ふことです。

（二）

昔から今日迄健全な勞働と其れに伴ふ平和な家庭生活の神聖と云ふことは殆ど諺になつてゐましたけれども婦人論が盛んになつて以來、極端な婦人論者は家庭の仕事は凡ての仕事のうちで最も原始的なものであり、奴隷的の仕事であり人格ある婦人の手にすべきものでないと意識した結果は無數の婦人が家庭に入ることを避けるやうになりました。家庭勞働を厭ふと云ふ氣分は最早個々の婦人の感情ではなく、一つの大きな氣分として歐米には成立してしまひました。そして經濟上の都合は何であれ、アパートメントに生活し、料理屋で食事すると云ふ習慣が増加しつゝあります

どうでもこうでも外で働かねばならぬ男子の一日の疲勞を癒やす安息所なる家庭時代の生理上精神上衛生上の性質を決定する家庭と云ふ物は婦人の活動範圍が擴大するにつれて破壞しつゝあるのです

勿論、婦人論は婦人の自由又は獨立と云ふ觀念を基礎としてゐるものでありますが、其自由と云ひ獨立といふ觀念そのものが動かすべからざる原理の上に立つてゐるものであるかどうか？それは單なる一つの假定ではないかどうか？其處にはまだ〳〵大に研究しなければならない餘地があります。

（三）

要するに政治上の權利の伸長、教育の向上に付ては議論の餘地はないけれども職業の自由と云ふことに付いては大に考へなければならない。經濟上の獨立と云ふ觀念は勞働の尊嚴を蹂り躪く無視した處から來てゐます。唯物主義的乃至社會主義的傾向の人にありがちな金に換算出來ない仕事の價値を見得ない短見から來てゐるものです。且勞働とは單に經濟的な勞働ばかりであるように考へ智力的乃至精神的の仕事を無視した結果です。產業革命があつて以來、婦人達に小供が無數に產業界へ引づり込まれて行きました。實際これは何百年來の平和な生活には大變化であります。けれどもこれが婦人のために、小供のために、又男子のためにも幸福を齎したとどうしていへるでせう。從つて進步であると、どうしていへるでせう。勞働は單に金に換算出來るものばかりに限つてはならない。もつと廣い意味に解釋してそして婦人の職務の時代完成といふ仕事を最高な價値に見積らなければならない

（四）

人道は、今、婦人に正當な位置を與へることを命じて居ります。そして、それは婦人が正當な結婚を避け、家庭を輕視し、時代完成の任務を厭ふやうにするとではありません。その反對に、愛し、結婚をし、温い家庭を造り、時代完成の任務に喜んで附くやうにすることです。そして、さうするには家庭婦人の位置が男子も社會も尊敬しなければならない。そして、それは男子の女子に對する憐みであつてはならない。又、女子の容色のためであつてはならない。人道に新生命を注入し新しい道德を樹立するものとしてゞなければならない。

福壽草

松永多鶴居

◇……福壽草の名はその花の黃金色であることゝ葉の形が七福人の福祿壽に似て居ることから名付けられたものであると云はれて居るが未だ確な記錄を見たことがない

◇……我國ではお正月に用ひらるゝことから元日草、ついたち草、賀正草、幸草等と云ひ或は早春に咲くところから報春草と名付け、或はその花の外形が菊に似て居るので富士菊、志賀菊、長春菊等とも呼び時には雪の中から花を見せると云ふので雪の下、雪割草などと呼ぶ人もある。

◇……アイヌは之をクノウンノと云ふさうであるがそれはクノウンノと云ふ名の美しい姫が父神の定めた醜い土龍の神との結婚を背かなかつた爲に遂に一本の草花と變へられてしまつた。それが福壽草であると云ふので姫の名を取つてクノウンノと云ふのであると

◇……又北海道でマンサクと呼ぶのは野生の一變種の披打福壽草と稱する種類のことである。支那では側金盞花と云ふ、英語ではスプリングアドニスと云ひ、學名の首にもアドニスと云ふ語が付く。このアドニスと云ふのはギリシヤ神話にある美少年の名である。

◇……福壽草の種類はなか〳〵多い。我國に產するのはアドニスダブリカと稱する種類で、北海道にある枝打福壽草と稱せられるのは高さ三尺に達し、樹頭數千の花をつけるがそれはこの一變種である。歐洲に十一種、其の他に少し產して、米國及南半球には一種も產しない。

◇……黑龍江邊りから滿洲朝鮮にかけて產するものにアムーレンシスと云ふ黃色い小花のものがあるまだその他に種々あるけれども何れも花は小さく、形も左程愛らしからずそのまゝでは園藝的價値に乏しい。園藝的品種の多い事は日本が世界第一である。

◇……我國に於ける福壽草栽培の起元は詳でないが花壇綱目（元祿七年江戶染井の花戶伊藤伊兵衛著）に觀賞の花として載せてあるのを見ても既に其頃栽培されて居たことが解る。英國でも二百年程前にシベリヤから輸入して栽培されたと云ふ。

◇……終りに福壽草に關する面白さうな句二三を選らんで本稿を終らう。

福壽草此外の名のあらばあれ　自來
卵山に是があるかや福壽草　嵐三
色も香も名も似合しや福壽草　多代女
福壽草子も孫も見て我老ぬ　祇暮
盆栽や梅つぼみ福壽草寶　子規
張りまぜの金屏や福壽草　碧梧桐
ほつかりと日向に福壽草　一島

お正月の樂み（上）

生方敏郎

私の國は上野國の田舍の山の中であるが、一月には大抵雪が積んでゐる。大晦日からかけて元日まで雪が降りつゞいてゐることもあるし、又元日にはからりと晴れてゐても、いつだつて地面に雪の積もつてゐないなんて正月はない。そのせいか私は大晦日も正月も雪がないと、心が引立たない。寒ければ寒いほど心が勇み立ち胸がすがすがしくなる。之は一つには私の體質がすぐれてゐる。故かも知れぬが、一つは幼時に於ける正月の追憶が雪と結び付いてゐるからと思ふ。

大晦日の晩など、寒さに雪が凍てついてゐて日和下駄で步くとからころと高い音がする。それが如何にもいゝ。提灯を下げて夜おそく迄かけ取りに步く。そんな事まで何となく嬉しかつた。

十二月の十二日の夜に、私の家では例年大掃除をすることに成つてゐた。之を煤掃ひと云ふのだが、とても東京の春や秋する大掃除の樣な義理一遍のものではない、寒いので心が引締り、夜だから疊をパチ〳〵叩いても埃は見へないので少しも嫌な感じがしない。

撒錢と云つて、親が私たち子供の知らぬ間に錢を上げて床に小錢をバラ〳〵撒いて置くので、それとは知らず、私たちは疊を上げるときに散てゐるのを見て、喜んでそれを拾ふ。拾つただけは自分の物に成るのだから嬉しい。

かねて甘酒を作つて置いて、煤掃ひが終ると、それを温めて飲むそれも嬉しかつた。

餅搗はづつと押詰まつて二十八九日頃やる、まだ夜の夜中の一時ごろから搗きだして夜明けまで搗く。あの杵の音の快さと云つたらない。

元日のまだ暗い中に若水を汲み、その七五三飾のかかつてゐる手桶から水を手水盥に取つて顏を洗ふのだが、幾度三かけや四かけの薄氷が手に觸れぬことはない。水は實に手の切れるほど冷く、空氣は寒い。併し、それで心がぴりりとして、實に好い氣持に成る。

美しくお飾をした神棚に燈明を上げる。まだ暗い中にランプの下で、家內打揃ひお雜煮を食る。その前に

『お父さん、おめで度うございます』

『お母さん、おめで度うございます』

などゝ此日ばかりは改まつて、他所行きの言葉で祝詞をのべる。そして父から順々に屠蘇の杯を廻す。杯もその日は特に五七の桐の紋が大きく中に蒔まれてゐる大きい銀盃と、金の盃で矢張り桐の御紋の描かれてある朱塗の木盃を二つ……それらは明治初年に政府へ獻金をしたので、宮內省から下賜せられたもので我家の寶として普段は桐の箱に納めて簞笥に藏つてあるのを、正月にだけ出して、三ケ日屠蘇を酌むのだ。

雜煮を食べてから、書初を數枚か書いてゐる中に、もはや學校へ行く時間になる。

勿論晴服を着て、姉と兄と私と打揃ひ雪の道を分けて學校へ行く。學校の長い〳〵廊下の兩側には、生徒たちの書いた書初が上手なものから順々に下げて有る。自分のは何の邊に下がつてゐるか、それを發見するまでは胸がドキドキする。友だちや先生も既に來て見てゐるので、それらの人々に挨拶しながら、自分の書いたのは何處にあるかを探すのだ。私は字が拙いのでいつも極つて初めの方には見えず去りとて下手も下には下があるもので私のは大抵眞ん中ごろに懸かれてあつた。

式が終はると、半紙十帖ぐらゐと、半紙一帖づゝ皆と同じ樣に貰ひ歸宅する。それから直に年始に出かける近所と親類とへ書初を持參して祝詞を述べに行き、お汁粉などを馳走に成り、菓子やら半紙やら手拭やらを貰ひ、その上に、お年玉を十錢ぐらゐづつ貰ふのだ。その頃の十錢だから今の五十錢ぐらゐには當るので。それを合せて翌朝の初賣に自分の欲しいと思ふ玩具や本など買つて來る。

□□□□□書き初め□□□□□

牛の傳說

藤澤衛彥

エヂプトの傳說によると、大神オシリスは佛教にいふ閻魔大王のやうな神で、來世に於て死者を裁判する神である。大神オシリスが下界に下つて、牡牛に化生したものがアピスの神で、天から火を未だ交尾しない牝牛の上に下して、アピスの神を胎せしめた、かうして生れたのがアピスの神で、アピスの身體は額に白色の三角形があり胸に半月形があり、背に鷲形の斑があり、尾は二つに分れ、舌の下に甲蟲形の突起がある、ある黑牛に表象されてゐる。メムフイスではこの牛をヘープアピスといつて崇敬し、ヘリオポリスでは、メルルメムネヴイス又はオヌフイスとついて崇拜してゐる。それらの地方ではこの神は日の神レイの下界に化生したものであると信じて崇拜してゐるが、その時代の人たちは、牛に象つた日の神を崇拜したばかりでなく、耕作の神として、動物としての牛をも崇拜してゐる。でそうした動物崇拜の時代には日本に於ても牛を耕耘神とした時代があつた。

慶尚北道
慶州郡廳
同郡農會
同畜產同業組合
同水利組合
同普門製紙組合
職員一同

渡邊ゴムトース朝鮮發賣元
米穀貿易商
京釜線若木驛前
木場商店
渡邊ゴムトース發賣元
大邱錦町一丁目
木場商店假營業所
電話六番・電略キ・振替京三四八三番
電話一五二番・二四四番

慶尚北道
高靈郡
高靈親和會

慶尚北道玄風
玄風自動車運輸株式會社
社長 二木良延
支店 大邱幸町
出張所 大邱市場町
米力商店
電話六五・一〇三
電話三五七

慶尚北道
慶山郡廳
同郡農會
同畜產同業組合
職員一同

慶尚北道盈德郡
野城懇話會

京釜線若木驛前
米雜穀貿易商
仝永野繁太郎商店
電話五番・振替京城五九四三
電略「ナ」又ハ「ナガノ」

慶北自動車株式會社
本社 金泉驛前 電話四八・二四九・二七三番
出張所 大邱驛前 電話三六八・一〇八一番

慶尚北道
醴泉郡廳
醴泉郡農會
醴泉畜產組合
職員一同

慶尚北道
星州郡廳
同郡農會
同畜產同業組合
職員一同

慶尚北道
漆谷郡廳
同郡農會
同畜產同業組合
職員一同

各列車毎接續頭轉シ尚ホ汽車通路切符發賣ス
永川驛邑內間古村間乘合自動車
慶北永川邑內
伊藤自動車部
電話二三番

營業課目
山林苗
桑苗
其他各種苗
諸官衙各農會御用達
慶北河陽邑前
慶北種苗組合
組合員
伴山定市　小林稼太　小林德次　山本安次
柳原與吉　山口起助　谷出太郎

乙丑新年紙上名刺交換會

大橋新吉	小杉文節	平井彦三郎	荒井賢太郎	野中清	鈴木穆	武者錬三	韓相龍
恩田銅吉	櫻井小一	小河正儀	下岡忠治	[illegible]	賀田直治	有賀光豊	尾崎敬義
[illegible]	住井辰男	市原聲	津村三巴	谷多喜磨	天日常次郎	河内山樂三	井内勇
橋本高之介	[illegible]	廣崎太郎	加茂久米四	今村伊三郎	高山孝行	一ノ瀬梅	閔大植

專賣事業の現況

總督府專賣局長　青木戒三

朝鮮の煙草專賣は大正十年の創業にして各般の事項漸く其緒につき今後益々事業の進展を圖り國家財政の基礎を鞏固ならしめなければならぬのであつて改善努力すべき點は極めて多い

煙草　創業と同時に新築に著手し大正十二年三月京城工場の新式を竣行した大邱煙草製造工場は工費七十餘萬圓を投じ最新の機械と實驗を基礎とした建築であつて作業上の設備職工の衛生教養等に關する設備等は朝鮮內に於ては勿論內地に於ける諸工場に比し決して遜色はない。其外の六工場即ち京城に三ケ所、全州平壤に各一個所の分工場は民營時代の製造工場に補足修繕を施へたるものであつて諸般の設備未だ充分ならず衛生乃至作業上の方面より見て遺憾の點も少からざるを以て財政の許す限り漸次改善して行きたいと思ふ。目下七個所の工場に於て製造する煙草は口附八億三千五百萬本兩切三十一億五千百萬本刻煙草一萬八千九百六十餘貫刻煙九十七萬一千五百貫であつて其製造原料は主として朝鮮產葉煙草を以て充當する方針であるが上級品には內地黃色又は外國葉の葉を混用して居る。彼の忠州地方一帶に耕作する米國種の煙草葉黃色種は年々耕作の改良進步に伴ひ今や鮮產地の葉煙草を凌ぐが如き出來榮であつて將來一層耕作上に指導を加へ多額の輸入品を驅逐せしむることは政府の財政上よりのみならず民力涵養の點より見ても極めて必要なることゝ思ふ。

塩　朝鮮內に於ける鹽の需要は一箇年四億斤を要するも朝鮮內の生產額は天日鹽なる官鹽一億斤並に煎熬鹽たる民鹽七千萬斤にして二億三千萬斤の不足は之を朝鮮外より求むることを要するので當局に於ては大正九年以降鹽田擴張に依り鹽田を擴張し自給の政策を採りたるも偶々東亞大震災の爲め一時事業の繼續は中止せざるべからざるに至りたるは誠に遺憾とする所であるが、此の不足額は關東州、靑島其他外國の鹽輸入を以て目下何等の懸念はない、元來鹽は生活の必需品にして又他に代用品のないものであるから財力の許す限りに於て既定方針を達成するか又は他に適當なる方法に依り外鹽を待たず國內に自給するの途を講ずることは早晚實現せられなければならぬことゝ信じて居る

紅蔘　政府專賣の紅蔘は主として支那に輸出するのであるが先般來支那內亂の爲め品質が懸念したると支那人に於て多額の經費を擲く向に至りしが近時に至り販賣人の努力に依り漸漸販賣方面にも販路擴張せられたる製品の品質を改良せられたる結果今日に於て年に四萬斤內外の製造販賣を見る濫貨も一掃するに近づいて居る。紅蔘は將來に於て其販路を甚だしく增加すべきものとは考へないが特種の商品として長江一帶の富豪紳商に需要せられ又南洋印度方面に在住の支那人に對しては販路擴張の餘地あるから將來に於て販路への努力如何に依つて相當需價を保ち販路の增加を來し得べしと考ふるのである

更始一新

京畿道知事　時實秋穗

屠蘇の盃を手にし雜煮の膳に向ふとき、何物か新らしい而かも希望に充ちた感のするのは、萬人共通のことである、云ひ古した言葉ではあるが、一年の計は元旦にある我々は此の機會に於て大に覺醒する所がなければならぬと思ふ、一體同一の物は同一の價値しか有たぬ道理で、現在の自己が過去の自己と同樣であり、將來の自己が現在の自己と變らぬものであつたならば、其の拂はるべき對價の同一であるべきは

天地の公理　である、此の意味に於て、我々としては常に不斷の努力によつて自己を革新し向上さして行くことが何より肝要なことである、悠久な年の流れの中に一年一年の句切のあることは我々に取つては相當意義のあることである、過去現在未來と絕間のない時間の經過の中に、過去あり現在あり又未來のあるのも意義あることで過去の自己に對して將來の自己を向上し、昨年の我に比して本年の我を革新することは、自己發展の唯一の方法である此の意味に於て新に迎へた此の年は極めて重要な意義を有つて居り、新年初頭に於て

自己に目覺　めることは我々として最も肝要なことであると信ずる。

過ぎ去つた大正十三年は關東地方大震火災後の第一年として、復興の第一年と云はれた、人心も緊張し復興の事業も着々進捗したが、一面世界的混沌の思想界は依然として險惡に迷はしむるものがあり經濟界も依然不景氣が續いて、兎角沈滯の狀況を脫することが出來なかつた斯樣な情勢の下に葬れた大正十三年の後の本年は、國民的に又國家的に相當重大な使命を有するものと云ふてよからう、國民精神作興に關する詔勅は更に本年に於て一段の重要さを增すものがあると共に、行政財政の整理は引續いての國民經濟の立直しは、惟ふに本年に於て之が

最善の收穫　を期せねばならぬことになつて居る、何れの點から見ても更始一新の必要を感ずることは特に痛切である、我々は此の重大時機に於て國民總動員の覺悟を以て、上聖旨に對へ下國家の須要に應ずべく、不斷の努力をせねばならぬ。

昔の人の云ふた萬牛も春の去るを止むる力なしとの言葉も本年が丑の歲である丈、一層適切に吾人の刹那〳〵の努力を促すものがある樣に思はれる出來得る限り牛力を盡し、而かも撓まず屈せず、各人夫れ〳〵の使命の遂行に努めたい之が我徒の希望である。

大勢に順應して府の發達に努力したい

京城府尹　谷多喜磨

現內閣の成立と共に行財政の整理は極めて力強く高唱され實行され經濟界の極度の不況と相俟つて經濟の緊縮も財政の放漫も將又人心の浮薄も一時に收縮され相に思はれて來た、併し此の緊縮と節約とは官民の一致協力世を擧げて之が實行に努力する事に依つて今後漸次效果を現して來るのであらう既に其曙光も見えて居る際に思はるゝ、經濟界沈衰の極に處して僅少ながら明週の月もある、消極政策たる極度の財政緊縮積極政策の第一歩となり民心の動搖不離事の醸成を思想險惡の幟としてデモクラシーの日本的同化を實現せなければならない

京城府亦此の大勢に順應して緊縮と節約とを標目として進むべきは言ふ迄もない、加之國や道の財政緊縮は直接に府に影響する事となる、教育費や消防費迄非常な緊縮をせなければならない事となつて居る、其他の一般の經費は勿論出來るだけの節約を斷行せなければならぬ、是は望に已むを得ぬ次第であるのみならず政費の無駄を省くと云ふ事以外に局に當る者の人心にも非常な覺悟な氣分を與ゆるものであると思ふ、併しながら是等らに此の消極的の意味のみならず此の節約した費用を都市の發達の根本的事業に振り向けて貰ひ度いと思ふ、京城には市區改正、衛生の設備、河川の設備、其他幾多府の發達に直接重大の關係を及ぼす事業がある。

殊に市區改正事業の如きは一日を遅れゝば一日の損である、河川の設備の如きは其成否は京城府の將來の運命を左右するものとも云ひ得るのではあるまいか是等の大事業は固より短日月の間に實現すべきものではない只大正十四年中微力を盡して自己の職務を果し大正十四年末には少く共自分だけでは人事を盡したと自ら慰め得る程度に致したいものであると自ら戒めつゝあるのである。

丑年藝妓
今年の運勢

花柳易人

丑年生れの藝妓は二十五、三十七、四十九、の三つに分れて居る、その中二十五が一番多く次は三十七、四十九のものは僅かに一人しかない。四柱推命を通して十七人、その人別に今年の運勢をたてゝみる。

清水席（京）文彌　昨年から持越しの問題で苦勞する年である。然しそれに耐ゝ辛棒すると思はぬ吉運が來る。隱妓で生酒を盛ると言ふやうな捨鉢になつてはいけない。落籍の話が持上つたら辛氣で耳を傾くるも損でなし、西南に吉

仲駒（京）小照　病氣にかゝらぬやう注意すべし內氣で居るのも考へものも少しくテキハキした方が幸ひを招くしつかり勉强藝に氣が乘る年、を怠らぬが肝腎。

大和家（京）三助　酒に祟られる年である。特に暴飲暴食を謹むべし、金に緣の少ない年、然し意外な幸福が舞ひ込んで來る夜遊さぬやう注意すべし。

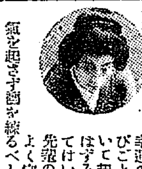
仲駒（京）小その　誘惑の多い年運、萬事先輩の指圖に從ふべし、諍ひあるべし、輕率を戒め言動に注意すること

松よし（中）金彌　特に懷孕を注意すべし、心の秘密は飽迄も固く守り時季來るを待つが肝腎、決して焦つてはいけない掌中の玉を失ふことになる病にかゝらぬ樣氣をつける事

緣家（中）玉龍　何をしても損な年、人の欺へで失敗を招く虞れがある、誘惑に乘らぬこと、南方吉

同　清香　深酒を謹み品行に注意すべき年用心すれば儲け口に當る、師匠何れも順調に進む年。

京家（新）鶴八　藝道に勵む外に氣を散してはならない、今年は特に當り年、喝采を博すべし、咽喉に注意し身體を損はぬやう用心が第一主人大事を忘れぬこと肝腎。



芳本（新）芳奴　幸運の年で喜びごとがつゞいて起るが、はずみに乘つてはいけない先輩の敎へをよく守り、短氣を起さず酒を愼るべし東南吉

叶家（東）米次　各方面から好けのいゝ年である金の蔓りも多少よくなる病氣にかゝる虞れあり、用心第一いやな人に見込まれても辛棒が肝腎

新清月（東）おきん　年をとつたからと言つて悲觀は無用、仕立てた秘蔵娘の光りが漸く出て思はぬ吉運來る、今年中引退して樂に隱居するも損なし。

第一樓（東）千代松　喜び事來る、但し金運には縁遠し、思ひかなつて泣くこと多し短氣を謹むことが肝腎。

第一樓（東）若太郎　飾り過ぎ過ぎて時々失態を招く年運であるから注意を要する、あれこれと迷ひが多く惱みの多い年である、深酒を謹しむべし

日の家（京）金蝶　まだ此の土地に馴れてないので落着きがないのは失敗の因となる、注意すべし。易は幸運を指して居る但し輕擧を謹むべし東方に吉あり。

京家　千代香　店の經營は順調に進み吉運來る再び縁談あるべし輕卒を戒め悔なきを期すこと

松よし　おはま　その活潑な性行で誤解され易い年、然し大難は來らぬから安心して可、六月以降幸運あり、樂しみに待つべし

鮮人重用

（賴相龍氏談）

諸同胞が府の行政整理と共に鮮人の重職に就かれたのを見て、今後有爲の人材を採擢して登用せらるゝ方針なりと聞くに及んで更に感謝し鮮人として滿に欣幸に堪へざる次第で、之正に融和統治に極めて有意義なる革新なりと信ずるのである

講談　出世の谷風

神田伯山

（一）

何か時節の干支に因んだ話をといふ御注文でございますが、生憎牛の講談が見當りませんので、只中へ牛が出ると云ふだけで御勘辨を願ひまして、横綱谷風梶之助の伺ひます、仙臺宮城郡荒井村霞の目百姓與左衛門伜與四郎、後來大兵で殊に肌が頗る美麗でございます、大きくなつたら力士になるだらう……力士になつたら屹度大したものだと云つて村の者も目を注けて居ました、八歲の時父與左衛門は死にまして、跡は母のおさんと二人、誠に百姓と云つた所で極々あります、水呑百姓ならまだ宜いが水呑まず百姓、名主の所へ行つて用を達し、幾らかの錢を貰つて居ります、月日に關守なく與四郎十八になりました、普通の人の二十四五位の身體もあれば力も良く出來ます名主『どうだ與四郎、こんな田舍に居たつて仕樣がねえから江戶へ出て力士になつて見る氣はねえか、力士といふ者は勝手次第の所へも出れば、又年に一度は京都へ上つて、御前相撲といふ事がある位、こんな結構な稼業はねえんだが、成る氣なら江戶へ行くだけの金は、俺が拵へてやる、又阿母の事が氣に掛るなら、汝が好い力士になるまで預かつてやらう』と云つて勸めましたが、どうも與四郎氣乘りが致しません與『ナニ私ア見たやうな不器用者が力士になれるものぢやアねえ、マア臆病が大きいから是から百姓で力業をして生涯阿母の傍に居て、樂をさせてえ譯にもゆきませんけれども、不孝さへしなけりやア宜からうと思ふから、どうぞ打捨つといて下せえ』と斷つて、何と云つて勸めても、更に聞きません、又どんな事があつても相撲などは只の一度も取つた事はございません。

（二）

或る年の事で與四郎仙臺の城下へ使に行きました、用達しをして戻り道立町と云ふ所へ來ると、向ふからワーワッといふ人聲○『危ねえ〳〵暴れ牛だ〳〵、ソレ牛が暴れ出た』ワーワッといふ騷ぎ、與四郎往來の眞ん中へノッソリ立つて見て居ると、成程向ふから一頭の暴れ牛、角を立てドッドと飛んで來る、往來の人はこけつまろびつ○『オーイいけねえ、そんな所に突立つてちやア危ねえ〳〵』與『アゝ是ア往來の妨げになる、宜うがす、私が取捉めてやらう』○『そんな事をして怪我でもすると詰らねえ』與『ナニ大丈夫です私が取捉めえてやりませう』と與四郎大手を擴げました、暴れて居た牛がヒョイと見ると、前へ若い野郎が手を擴げて立つて居る、何だ此の野郎、生意氣な眞似をする、と人間なら云ふのだが、牛だから何とも云はず、目をいからして與四郎目がけて突つ掛かつて來る、見て居た者はハッと思ふ間に與四郎は、彼の牛の兩角へ双手を掛け、ウーンと押さへた、その大力、押さへて右の方へ、グイと力を入れて牛を捻り倒さうとする、牛は倒れまいと思ふから、反對に左の方へ力を入れて居る、牛と人間の角力が始まつた、追々人が集まつて參りました、モウ兩側の屋根まで眞黑になつた甲『どうだい牛と人間の角力だ、隨分强い野郎だなまだ若いやうだが、第一奇麗な身體ぢやアないか』乙『さうでございませう、双肌脫いで力を入れて居るから、大體色の白い體へ、赤味が差して何とも云へない宜い色合だ、ウーンと一ぱいに牛に力を入れさして置いて、急に牛が力を入れて居る方へ、ヒョイと自分の力を入れた、牛奴ペテンにかゝつて己の力でドッとそれへ倒れる、それから與四郎はグイ〳〵鼻面を押付けてやりました、牛は藻搔いて了ひ、『モウ〳〵』泣して暴れませんと云つたさうで……そこで兩手を放すと牛はノソ〳〵と起上り暴れた氣色は何處へやら、ハテ俺の家は何方の方だつたかと、コソ〳〵歸つて行く、大勢の人は是を見てドッと聲を上げて誉讃す、處へノソ〳〵出て來たのは霞の目村の名主名『與四郎々々』與『ヤヤ〳〵是は名主さんでございますか』名『どうも嬉しかつた、今俺が見て居ると、皆んな見物が彼れは何處の若者だらうと云つて話をして居た、夫から俺が村方の者だと自慢をしてやつたら名主さん、我所の村には好い若い者がありますなと皆に褒められて嬉しかつた』與『アゝさうですか、名主さんも此の城下に來なすつたんで』名主『ウム俺は一寸用達に來たマア俺と一緒に來い、饂飩でも食はせるから』與『有難う存ます』

（四）

そこで與四郎を連れて饂飩屋へ參りまして名『オイ與四郎遠慮しねえでウンと食ふが宜い』與『有難う存じます』名『そこで與四郎お前に相談をするが、力士と云ふものは彼の呼吸で宜い』與『彼の呼吸と申ますと……』名『お前が彼の牛と四つ組んで居て不意に牛の力を入れて居る方へ力を入れたので牛が斃がつた彼の呼吸が出來れば力士になつたつて確だ』與『アゝさうですか私はナニそんな心算でやつたんでねえから斃生此方へヨイと力を入れてるなと思つたから、ヒョイと力を入れ返したら、引繰返りやがつた、彼んな事で相撲といふものは宜いんですかい』名『さうだ、あの呼吸ができれば相撲は宜い』與『名主さんあんな事で宜いんなら力士になつて見せうか』名『自分から其氣が出れば結構だ私が日頃いつて聞かせて居る通りだ、力士といふものは大したものだ成れ〳〵』與『併し私ア只心配なのはお母さんの身の上でがす』名『イヤそれは決して心配するな、お前が立派な關取になるまでは俺が必ず阿母の面倒は見てやるから、家の事は少しも心配しねえで、好い關取になれ』（續く）

京城本町二丁目　鳥料理　喜久家　電話本局一三八三番

京城府西界洞　京城鐵工所　電話龍山二二三番

京城黃金町三丁目　京城自動車講習所　電話本二一六〇番

三角地商友合　廉賣場一同

合名會社　盛陽社

京城府元町四丁目　天原虎彦

永登浦　殿村政義

龍山醫師會

旅客運送　手小荷物運搬　京城驛前　鶴見運送店　電話本局三九五番
市內貸切　京城南大門脇　太平自動車部　電話本局五三八六番

京城南大門脇　太平組本店　電話本局二九六番

京城旭町三丁目　太平組旭町支店　電話本局八五七番

京城光化門通遞信局脇　太平組光化門支店　電話光二二七六番

錦類、麵類、麥稈帽子、學校用品、カレンダー、各種印刷、日華生命保險會社代理店　小出商店　京城府西小門町五四番地　電話光化門一二三五番

京城府元町二　吐月　電話龍山六〇一番

京城府岡崎町八八　藤田大理石店

京城木曜會
朝鮮勸業信託株式會社
京城信託株式會社
朝鮮土地經營株式會社
京城穀物信託株式會社
株式會社證券金融社

京城府太平通二丁目　水道、煖房、衛生工事設計請負　防火
須賀商會京城支店　電話本局千八百三十五番
本店　大阪
支店　東京、名古屋、京都、神戶、福岡、大連

京城府內　官公立中等學校　以上校長會

京城府南大門通五丁目　豐國セメント株式會社
京城出張所　京城出張所主任　吉川宇造　電話長六四七番

人蔘エキス本舖　津村朝鮮館　京城本町三丁目　電話本局一四八〇番

中券番
京城券番
新檢番

田中半四郎

京城黃金町二丁目　電氣商　加藤商會京城支店　山田鈴太郎　電話本局長一四七二番　八一七九番

仁川本町 共益社仁川出張所

仁川府廳 眞野富太郎 大河内巖 遠山秀道 佐治爲敬

仁川府宮町十九番地 材木商並ニ土木建築請負業 檜崎辰之助 電話一四四番
京城府太平通二丁目十七番地 土木建築請負業 檜崎組出張所 電話本局二三七七番

仁川宮町廿七番地 仁川無盡株式會社 電話七六八番

仁川本町 仁川煙草賣捌組合 電話一三三番

仁川仲町 日鮮雜貨商 南方商店 電話長一六六番

仁川府海岸町一丁目 米穀雜貨肥料貿易商 伊野健次郎商店 電話長九〇〇番 電略(イノ)又八(イ) 受信略號ニンセンイノ

仁川本町四丁目 硝子金物商 八木商店 電話五二四番

仁川本町四丁目 藤木利右衛門 電話四〇番

仁川仲町 シンガーミシン會社 日高龜吉

仁川寺町 日用雜貨履物商 河添商店 電話一六四番

仁川 旭屋旅館 電話二五一番

仁川歌舞伎座前 二葉旅館

仁川濱町 料亭 新門 電話二〇九番

仁川濱町 仁川旅館 電話長四三五番

仁川花町 煙草製粉業 福西商店 電話三二六番

京畿道金浦郡 金浦金融組合理事 藤井輿一

京仁線素砂 金融組合理事 赤木直枝

京仁線朱安 朱安金融組合理事 増田正一

仁川 大平嘉重郎

仁川 保阪久松

仁川新町 土木建築請負業 森甚次 電話九〇八番

仁川海岸町 回漕業並通關 木村組 電話三一番

仁川 釜瀬富太

中村運送店仁川支店 荻野翁 電話一八五番

仁川教育會

仁川 土木建築請負業 沼波石松

仁川府廳 沈能德 電話參六參番

仁川質商組合

仁川 會席御料理 八坂樓

仁川 いづみや染工場

仁川本町四丁目 平山自轉車店 電話二二七番

仁川宮町 小間物化粧品商 白石商店

和洋雜貨金物足袋卸商 坂田支店 仁川新町 電話六一九番

遠藤林壽

仁川花町 三巴醤油醸造場 電話七一三番

仁川仲町 日下部陶器店 電話六五六番

仁川新町一丁目 傘提灯製造販賣 小柴商店 電話四二八番

仁川宮町 料亭 榮亭 電話四二九番

仁川 西林緣一

仁川宮町 御料理 三福 電話一七八番

仁川本町一丁目 製餅商 右田商店 電話五七一番

仁川濱町 材木商 大二商會 電話五二〇番

仁川本町 御菓子製造販賣 龍榮堂 電話一五五番

仁川支那町 洋酒雜貨販賣料理 義生盛 電話八一八番

仁川仲町 原金旅館 電話三二番

仁川本町 清水小間物店

仁川本町 花屋旅館 電話長五四三番

仁川本町二丁目 和洋雜貨商 大石季吉 電話四〇〇番

仁川宮町 漁野五郎商店 電話二二四番

仁川新町 仁川葬儀社 電話八二九番

仁川本町(佐藤病院南隣) うどんそば 辨當仕出し 正月屋

京畿道金浦 京城地方法院金浦出張所 松平和夫

京畿道江華郡 河野藤一郎

京畿道金浦郡 金浦公立普通小學校長 豐田義九郎

京仁線素砂 素砂公立普通小學校長 深田隆三

京仁線素砂 神戸正雄

京仁線朱安 精米雜穀 伴商店

京仁線朱安 面長 鄭泰潤

京仁線富平 農場主 東農場 東 敬治

仁川 中華民國領事 呉台

仁川 平山松太郎 電話一五三番

朱安鹽田協會 朱安本部員一同 南洞支部員一同 君子支部員一同

京仁線素砂 寺尾組出張所

仁川龍里 合資會社 川崎商店 電話二六六番

仁川酒造組合

仁川穀物協會 專務仲買人 田岡留吉 橋口勘右衛門 木下德三 木村爲一郎

京城府明治町 辯護士 小川勝平法律事務所 電話本局長四一番

仁川宮町 メリヤス既製洋服 古原商店

仁川各宗寺院

仁川本町四丁目 大清菓店 電話一四八番

仁川濱町 仁川木材商會 電話長三二二番

仁川宮町 雜貨卸商 木村幸三郎 電話四六番

仁川敷島町 隱塚種苗園 電話一七三番

仁川海岸町二丁目 門畑精米所 電話五二三番

仁川花町二丁目 京鹽石粉 岩崎政介商店 電話四五五番

仁川 物產客主組合

仁川宮町 松本病院 電話三四五番

仁川花町 うどんそば 菊の家 電話六三一番

仁川府海岸町三丁目 貿易商 松浪秀雄商店 電話長一七〇番 電略(マヒ)又八(ヒ)

仁川宮町 西岡俥帳場 電話六六五番

仁川本町二丁目 代書業 村田季 電話一〇〇五番

仁川本町四丁目 河野自轉車店 電話三六五番

仁川 圓中友太郎

仁川本町三丁目 北島藥房 電話二三四番

仁川本町四丁目 花井勤勞堂

仁川 岡本保誠

仁川山根町 倉車醤油釀造場 電話三三四番

仁川本町三丁目 野田齒科醫院 電話四七二番

仁川本町四丁目 藥種商 星光商會 電話二一一番

仁川宮町 青嶋茶舖 電話七〇九番

仁川仲町 佐藤病院 電話四〇九番

仁川 藤本圓藏

海運業 合資會社 浦崎商會 電話長一〇八番 五〇番

大阪商船會社 仁川支店 飯塚祇吉

仁川 後藤一郎

仁川本町二丁目 許可仁川出張所 鹽商 松永源次郎 電話長一二七番

仁川本町 海陸運送業 一心組 電話七一四番

東邦火災保險代理店 吉木油醤醸造場 仁川敷島町 電話五五二番

仁川山手町三丁目 内田英市商店 電話二二九番

仁川 石炭商組合

仁川外里 日鮮人向雜貨卸商 玉植商店 電話長六五一番

仁川本町 別府信治

仁川寺町 久木田醫院 電話七〇四番

白鶴發賣元 合資會社 増田屋商店 仁川本町三丁目 電話一〇九番 二五九番

仁川宮町 運送業 山田平作 電話三四八番

仁川本町三丁目 藤山勝芳 電話三三五番

仁川宮町 荒川醫院 電話一〇二番

仁川新町 野田紙店 電話四四四番

仁川 井上俊治

仁川本町四丁目 綿布綿糸貿易商 森伊三郎商店 電話長七二九番 振替口座京城一二七番

仁川海岸町 穀物及叺商 今井嘉三 電話長八〇九番

仁川宮町 硝子商 鈴木勝二 電話九一四番

仁川宮町 東洋軒 電話五一九番

仁川宮町 本田靴店 電話八二番

仁川仲町三丁目 度量衡器修理 特許金庫販賣 新古ストーブ 中川槌松

仁川寺町 芝モト 電話四一八番

仁川新町 仁川松函石油組合 電話七一五番

仁川海岸町 石川船具店 電話四六四番 石炭部 電話六二五番

仁川宮町 和洋雜貨 伊藤商店

仁川新町 高等食料品商 梅田市松 電話一〇三番

仁川新町 小間物商 岩見屋 電話五四〇番

仁川宮町 合資會社 岩松堂書店 電話九〇四番 振替京城四六三七番

仁川新町 清酒醤油問屋 高雄仁川支店 電話二七七番

仁川驛前 仁川公司藥部 藥種商 崔炳熙 電話八七六番

仁川本町四丁目 文房具商 中川勝美堂 電話三四一番

仁川京町 金剛たわし製造元 チトセヤ商店

仁川仲町三 仁川屋精米所 電話三四四番 安井商店 電話五一七番

仁川支那町 仁川水產株式會社 電話二八六番

仁川桃山町 煉瓦製造販賣 山野井倉次 電話一〇三三番

仁川仲町 吉岡久 電話五二一番

仁川宮町 履物問屋 村上商店 電話六一二番

仁川新町 御手製うどんそば あうむや 電話八五六番

仁川新町 堆浩 電話一三五番

仁川仲町 末永省二 電話一二七番

仁川 菊池潤三

三井物產株式會社 淺井彌六

仁川仲町 松村代書事務所 電話九四二番

仁川仲町 藤井八重藏 電話一〇一〇番

仁川本町 海運業並通關 福島組 電話五三五番

仁川仲町 壬生醫院 電話六一六番

仁川内里 赤松吉藏商店 電話長七六六番

仁川汽船株式會社 專務取締役 田中作二

仁川 桑野健治

仁川海岸町 庄野支店 山本八十次

仁川海岸町 印刷業 日進社 電話九二三番

仁川 酒類問屋 千鳥正宗仁川支店 電話三九九番

仁川新町 活動常設 瓢館 電話四〇番

内國通運株式會社 仁川支店 佐藤政一

仁川海岸町二丁目 米穀商 杉野榮八 電話長二〇二番

三菱商事株式會社 石炭取扱店 石炭商 八浪商店 仁川本町一丁目 電話八〇五番

仁川濱町 海運業 由木商會 電話九二八番

仁川呉服商組合

朝鮮繩叺株式會社 仁川出張所 電話七二五番

仁川本町三丁目 奉仕社 伴康衛 電話二四九番

日英獨提灯火藥 銃砲附屬品販賣 共榮社 仁川仲町 電話七五番

仁川濱町 千歳 電話四一四番

回漕業 野口商會 仁川海岸町 電話長一七三番

鐵道局承認運送店 稅關貨物取扱人 仁川濱町 増井運送本店 電話五三〇番 五三九番 平澤驛前出張所

仁川府司法代書事務所 古川文道 電話三四六番

仁川濱町 クケヤ鐵工所 電話六五八番

仁川府商業會議所評議員 森秀雄

鑛石製造 マルイク石鹸本舗 生田組 仁川松坂町二丁目 電話三一四番 四五八番

仁川 上田文次郎 電話九五〇番

仁川山手町 會席御料理 銀水 電話一二二番

仁川花房町 王成鴻

仁川宮町 穀物貿易商 松本要五郎 電話八一五番

仁川本町四丁目 福島邦一商店 電話長一〇一四番

仁川本町三丁目 天辰齒科醫院 電話九六八番

仁川新町 食料品問屋 中村嘉兵衛本店 電話五三七番

仁川 敷島遊廓組合

仁川宮町 洋酒煙草商 越智商會 電話七三八番

仁川本町 度量衡委託販賣 太田與吉商店 電話三二九番

仁川 中島覺之

仁川穀物協會

仁川山手町 島崎彦次郎

仁川 朝鮮燐寸會社 電話一五一番

府立 仁川病院 電話 事務用二〇一番 病室用二六四番

仁川仲町 擅上デント商會 電話六五九番

仁川龍里 張錫佑

仁川稅關食堂員一同

新年懸賞文藝發表（二）

短歌「牛」　尾上柴舟選

天（賞）　京城太平通一ノ五八　本田のぼる

雨ぐもる空の下びに遠近ゆしきりにきこゆ牛の啼く聲

地（賞）　京城光熙門町一ノ四六　寺岡梅二郎

牛賣りし厩舍の寢藁出しつゝ我默せれば父も默せり

人（賞）　平安南道平原郡漢川　蓑煎平佐

ほし草をつかみてふればあどけなう犢はわれによりて來るかも

秀逸（十三首）

◇　龍仁　田淵丘人
秣煮る香のにほへばか朝まだき牛舍の牛のさわぐけはひす

◇　仁川　上野淡雄
ほの温き牛の頸の手觸りの親しさ多となりにけるかも

◇　大田　安木松子
たづね來し人の求めに牛賣りて淋しくとざす空小屋の戶を

◇　平原　熊谷わたる
牛やれば畑の土のめり〱と耕され行くその大鋤に

◇　京城　姬野南村
霜深き南大門の朝あけを電車の鈴の音響くなり

◇　京城　石井龍史
鞭打てば僅かに動くぬかるみに深くも陷ちし牛の車輪は

◇　下關　木本白汀花
夕靄ふるころ寂しく山畑の赤き夕陽に牛と働く

◇　龍山　松永紫秋
砂丘のこのもに咲き草の原陽を浴む牛の數多なるかも

◇　京城　末田緋露子
今日も來て牛放ちやる櫟丘の芽立日にのび系たちにけり

◇　京城　河原みきを
夕せまる山蔭の田の畔のなかいまだ働く白き牛見ゆ

◇　京城　山甫生
隣より隣に行きて語るなり牝牛生れし嬉しさを兒は

◇　橫濱　荒磯浪夫
あくた浮く沼べの道の冬日ざし牛ひつたりとぬくもりてをり

◇　龍仁　穗村秀子
日南べに背を粽きやれば快げに頭さしのべ狃るゝ牛あはれ

佳作

宣寧　柚元仲郎
寮ぬくし倉庫のかたへの日當りに眼をつむりつゝ憩ふ牛かも
轍の跡油光りてなよ〱と牛の涎の續く道かな　栽寧　維吻耕治
雲晴れて朝の日ざしのめにいたき山のなだりを並み行く牛車
朝床にめざめてをればすずの音のかそかにきこゆ牛車行くらし　北青　生熊夏樹
曉光にひたれる男つゝましくもろてに牛の乳搾り居り
牛の背にたくみに乘りてあどけなき予等もつどへり川ぞひの原　奈川　西村日出夫
夜おそく牛車かへれば父も母もいそ〱として牛の世話する
勸めよりおそくかへれば牛小屋にへゝ切る皆す父にてあらむ　龍山　久保泰一
くれなずむ大川土手に耕牛の鈴のひびきをさけにけるかな
ひと六たり牛をかくみて雨へり狹間の路の月の下びに　水原　江崎美滴
ひつそりと物靜く蠅を裏山に牛の啼聲太うも響く
いと憾き疲れのあとを手にとれる牛乳のかをりはなつかしき哉　京城　石井龍史
地の底ゆ湧き出るごときあたゝかさを足に覺へて牛耕やさむ
はるばると歸ゆ出で來て夕されば吻き運れ歸る市場の門は　沃川　稲崎ひさし
人の躁今はひそみて市はてしかはたれ時に牛の鳴くなり
多の午後平並よろしき牛の背を撫でゝわが居り眞日のしづもり　京城　今野千代丸
小屋の牛じつと動かず赤々と初陽は圃の中にのぼれり

初荷積む牛のたく〱と歩みつゝ地に新たなる陽の光踏む　京城　國分三郎
多の夜は明け初めぬらし牛小屋に牛の身じろぐ氣配するかな　龍仁　穗村秀吉
新積み霜踏み來つる若牛の鼻ほの白し朝の渡船場　京城　河原みきを
積む荷に雪いただきて牛車雨晴れの町に着きにけるかも　京城　すゞらん
打日さす都をいでて秋原に遊べる牛を見つゝたぬしも　龍山　松永紫秋
融芒の風にさやなるあいま〱牛の啼く音の太く響も　京城　寺岡天涯
夕くれは草喰ふ牛も淋しきか一人畑打つ我に近づく　龍山　葛木梓
つみつめる松葉のたばにうづもりて牛は歩めり鈴をならして　京城　有馬道夫
心にもなき一打ちに疲れたる牛はも動く夕暮の路　京城　小澤水酷
田の畔に牛を殿させて親と子が掘り飯喰ふ午下りかな　京城　平田重位
初春の雪消牧場の白き牛乳はの赤きめうしなりけり　晉州　永田紫水
ひろき野の餘光のもとに鳴く子牛野守が家に入らんともせず　永川　星野澄明
燦々と初陽さしたる山の峽牛の鳴聲大きく響く　仁川　岩部剛絳
都より遊びに來たる姉の兒を抱きあやしつゝ牛小屋に來し　龍山　松永貞
深々とこめて動かぬ霧の中牧舍あらしも牛啼く聲す

京城　橋本一羊
母に添ひて右に左に跳しつゝ呼消ゆふはしき仔牛よ　金州　さとし生
動かざる牛に強たか鞭くれて蹴を急ぐ師走の町を　京城　木多のぼる
高原の霧晴れゆけば陽をうけてかたまり見ゆる牛の群かも　京城　松岡銀翠
黑き牛あえぎつゝ曳く鋤先にもりあげられて碎くる土くれ　開天　鎌倉久方子
山峽のまづしき小屋に若人の牛居り居る月あかりかも　龍山　八木鶴城
牛の負ふ松葉は山の揺る如く靜かに村の道に續くも　鎭海　吐山芳子
船も來ぬ古き港の枯野原鳥背にとめ尾をふれる牛　京城　熊谷五雲
親子牛多枯の野にたたずめり淋しき冬の夕日を浴びて　成安　濱口露香
牛の爪のわれてありとて蹄ける子を抱きしめてほほゑめる母　大阪　寺田光帝
風おちて冷えまさる夜に病む牛の唸めきをきけばせつなし我も　仁川　松永露月
爽き夜は語る友なし牛小屋にどさりと牛の臥める音も　全州　神谷竹千
ここかしこ牛の遊べる高原の秋の夕日の赤くかゞよふ　龍山　宮武作麗
牛のごと一歩〱をふみしめて貧しくも我正しく生きむ　仁川　山根孝
朝日かげほのかに及ぶ牛小屋に牛は日覺めて高鳴きにけり　瑞興　立川露旦
春の陽はまだ空高くかゝれどもかひば欲しげに牛のなくなり　下關　木本白汀花
春の日は暮るゝにおそしいづこゆかこの野つぱらに牛鳴く聞こゆ　京城　三崎松雅
牛方は大きく欠伸しのどかやかに草にねそべり煙草輪に吹く　京城　倉原芳舟
雨あとのしめり重たき田舍道牛車のわだち長く續けり　宣川　元木花城
初日影臥し居る牛の背にも似る峠くまどれば明くる年かも　京城　津田節子
たきぎ皆賣りつくしけむゆるらかに高麗人と牛とならびゆく見ゆ　京城　澤釉子
わが心牛に似たれば慰めも大き喫きを癒すに足らず　潜州　佐藤光六
若芽吹くポプラの並木はてしなく半を臥せて牛の歩めり　橫濱　小泉皐吉
牛歩む廣野の草は緑して朧の月は久しくなりぬ　京城　奈須高千代
病む母の粥溫むと厨戶に立てば戾りの牛の鈴なる　河東　津々井榮二
爽々と犢牛かたまる夕罌牧場のはてに陽は落ちにつゝ　鐘城　林田登志
厩より牛牽き出でゝ明近き曉月の空を仰ぎみるかも　仁川　白杵靈水
弱こむる枯野の原に淡き陽の照り初めにつゝ牛の蹤する　京城　伊勢戶涓水
元日や數多牛車の行き交ひし叶大道の今朝のしづもり　京城　山中新太郎
いきてゆくこの苦しみをしみじみと路ゆく牛になぐさめられつ　釜山　中山ひろし
むちあてゝ牛ひき入れし屠獸場の赤土堺に冬の日のさす　京城　木內鳥棲
草背う野は悠々と續けるに放ちし牛は陽あび勵かず　宣寧　內之浦津娛子
融芒のさゆれだになき日溜りに蟹を靜かに牛横はる　狸里　國宗鳴芳
うら〱と霞み渡れる土手の上に時折牛の尾を振るが見ゆ　土城　內川都多子
消えそむる春の野山にまだらなる牛の影する日を待ちわびぬ　長崎　加田映川
乳搾る手をまもりつゝ兒牛らは何思ふらん哀れげに啼く　水原　村田洋吉
牛の群幽り消え行く野の道のその上にある冬の空かな

京城南大門通三丁目　加藤清商店　電話本局長二五三　振替京城三三四三

京城府明治町一丁目四二　中央聯珠社朝鮮支部　八谷西海

京城府本町三丁目　村上寫眞館　電話本局四二番

繪葉書　文房具商　日之出商行　本町二ノ一三　電話本局八四八番
同　支店　本町二丁目　電話本局二三七六番

京城明治町一丁目五十四　英國製輸入商　手編毛糸並附屬品　米倉毛糸店　電話本局一三二四　一四一六番

京城永樂町二丁目　水道衞生設備工事設計請負　芳賀商會　電本一四〇一番

京城明治町二丁目　印刷彫刻　山陽堂印舖　吉谷宇八　振替京城八四四八番

京城煙草元賣捌株式會社　社長　高木德彌　電話本局長六一〇五番　一〇四番

自轉車及附屬品卸商　高居瀧三郎商店　京城黃金町二丁目　電話本局長二九六三番　振替口座京城四三八八番

中村再造　京城本町二丁目　電話本局三六五

明治鑛業株式會社　京城出張所　京城南大門通　電話長二六六番

京城驛前　滿鐵鮮鐵各官廳指定旅館　二見館　電話本局長六八八

各種電氣器具卸小賣裝飾　岡商會　京城明治町二丁目　電話本局長一一四一　振替京城六三二九番

日の丸旅館　京城明治町二ノ一五　電話本局一九八四番

京城太平町二丁目　石炭商　井上商店　電話一一一九番

京城旭町二丁目　瀨戶醫院　電話本局三二四九番　自宅電本局二七四五八番

裁縫機械各種及修繕　萬年筆　蓄音器　楠商店　京城鍾路二丁目二七（仁寺洞入口）　電話光化門一三九〇番　振替京城一三〇六番

魚仲買浦鉾商　松本繁藏　京城明治町　電話本局一千四十二番　振替京城一四五番

京城府旭町一丁目　堀運送社　京城若草町八十八番地　電話本局二九三二番

京城府旭町一丁目　池田長次郎　電話本局長六五九番

京城櫻井町一丁目　各種印刷謄寫　野津集文堂　電話本局一七二四番

龍山　松山常次郎

京城電氣株式會社　仁川支店

仁川　加來榮太郎

仁川米豆取引所仲買人組合　組合員

㋑今村覺次郎	電話 長長 三三三 六六三 八七七
尹相武	電話 一〇二九
廣澤正次郎	電話 長長 六一七 六 五〇〇
內海淑郎	電話 長 六六一 三一七 二五九
小林藤右衛門	電話 長七 二二〇 五〇 九長 長一五 二五 七八
布井嘉造	電話 長長 二三 六三 四五
坂倉伊平	電話 長 一三六 四五五 一五〇
力武黑左衛門	電話 長二長 八一一 二一七 長 七三三 六五 五二八
吉金喜三郎	電話 長長 八一 一〇 三〇 三六 六八 九五
桑野健治	電話 長 三 九
宗喜平	電話 長 五六 三〇 六二
堆浩	電話 長 一一 八六 〇三
新田義民	電話 長長長 七二四 六二〇 九〇四
松田慶之助	電話 長長 二二 八八 三二
仲買店	電話 長長 九九 一一 六五
康益夏	電話 長 一三 六三 三一

仁川精米同業組合員

馬場精米所　株式會社朝鮮精米仁川支店　力武精米所　株式會社奧田精米所　合資會社加藤精米所　合名會社吉田精米所　園田精米所　辻川精米所　直野精米所　有馬精米部　齋藤精米所　合資會社丸北精米所
（イロハ順）

[全]組大邱製糸所
片倉製糸紡績株式會社大邱製糸所
朝鮮生糸株式會社

大邱穀物商組合

京城永樂町二丁目　齋藤漆店　京城出張所　電話本局二〇四三番　振替京城二一二九番

慶尚北道　聞慶郡廳　職員一同

慶尚北道　安東郡廳　職員一同

割烹御料理　清香園　京城本町五丁目　電話本三三六〇番

慶北永川郡臨皐公立普通學校　山口伸二

京城本町二丁目　林田金次郎

大邱專賣支局　金泉出張所員

大邱印刷合資會社　大邱府上町　電話長一四六・八七七
同　東京出張所　東京京橋區築地三ノ六　電話銀座六一七三

慶尚北道廳　食堂會員一同

大興電氣株式會社　本社　大邱府　支社所在地　大邱　金泉　浦項　尚州　光州　咸興

諸機械電氣材料並ニ附屬品一式及ビ製作修理設計工事監督請負　弘中商會　大邱府村上町十番地　電話長七七二番

慶尚北道
清道郡廳並産業團體
同　警察署
同　公立普通學校
同　公立尋常高等小學校
大邱地方法院清道出張所
清道金融組合

慶北盈德郡江口　讃岐屋旅館

慶北盈德郡江口　水産業　市原重信

慶北盈德郡江口港　荷客取扱所　立花回漕部

慶北義城本町　食料品　日鮮人向諸雜貨　弘埜商店

慶尚北道義城邑內　內鮮人向諸雜貨商　青木清三郎　振替京城一一七二九番

慶北青松郡　青松學校組合管理者　渡邊鶴彦

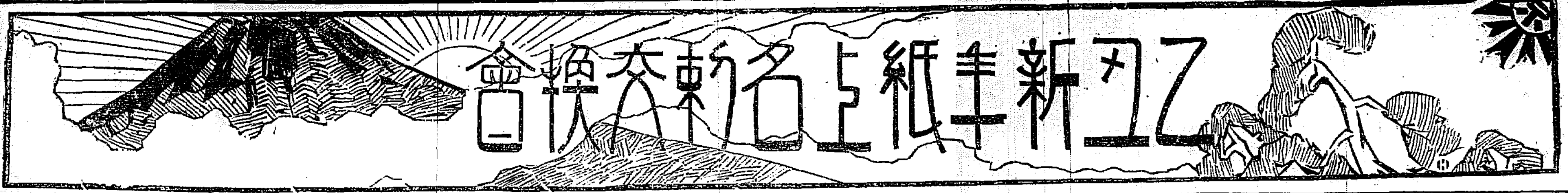
慶北咸昌　咸昌金融組合　理事　湖川

京釜線金泉　金泉郵便局有志

慶尚北道農會

慶尚北道畜産聯合會

大邱金曜會



古橋卓四郎

土居寛申

和田英正

西崎鶴一

園田寛次郎

石濱信市

上瀧基

大西伸治

松村重一郎

服部外吉

侯爵 李完用

倉橋鋕

山縣鐵之助

陳喜

荒尾直勝

横田五郎

閔泳殷

檜垣直右

川添種一郎

島田誠三

篠原喜太郎

本木房吉

[illegible]

韓翼教

河内山樂三

吾利治

松崎時之助

河井朝雄

大和與次郎

新田耕市

酒井與三吉

水沼千鶴